

編集復刻

財女性のためのアジア平和国民基金編

政府調査

「従軍慰安婦」関係資料集成 ④

国立公文書館所蔵資料
大英帝国戦争博物館所蔵資料
厚生省関係公表資料

龍溪書舎

目次 (第四卷)

一、国立公文書館 所蔵資料
大英帝国戦争博物館

【内閣・内務省関係】

一、渡支邦人暫定処理ニ関スル件〔内務省警保局長〕(昭16・8・16).....5

二、行政事務ノ整理簡捷化及中央官庁ノ権限ノ地方委譲等ニ関スル件

〔閣議決定〕(昭18・12・14).....27

三、第二次許可認可等行政事務簡捷化ニ関スル件〔閣議決定〕(昭19・1・6).....33

四、朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ件〔閣議決定〕(昭19・7・12).....43

【軍関係】

一、恤兵金ノ処分ニ関スル件〔閣議決定〕(昭7・7・19).....133

二(一) 衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕(昭8・3・21)~31).....159

二(二) 衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕(昭8・4・11)~20).....167

二(三) 衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕(昭8・4・21)~30).....173

二(四) 衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕(昭8・5・1)~10).....183

二(五) 衛生業務旬報〔混成第14旅団司令部〕(昭8・7・1)~10).....197

- 二一(六) 衛生業務旬報「混成第14旅団司令部」(昭8・7・11) 203
- 二一(七) 衛生業務旬報「混成第14旅団司令部」(昭8・8・11) 20
- 三、満州事変陸軍衛生史第四卷「陸軍省」(昭10・8・1)
- 四、北支那竝満州国視察報告「工兵第4大隊中隊長」(昭9・3)
- 五、飛行第一二連隊長ニ与フル注意事項「関東軍司令部」(昭10・7・17)
- 六、陸軍軍事警察月報「北支那派遣軍憲兵隊司令部」(昭20・8・4)
- 七、駐屯地慰安所規定「[マンダレー]駐屯地司令部」(昭18・5・26)
- 八、第五野戦輸送司令部駐屯地業務規定「[第5野戦輸送司令部]」(昭18・10・3)
- 九、「マンダレー」駐屯地業務規定「[第5野戦輸送司令部]」(昭18・10・20)
- 一〇、「マンダレー」駐屯地勤務規定「[第5野戦輸送司令部]」(昭20・1・2)

二、厚生省関係公表資料

- 一、日本派遣南方軍最高司令官宛聯合國指令書第一号「[仏領印度支那聯合國軍司令官]」(昭20・9・7)
- 二、沖繩本島ノ状況「歩兵第22連隊附軍医大尉」(昭21・1・9)
- 三、南部セレベス賣淫施設(慰安所)調書「[セレベス民政部第2復員班長]」(昭21・6・20)

343

341

339

321

305

295

281

247

241

233

217

211

203

四、法務部（GHQ）少佐からの記録要求の件〔終戦連絡事務局連絡官〕（昭22・1・9）……………361

五、「俘虜名票」に関する調査結果概要〔厚生省社会・援護局〕（平5・10・8）……………363

國立公文書館
大英帝國戰爭博物館
所藏資料

内閣・内務省関係

昭和十六年

滿支
外地
渡航
取締
例規

國立公文書館	
分類	④ ⑤
排架 番号	3 A
	15
	44-1

警保局外發甲第七二號

昭和十六年八月十六日

警保局長

例規

外發

内務省 警保局長

各廳 府 縣 長 官 殿

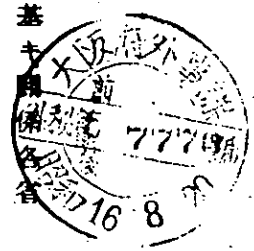
渡支邦人暫定處理ニ關スル件

邦人ノ渡支ニ關シテハ昨年五月七日閣議決定ノ方針ニ基キ閣議ノ上其ノ要領手續等決定實施中ノ處其ノ取極效次ニ臣リ追加訂正セラレタル結果稍複雑シタルニ依リ今般之ヲ整理統合シ閣議ノ通一取扱要領ヲ制定シタルニヨリ閣議決定ノ渡支邦人暫定處理ニ關スル件ニテ該閣下シ閣今其ノ取扱方右ニ依リ實施相成度

追而左ノ冬通線ハ之ヲ廢ス

一昭和十五年五月七日 警保局外發甲第三一號

渡支邦人暫定處理ニ關スル件



1

三昭和十五年五月二十二日 警保局外發甲第三五號

渡支身分證明書發給關ニ關スル件

三昭和十五年五月二十七日 警保局外發甲第四一號

青少年雇入制限令ノ適用ヲ受クベキ者ノ渡支取締方ノ件

四昭和十五年六月一日 警保局外發甲第四四號

渡支邦人暫定處理ニ關スル件

五昭和十五年八月十三日 警保局外發甲第七二號

渡支事由證明書様式改正方ニ關スル件

六昭和十五年九月十六日 警保局外發甲第七九號

渡支邦人暫定處理ニ關スル件

七昭和十五年十二月二十三日 警保局外發甲第一一五號

渡支邦人暫定處理ニ關スル證明書様式ニ關スル件

渡支邦人暫定處理ニ關スル件（昭和十五年五月七日閣議決定）

從來渡支者ニ對スル身分證明書ノ發給ニ關シテハ昭和十二年八月三十一日附米三機密合第三七七六號外務次官發各地方長官宛依命通牒「不良分子ノ渡支取締方ニ關スル件」ニ依リ取扱ヒ主トシテ本人ノ素性、經歷、平素ノ行動等ニ徴シ渡支後不正行爲ヲ爲ス虞ナキヤ否ヤヲ考慮ノ上其ノ虞ナキ者ニ限り右證明書ヲ發給シツツアリシ處該制度實施以來客年十二月末迄ニ於ケル本邦人渡支者ノ延人員ハ五十九萬人ニ達スル狀態ナリ一方現情ニ於ケル圓系通貨（滙銀券、軍票等）ノ膨脹著シク之ガ價値維持ノ必要上極力是等圓系通貨ノ氾濫ヲ防止スルノ措置ヲ講ズルハ喫緊ノ要務ナル處此種通貨ノ氾濫ヲ防止スル手段ニ關シテハ各方面ニ涉リ夫々ノ見地ヨリ詳細ニ檢討考慮ヲ要スヘキコト勿論ナルモ上記ノ渡支者ニ於テモ夫々相當ノ邦貨ヲ携行シ現地ニ於テ圓系通貨ヲ放出スル次第ニテ其ノ額ハ一ケ年間概ネ一億圓ノ巨額ニ達スル實情ナルニモ鑑ミ此方面ヨリスル圓系通貨ノ膨脹ヲ防止スルコトモ亦極メテ緊要ナリ然ルニ是等個人又ハ團體ノ

中ニハ其ノ渡支ノ目的理由等ニ徴シ必ズシモ上述ノ如キ現地ノ切迫シタル實情ヲ無視シテ迄渡支セシムルノ必要ナキ者多々有之モノト認メラルルノミナラズ觀察、慰問等ニ藉口スル不要不急ノ旅行客亦夥カラザル現状ナルニ付テハ渡支身分證明書ノ發給ニ當リテハ獨リ警察上ノ取締ニ止マラズ現地ノ實情ト睨ミ合セ在支圓系通貨放出制限ノ見地ヨリ不必要ト認ノラルル邦人ノ渡支ハ極力制限スルコト適切要ナリ。

仍テ今後ハ從來ニ於ケル不良分子ノ取締ノ外概ネ別紙ノ取扱方針ヲモ併セ實施シ不要不急ノ目的ニ出ツル支那渡航ヲ禁止シ以テ國策ノ緊急性ニ即應スルコトト致度

「別紙」

取 扱 方 針

一般ニ觀察ヲ目的トスル支那渡航ハ當分ノ間之ヲ禁止スルコトトシ其ノ他特ニ支那渡航ヲ要スルモノニ對シテハ左記ニ該當スル場合ニ

限り所轄警察署長ニ於テ身分證明書を發給シ渡航セシムルモノトス
 外地ニ於テモ本方針ニ準シ措置スルモノトス
 本方針ハ支那現地ノ事態ノ許スニ到リタルトキハ速ニ之ヲ緩和スル
 モノトス

記

一 慰問（演劇又ハ演藝ニ依ル慰問ヲ含ム）ノ爲渡支セントスル者ハ
 團體ヲ含ム）ニ就テハ豫メ陸海軍省ノ承認ヲ得タルモノ

二 家事用務ノ爲一時渡支セントスル者ニ就テハ在支關係者ノ所轄領
 事館警察署ノ證明ヲ押捺セル文書ヲ有スルモ

三 商取引ノ爲一時旅行セントスル者ニ就テハ在支關係會社、商店又

ハ取引先ノ所轄領事館警察署ノ證明ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ
 四 定住又ハ現地勤務ノ爲渡支セントスル者ニ就テハ行先地所轄領事
 館警察署ノ證明ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ又ハ在支陸海軍ノ發
 給シタル軍票タルノ身分證明書（呼寄證明書ヲ含ム）ヲ有スルモ

五 其ノ他ノ者ニシテ眞ニ已ムヲ得ザル事情アリト認ノラルルモノ

秘

取扱要領

一、日本内地及外地ヨリ觀察ヲ目的トスルモノニ非ズシテ特ニ支那邊
 航ヲ要スル一被邦人（朝鮮人、臺灣籍民ヲ含ム）ニ對シテハ左記
 ニ該當スル場合ニ限り居住地所轄警察署員ニ於テ第一號様式ノ渡
 支身分證明書ヲ發給ス

滿洲國在留者一時本邦ニ歸國シ支那ヲ經由陸前セントスルトキ亦
 同シ

(ハ) 陸軍ノ爲渡支セントスル者ハ陸軍關係ニ在リテハ聯隊區司令部
 又ハ師團司令部（經理部）ヲ經由シ陸軍省偵兵部、海軍關係ニ
 在リテハ鐵守府、海陸部又ハ地方海軍人事部ヲ經由シ海軍省軍
 務局第四課ニ各出願シ其ノ承認ヲ受ケ第二號様式ニ依ル證明書
 ナ下附セラレタル者

(ロ) 近親者ノ葬儀及葬儀準備ニ已ムヲ得ザル場合及本邦在學中ノ支
 那在住者ノ子女學中休暇ヲ利用シ親許ニ赴ク者等該專用券ノ爲
 一時渡支セントスル者ニシテ在支關係者ノ所轄領事館發給要領

昭和十七年七月二十九日
軍務局外令(第十七号)
ニテ改正ノ旨通達

給ニ係ル第三號様式ニ依ル證明書ヲ所持スル者但シ支那在住者ノ妻子ニシテ本邦ニ居住スル者夫又ハ親屬ニ一時渡支セントスル者ハ緊急ノ場合ノ外之ヲ認メザルモノトス

(イ) 在支關係會社商店又ハ取引先トノ間ニ現實ニ商行爲存在シ又ハ具体的ナル商業進出者ニシテ渡支セザルハ假ニ處理シ難キ事情アル商取引ノ場合ニ於テ在支所轄領事館警察署發給ノ證明書ヲ所持スル者

但シ渡支後該領事館管轄地域ニ亙リ放行セントスル者ハ其ノ一領事館警察署發給ノ證明書ヲ所持スルヲ以テ足ル

(ニ) 半永久的ニ支那ニ居住シ具體的動機ト所要ノ準備トヲ以テ一般實務ニ從事又ハ在支商社ニ勤務スル者及其ノ家族(内縁關係ニアル配偶者ヲ家事使用人ヲ含ム)ニシテ行先地所轄領事館警察署發給ノ證明書ヲ所持スル者

(内) 現地軍ノ採用ニ係ル軍屬又ハ酒場人ニシテ陸軍ニ在リテハ在支派遣高等司令部、憲兵隊事務機關(海軍ニ在リテハ艦隊司令

及軍械問(蒙古軍及北支中支南支軍械問)以下之同

部、在勤武官、根據地隊司令部及特務部發給ニ係ル身分證明書ヲ所持スル者又ハ渡支後以上各軍關係ニ採用セララル見込ノ者ニシテ當該軍發給ノ呼寄證明書ヲ所持スル者

(ハ) 現地軍ニ配屬セララル軍屬又ハ軍雇傭人ニシテ陸海軍省ニ於テ採用セラレ陸軍省ニ在リテハ第四號様式、海軍省ニ在リテハ第五號様式ニ依ル證明書ヲ發給セラレタル者

(ト) 現地勤務ノ軍屬又ハ軍雇傭人ノ家族呼寄ニヨリ渡支セントスル者ニシテ所屬部隊長發給ノ家族呼寄許可書ヲ所持スル者

(ニ) 從軍僧、從軍神官、從軍記者、從軍畫家等ノ從軍者ニシテ陸海軍省ノ發給スル從軍免許證ヲ所持スル者

(三) 家族ノ死亡、急病其ノ他之ニ準スベキ要急ノ際ニシテ所轄領事館警察署發給ノ證明書ノ下附ヲ受クル暇ナク眞ニ已ムヲ得ザル者

(四) 政治、經濟、文化的見地ヨリ事變處理ニ直接且積極的ニ關係アル者ニ就キ興亞院又ハ外務省ニ於テ關係官廳ト協議ノ上承認セ

ラレ興亞院ヨリハ第六號様式、外務省ヨリハ第七號様式ニ依ル
證明書ヲ發給ヲ受ケタル者

(四) 一時歸國中ノ在支邦人又ハ新規渡支者ニ與ヘラレタル在支帝國

領事館發給ノ證明書ニ其ノ同伴者トシテ明記セラレタル者

但シ婚姻ノ爲一時歸國シタル者ノ身分證明書ニ「婚姻ノ爲歸國

スル」旨記載アリタルトキハ配偶者ノ氏名、年齢等ノ明記ア

ルヲ要セズ

(五) 本邦ニ於テ婦女(藝妓、酌婦、女給等)雇入ノ爲一時歸國シタ

ル在支接客營業者ニ對シ與ヘラレタル在支帝國領事館警察署發

給ノ證明書ニ雇入員數ヲ明記セル場合其ノ員數ニ相當スル被傭

婦女

三 労働者又ハ被傭者ノ制限 青少年雇入制限令ノ適用ヲ受クル者ニシテ雇傭セラレテ渡支セン

トスル者ニ對シ渡支身分證明書ヲ發給セントスル場合ニ於テハ前

項ノ證明書ノ他ニ其ノ雇傭者ニ與ヘラレタル第八號様式ニ依ル地

方長官又ハ職業紹介所長發給ノ證明書ヲ必要トス

三、左記各號ニ該當スル渡支者ニ對シテハ警察署長渡支身分證明書ノ發給ヲ要セズ

(イ)公務ノ爲派遣セララルル官公吏（日系及招聘官公吏ヲ含ム）其ノ他ノ者及現地赴任ノ官吏ノ家族使用人ニシテ永住ノ目的ヲ以テ

官吏ノ任地ニ赴ク場合派遣官廳（公吏ニ對シテハ廳府縣長官）

ニ於テ發給セル第九號様式ニ依ル身分證明書ヲ所持スル者

(ロ)現役又ハ召集中ノ帝國軍人軍屬ニシテ制服ヲ着用スル者

(ハ)現役又ハ召集中ノ帝國軍人軍屬制服以外ノ略服ヲ着用スル者ニ

シテ陸軍ニ在リテハ第一〇號様式ニ依ル所屬隊長、海軍ニ在リ

テハ第一一號様式ニ依ル所屬廳長ノ發給スル身分證明書ヲ所持

スル者

(ニ)帝國政府發給ノ支那渡航旅券（臺灣籍民ニ對シ發給スル渡航證

明書ヲ含ム）ヲ所持スル者

(ホ)正規渡航者ノ同伴者ニシテ十五才未満ノ者

(イ)一時歸國中ノ在支邦人ニシテ在支帝國領事館發給ノ證明書ヲ所

持スル者但シ一時歸國中ノ者再渡支前證明書ノ有効期間ヲ經過
レタル者ヲ除ク

四 警察署長ハ渡支身分證明書發給ニ關シテハ手数料ヲ徴收セザルモ
ノトス

五 警察署長渡支身分證明書下附ノ出願アリタルトキハ第一二號様式
ニ依ル願書ヲ徴シ本人ノ身分、職業、渡航目的、期間、關係文書
等ヲ調査シ左ノ通り取扱フベシ

(イ) 素性、経歴。平素ノ言動等不良ニシテ渡支後不正行爲ヲ爲スノ
虞アル者ト對シテハ渡支身分證明書ヲ發給セザルコト

(ロ) 關係軍、官廳發給ニ係ル文書ヲ有スル者ニ關シ詐欺ノ方法ヲ以
テ文書ヲ交付ヲ受ケタル疑アリ又ハ身分關係ニ疑義アリ其ノ他
特ニ阻止ヲ要スル場合ハ本省ニ稟議ノ上其ノ措置ヲ決スルコト
(ハ) 取扱要領一ノ(リ)ニ該當スル者ニ對シ渡支身分證明書ヲ發給セン
トスルトキハ之ヲ證スルニ足ル資料等ヲ慎重精査ノ上決スルコ
ト

(二) 渡航ヲ阻止シタル場合ハ克ク渡航制限ノ趣旨ヲ徹底セシムルコト
 (ホ) 保釋中ノ者、刑ノ執行猶豫中ノ者、刑ノ執行停止中ノ者、假出
 獄中ノ者、其ノ他裁判(檢審又ハ公判)發續中ニシテ身柄不拘
 束ノ者等渡支ヲ出願シタル場合ハ豫メ所轄檢事局ト打合ノ上許
 否ヲ決定スルコト

(ハ) 關係軍、官廳ニ於テ發給シタル證明書及其ノ他參考書類ハ許否
 決定ト同時ニ返戻スルコト

(ロ) 陸海軍省ノ許付ヲ受ケタル從軍者及興亞院又ハ外務省ノ渡支承
 認符ノ下附ヲ受ケタル者ニ對シ渡支身分證明書ノ發給ヲ拒否シ
 タルトキハ速ニ其ノ理由ヲ附シ本省ニ報告スルコト

(リ) 取扱要領ニ依ル第八號様式證明書所持者ニ對シ身分證明書ノ
 發給ヲ拒否シタル場合ハ之ヲ發給シタル道庁長官又ハ警察長
 官所長ニ證明書ノ番號及氏名ヲ通報スルコト

(リ) 年令十二年以上三十年未滿ノ男子及年令十二年以上二十年未滿
 ノ女子渡支セントスル場合ハ「青少年雇入制限令」及同關係法

令ノ適用ノ有無ニ關シ調査ヲ爲スコト

(又) 取扱要領一ノ(ウ)ニ該當スル在支接客符業者ノ本邦ニ於テ雇入レタル婦女ニ對シ渡支身分證明書ヲ與ヘントスル場合ハ各警察署毎ニ營業者ノ所持スル在支領事館警察署發給ノ證明書ニ其ノ發給セシ員數ヲ記入シ署印ヲ押捺スルコト

取扱要領一ノ(ハ)但書ニ該當スル配偶者ニ對シ渡支身分證明書ヲ與ヘントスル場合ハ婚姻ノ爲一時跨國シタル者ノ所持スル在支領事館警察署發給ノ證明書ニ配偶者ノ氏名、年令ヲ記載シ署印ヲ押捺スルコト

(四) 十五才未滿ノ同伴者ハ之ヲ世帯主其ノ他ノ引卒者ノ渡支身分證明書ニ併記シ寫眞ハ之ヲ省略スルコト

(イ) 關係係、官廳函件ニ對シ證明書ヲ下附セリタルトキハ第一三號様式ニ依ル團體渡支身分證明書ヲ發給スルコト

(ウ) 渡支身分證明書再下附ノ出願アリタル場合ハ雖ニ發給シタル證明書ニ願人ノ寫眞ヲ添附照會ノ上事實ニ相違ナキトキニ限り再

下附ヲ爲スコト

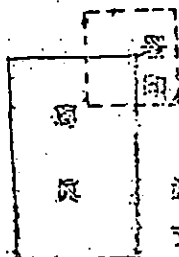
(カ) 一時歸國中ノ在支邦人ニシテ在支帝國領事館發給ノ證明書ヲ所持スル者再渡支前證明書ノ有効期間ヲ經過シタル爲證明ヲ出願シタルトキハ其ノ遲延ニ付正當ノ理由アル場合ニ限り居所又ハ出發港(航空機ノ出發地ヲ含ム)所轄警察署長ハ其ノ所持スル在支帝國領事館發給ノ證明書ニ奧符證明ヲ爲スコト

六 出發港又ハ航空機ノ出發地所轄警察署長ハ正規ノ手續ニ依ラズ又ハ一時歸國者ニシテ證明書ノ有効期間ヲ失シタル者ヲ發見シタルトキハ乗船又ハ塔乗ヲ阻止スルコト

證明書ノ發給手續ニ瑕疵アリト認めラルル場合ハ重大ナル支障ナキ限り之ヲ發給シタル關係方面ニ通報シ注意ヲ喚起スルニ止メ其ノ乗船又ハ塔乗ヲ阻止セザルコト

七 警察署長ノ發給セル渡支身分證明書ニ關シテハ第一四號様式ニ依リ毎月末日現在ヲ以テ調査シ翌月十日迄ニ本省ニ報告ノコト

渡支身分證明書



本籍

現住所

職業

一、支那へ渡航ヲ必要トスル

目的

理由

期間

右證明ス

年 月 日

警察署長官 氏

名 印

氏

生年 月 日 名

第十一號様式 (海軍省ノ分)

身分證明書

官 氏

年 月 日 生

右ハ
ノ爲ニ渡支スルモノナリ

右證明ス

昭和 年 月 日

廳長 氏 名 印

寫
眞

渡支身分證明書下附願

一 本籍

二 現住所

三 職業

四 氏名（及別名）

年 月 日生

五 兵役關係

六 支那ニ渡航ヲ必要トスル目的理由

七 渡航ノ経路及行先地

八 期間 自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日

九 關係軍官處發給證明書

一覽 支那之居住者之事實

若之通令相違無之候候渡支身分證明書發給相成度此段及碑
願候也

昭和 年 月 日

右 氏名 印

警察署長 殿

團體渡支證明書

引率責任者

署

寫眞

本籍

現住所

職業

氏

年 月 名 日生

		番 號
		住本
		所籍
		職業
		又 藝 ハ 別 名 名
		氏
		名
		年
		令

右一行

名數問ノ目的ヲ以テハ外務省又ハ興亞院ノ承認ニヨリ

和 月 日

日間ノ于定ニテ

ニ基

廳ノ權限ノ地方委讓等ニ関ス。

儿件

右閣議ニ供ス

行政事務ノ整理簡捷化及中央官廳ノ權限ノ
地方委讓等ニ關スル件

昭和十八年三月十五日
向 派 候 意

首題ノ件ニ關シテハ關係各廳及地方行政協議會長ヨリ夫々別冊ノ通
意見ノ提出アリタル處右ノ内◎印ノモノハ至急實施スルヲ適當ト認
メラルルヲ以テ各廳ハ速ニ實施ノ措置ヲトルコト

追テ右實施ヲ爲スベキモノノ種類別件數ハ別表ノ通

内

閣

官廳事務ノ簡素化等調

計	3			2					1			
	計	ハ	ホ	=	ハ	口	イ	計	口	イ		
29	6	6		1				5	17	7	10	内閣
3								3	2	1		外務
219	24	193	7	26	65		8	87	2		2	内務
592	97	310		5	257		8	40	125	40	85	大藏
8	6	2						2				陸軍
6	3	2						2	1	1		海軍
8	1	2	1		1			5	5			司法
23	31	40		2	4		18	16	2		2	文部
155	56	81	2	6	21		13	39	18	9	9	厚生
												大東亞
491	115	340		29	120	1	77	113	36		36	農商
243	33	199	34	1	122		3	39	11	1	10	軍需
167	80	62	2	1	26	3	27	3	25	12	13	運輸通信
2									2	2		會計検査院
1									1		1	貴族院
1									1		1	衆議院
1728	452	1237	46	91	616	4	154	346	249	79	170	計

厚生省關係事項

件 名	協議會 長 見	厚生省ノ措置意見	疏 考
一汚物處分手取料條例ノ認 可 一國民保健法ノ施行規則第 八條ニ依ル管轄又ハ齒科 醫籍ノ訂正 一勤勞管理ニ關スル指導統 轄事務等ヲ地方廳ニ一元	委 議	委議スルモノトス 醫籍及齒科醫籍ハ厚生省ニ關ヘオ クモノナルヲ以テ、之ガ訂正ノミ ヲ委議スルコトハ困難ナリト認ム 勞務官事務所ハ十一月一日ヲ以テ 之ヲ廢止セリ	○

一 自前内ヲ採用地ニトスル
一 派行紅年ノ追加求人
管ニ關スル大臣ノ權限勞
務調整令ニ依ルモノ

一 文部省區館學校報國隊ニ
對スル出勤命令

一 軍慰安所ニ於ケル婦女
給等ノ雇人就職ノ認可ニ
付テノ厚生大臣ヘノ稟伺
(勞務調整令ニ依ルモノ)

X 二 工場法戰時特例ニ依リ六

委 議

委 議

委 議

委 議

考究ノ上委議スルモノトス

又部省ト協賛ノ上考究スルモノト
ス

稟伺ヘ之ヲ廢止シ地方長官限リニ
テ爲サシムルモノトス

委議シ難キモノト認ム

③第二次許可認可等行政事務簡捷化ニ關スル件〔閣議決定〕（昭19・1・6）

閣甲第三號

起案

昭和十九年一月六日

閣議決定

昭和十九年

一月六日施行

昭和十九年一月六日

內閣總理大臣

內閣書記官長

內閣書記官

法制局長官

外務大臣

年

海軍大臣

天

大東亞大臣

表

出

內務大臣

天

司法大臣

天

農商大臣

天

大藏國務大臣

天

大藏大臣

天

文部大臣

天

軍需大臣

天

陸軍國務大臣

天

陸軍大臣

天

厚生大臣

天

運輸通信大臣

天

陸海國務大臣

天

別紙第二次許可認可等行政事務

簡捷化ニ關スル件
 右閣議ニ供ス

第二次許可認可等行政事務簡素化ニ關スル件

一、地方廳ニ於ケル許可認可等行政事務簡素化要望事項ニ付關係各廳ヨリ夫々意見ノ回答アリタルガ右ノ中各省（廳）ニ於テ實施ヲ可トスル事項トシテ回答アリタル別冊調査所編ノ各事項ハ各簡素化措置備其ノ他ニ記載ノ通り各總ニ於テ速ニ之ガ實施ノ措置ヲ取ルモノトス。

二、前項簡素化ノ實施ニ付テハ別冊調査ニ備考トシテ各省（廳）ノ意見ヲ記載シアル事項ハ差當リ夫々右ノ意見ノ如ク處理スルモノトス。

追テ本件簡素化實施ノ種類別件數別冊附表ノ通

關係廳迄通牒スル追言ヲ附セザルト

六、厚生省關係

一、許可認可事項

事項	根拠法令	處分行政廳	簡素化措置	理由
1 概算人歳費再教育ノ爲ニスル賜費給與許可	(昭和二三、八一、二昭和一六、三二九) 厚生省保護院事務局長通牒	知事	手帳簡易化	手帳等類中簡素化ノ要アルモノアリト認ム
2 国立公園事業特許	国立公園法第四條第二項	厚生大臣	知事委任	
3 貯蓄金管理方法認可	工場法施行令第二十五條	知事	廢止	
4 試用傭期間延長許可	同 第二十七條ノ二、第三項	同	同	
5 徒弟收容許可	同 第二十八條第四號	同	同	
6 退職積立金積立免除許可	退職積立金及退職手当法第十一條第二項	知事	廢止	労働者年金保額法ニ收收スルコト
7 利益金免除許可	同 第十七條但書	同	同	同
8 準備積立金規程許可	同 第三十條第一項	同	同	同
9 任意適用許可	同 第三條第一項	同	同	同

(厚、許1)

三 專 設 專 項

專 項	根 據 法 令	稟 請 先	申 請 者	簡 潔 化 措 置	理 由
1 無碍村診療所位置變更及同營業報酬額變更ノ稟請	昭和十二年六月一日衛第五六號衣官通牒	厚生大臣	知 事	廢 止	廢止スルモ支障ナキモノト認ム
2 國民體力法第十二條ノ一ノ規定ニ依ル指示ニ附スル承認	國民體力法施行規則第十一條ノ二	厚生大臣	知 事	稟 請 廢 止	年度初ニ豫算配付セラルル額ナラバ事前承認ヲ受ケケサルモノナリト認ララル
3 私立看護婦學校看護婦講習所指定ニ關スル稟請	大正四年九月内務省發第一三二號私立看護婦學校看護婦講習所指定ノ際取議方ニ關スル件	厚生大臣	知 事	廢 止	指定標準ニ悉キ知事指定スルモノニ付於テナシト認ム
4 國立公園管理專任職員昇給事前協議ノ件	昭和十四年八月三十日發第一八六號厚生省總務局長通知	厚生行政人口局長	同	協議廢止	事務簡便ノ爲

(厚、專1)

<p>5 昭和十七年事務職員設置ニ關スル稟議</p>	<p>6 昭和十七年事務職員設置ニ關スル稟議</p>	<p>7 方面頭等指導職員設置ニ關スル稟議</p>	<p>8 所定の必要ニ依リテ女子を入レノ場合</p>	<p>9 廢茶處理場許可ノ事 前打合</p>
<p>昭和十四年八月八日發 社第七六號 社會局長 週</p>	<p>昭和十六年三月十九日 發社第三五號 社會局長 週</p>	<p>昭和十二年四月八日發 社第三六號 社會局長 週</p>	<p>昭和十六年十二月十六日 厚生省役第一八六號 厚生本官ヨリ各地方 長官宛通牒</p>	<p>昭和十四年四月二十六日 發第一七八號 衛生局長 週</p>
<p>生活局長</p>	<p>社會局長</p>	<p>生活局長</p>	<p>厚生大臣</p>	<p>厚生大臣</p>
<p>同</p>	<p>同</p>	<p>知 事</p>	<p>同</p>	<p>同</p>
<p>稟議廢止</p>	<p>稟議廢止</p>	<p>同</p>	<p>縣内ニ限リ稟議ヲ要セス</p>	<p>同</p>
<p>廢止スルモ支認ナキモノト</p>	<p>同</p>	<p>同</p>	<p>事務ノ微速簡</p>	<p>同</p>

三

④朝鮮總督府部內臨時職員設置制中改正ノ件〔閣議決定〕(昭19・7・12)
内甲一九一

昭和十九年七月六日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

閣議承認済

内閣總理大臣	外務大臣	海軍大臣	大東亞大臣	岸國務大臣
	内務大臣	司法大臣	農商大臣	大藏國務大臣
	大藏大臣	文部大臣	軍需大臣	後藤國務大臣
	陸軍大臣	厚生大臣	運輸通信大臣	藤原國務大臣
別紙内務大臣請議朝鮮總督府部				
内臨時職員設置制中改正ノ件				

法制局

昭和十九年七月六日

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通
閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法律第七九號

(此案用紙背三ノ一號)

法制局



主任者 管理局橋爪總務課長

内務省朝管第一六〇號

朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ件

朝鮮ニ於ケル諸般行政事務ノ進展ニ伴ヒ之ガ關係職員ヲ増員スルノ要アルニ依リ朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正ノ必要ヲ認ム仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

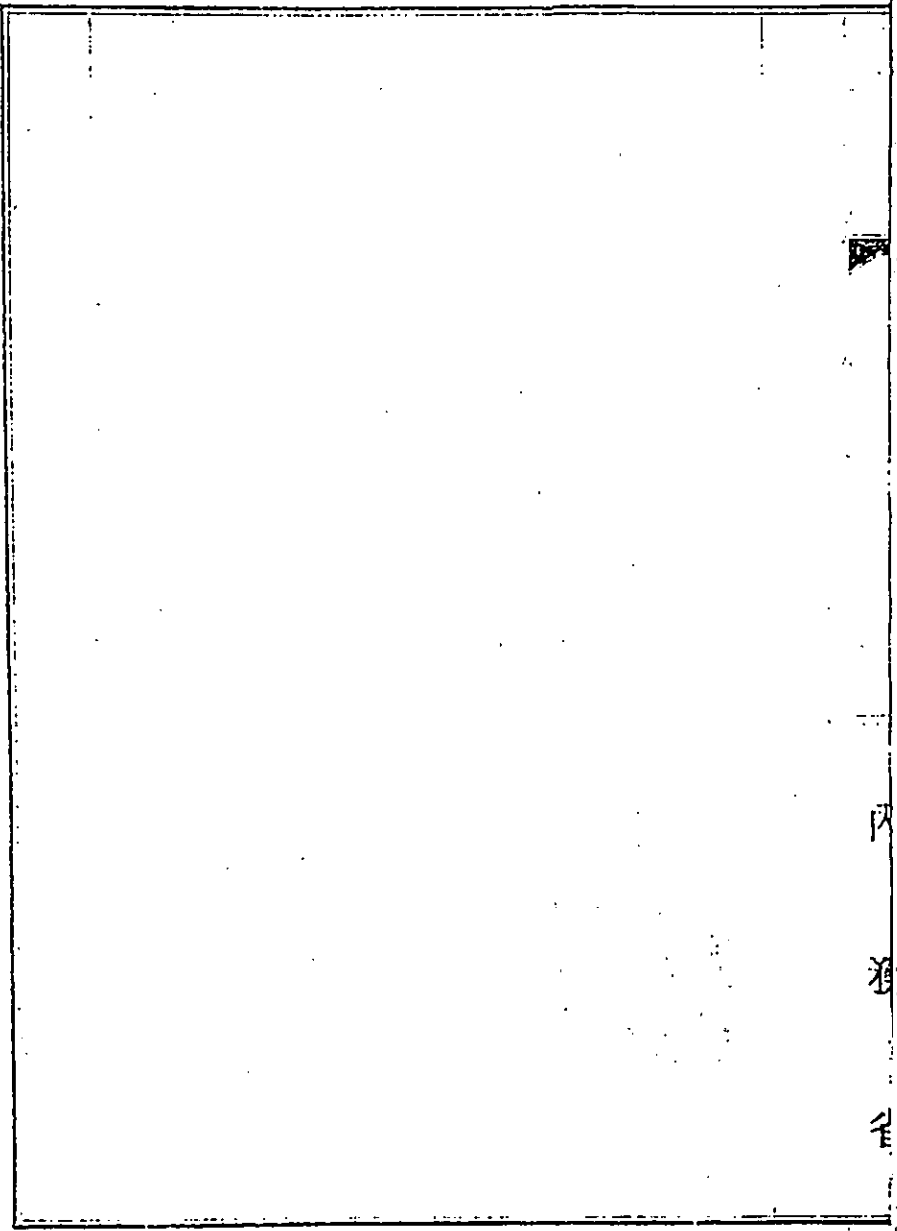
右閣議ヲ請フ

昭和十九年六月二十七日

内務大臣 安 藤 紀 三



内閣總理事大臣 東 條 英 機 殿



内
道
全

炭朝鮮總督府部內臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御 名 御 璽

昭和十九年七月十一日

內閣總理大臣

內務大臣

勅令第四百五十五號

朝鮮總督府部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條第七號ヲ左ノ如ク改ム

七 戰時特殊損害保險ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

専任一人

同條第八號中「技師 専任五人」ヲ「技師 専任六人」ニ、「技手

専任十三人」ヲ「技手 専任十四人」ニ改ム

同條第三十二號中「屬 専任三人」ヲ「屬 専任五人」ニ改ム

同條第三十三號中「事務官 専任三人」ヲ「事務官 専任四人」

ニ、「屬 技手」専任十八人」ヲ「屬 技手」専任二十人」ニ改ム

第三條第四號中「醫部 専任四十二人」ヲ「醫部 専任四十五人」

ニ、「警部補 専任百四十人」ヲ「警部補 専任百四十七人」ニ改ム

同條第十二號中「屬 専任十二人」ヲ「屬 専任十七人」ニ改ム

「理事官 専任二人」 「理事官 専任六

同條第十三號中「屬 専任百六十八人」ヲ「屬 専任百

「技手」 「技手」

人

七十四人」ニ改ム

同條第二十三號中「屬 専任九人」ヲ「屬 専任十三人」ニ改ム

第四條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 國民徵用ニ關スル事務ニ従事スル者

理由

戦時特殊損害保険、燃料選鑛、軍事援護、貯蓄奨励、經濟警察
 國民徴用、ニ關スル事務ニ從事セラルル爲ニ總督府ニ事務官一人技
 師一人屬五人技師一人ヲ、道ニ理事官四人屬十五人警部三人警部
 補七人ヲ、府郡島ニ理事官一人屬二十四人ヲ増員スルノ要アルニ
 依ル

専任十五人

同條ニ 一號ヲ加フ

九 貯蓄獎勵ニ關スル事務ニ従事スル者

理事官 専任一人

専任九人

附則

員外郎 蓄積獎勵ニ關スル事務ニ従事セシムル爲メ京城府ニ理事官専任一人ヲ置ク

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

説 明

一、燃料選鑛研究ニ關スル事務ニ従事スル者ノ増員

技 師 一人

技 手 一人

決戦下「コバルト」、「リシウム」、「鋳素」ハ各種兵器ノ重要資材タルノミナラズ醫療方面ニモ極メテ貴重ナル資源ニシテ朝鮮内各地ニ相並ギ發見セラレ其ノ量相當豊富ニ賦存セルコト判明セリ依ツテ之ガ選鑛方途ヲ確立シ資源ノ確保ヲ圖ランガ爲技師一人技手一人ヲ増員セントス

ニ、軍事扶助、傷疾軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護等ニ關スル事務ニ従事スル者ノ増員

總督府屬 二人

道 屬 五人

昭和十九年度ヨリノ朝鮮人ニ對スル徵兵制度ノ實施ニ伴ヒ軍事援

護事務ノ故増ト朝鮮人家庭ニ對スル徵兵制度ノ眞精神徹底ノ適正ヲ期スル爲總督府ニ屬二人、京畿道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、平安北道ニ天々屬一人宛ヲ増員シ事務ノ適切ナル遂行ヲ期セントス

三貯蓄獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者ノ増員

總督府事務官

一人

屬

二人

道

理事官

四人

屬

六人

府

理事官

一人

屬

九人

朝鮮ハ内地ニ比シ所得ノ割ニ扶養人口多ク又一般ニ民度低キ爲國策ノ滲漉啓發、貯蓄勸奨等ニハ豫想以上ノ困難ヲ伴ヒ昭和十九年度ニ於ケル貯蓄目標額十八億圓（十八年度十二億圓）ノ達成ニハ

一層個別的且濃密的指導督勵ヲ行フノ要アルヲ以テ總督府ニ事務官一人、道及主要都市ノ實情ニ應ジ道理事務官四人、道屬六人及府理事務官一人、府屬九人ヲ増置セントス

戰時特殊損害保蔵ニ關スル事務ニ従事スル者ノ増員

總督府屬

一人

朝鮮ニ於ケル戰時特殊損害保蔵法ノ施行ニ伴ヒ事務ノ内容著シク擴張セラレタル處、戰爭保蔵臨時措置法實施ノ際ニハ專任職員配置セザリシヲ以テ著増スベキ事務ノ圓滑迅速ナル處理ヲ期スル爲專任ノ屬一人ヲ増置セントス

兵國民徵用ニ關スル事務ニ従事スル者ノ増員

道屬

四人

郡屬

十五人

戰局ノ進展ニ伴ヒ朝鮮内務務事情ハ近時逼迫ノ度ヲ加ヘ所要勞務者確保ノ爲ニハ國民徵用令ヲ全面的ニ發動スルノ要アルヲ以テ從

來勞務給源トシテハ比較的重要視セラレザリシ西北鮮四道ニ道屬各一人及郡屬十五人増置以テ國民徵用ノ實施ニ遺憾ナキヲ期セントス

六經濟統制ニ伴フ警察事務ニ従事スル者ノ増員

道 警 部 三人

道 警 部 補 七人

朝鮮ニ於ケル戦力増強上ノ發踏就中勞務ノ不足乃至稼働率ノ低位移動ノ頻發等ニ對シ積極的施策ヲ進メ之ガ實效ヲ舉グル爲ニハ警察ノ有スル強力ナル組織網ト實踐力ヲ以テ指導協力スルノ要アルヲ以テ重要ト認メラルル京畿、平南、咸北ノ三道ニ道警部、全南慶南北、黃海平北、咸南ノ七道ニ道警部補各一人ヲ増置シ第一線ニ於ケル經濟警察機構ノ充實ヲ圖リ計畫生産ノ完遂ト治安維持ニ遺憾ナキヲ期セントス

(参照)

(朝鮮總督府部内臨時職員設置制)

朝鮮總督府部内臨時職員設置制

第一條

七 削除

八 燃料運搬研究ニ關スル事務ニ従事スル者
技術 專任五人
助手 專任一人

三十二 軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ關スル事務ニ従事スル者
專任十三人

三十三 物價調整及貯蓄奨励ニ關スル事務ニ従事スル者
專任三人

專任一人
專任三人
專任三人

技術 專任三人
專任十八人

第三條 朝鮮總督府道ニ左ノ職員ヲ置ク

四 經濟統制ニ伴フ警察事務ニ従事スル者
專任十人
專任四十二人
專任十一人
專任百四十八人

警部 專任十人
警部 專任四十二人
警部 專任十一人
警部 專任百四十八人

十二 軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ關スル事務ニ従事スル者
專任十二人

十三 物資供給調整ニ關スル事務ニ従事スル者
專任二人
專任百六十八人

二十三 國民救済ニ關スル事務ニ従事スル者
專任九人

第四條 朝鮮總督府部内ニ左ノ職員ヲ置ク

八 物資供給調整ニ關スル事務ニ従事スル者
專任百二十五人

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年勅令第八十二號

明治四十五年勅令第二十三號

大正二年勅令第九十九號
大正七年勅令第三百三十七號
大正七年勅令第三百七十一號
大正八年勅令第三百三十七號
大正八年勅令第三百五十五號
大正八年勅令第三百五十六號
大正八年勅令第三百四十一號

昭和十九年度內務省所省朝鮮總督府特別會計
 歲入歲出豫定計算書各目明細書(抄)

歲出臨時部

第四款 朝鮮臨時行政諸費

第三項 調查及研究費

二、三八七、六九五圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較增△減
一俸給	二六九、九六〇圓	二七四、二八八圓	△四、三二八圓

區別	員數	單位費額	金額
奏任俸給	1	1	八四七、二八圓
本俸	20人	1	六〇、五二〇
總督府事務官	1	三、三六〇	三、三六〇
總督府技師	1	三、〇〇〇	三、〇〇〇
	1	二、八〇〇	二、八〇〇

二、九

<p>(中路)</p> <p>判任俸給</p>	<p>本俸</p>	<p>總督府屬</p>	<p>總督府技手</p>	<p>道技手</p> <p>(後略)</p>
<p>一人</p> <p>一〇七</p>	<p>一〇七</p>	<p>一〇八</p>	<p>三七</p>	<p>三六四</p>
<p>一</p>	<p>一</p>	<p>一〇八〇</p>	<p>三〇六〇</p>	<p>一〇二〇</p>
<p>一八五二三二</p>	<p>一三二二〇〇</p>	<p>一九四四〇</p>	<p>五〇七六〇</p>	<p>三六七二〇</p> <p>四〇八〇</p>

昭和十九年度內務省所管朝鮮總督府特別會計
歲入歲出豫定計算書各目明細書(抄)

歲出臨時部

第四款 朝鮮臨時行政諸費

第十八項 軍事援護費

四一、八三二圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較増△減
一 俸 給	五五、二九六圓	三九、七四四圓	一五、五五二圓
區 別	員 數	單 位 費 額	金 額
判 任 俸 給	1人	1圓	五五、二九六圓
本 俸	三二	1	三四、五六〇
總 督 府 屬	五		五、四〇〇
道 屬	一九	一、〇八〇	二〇、五二〇
府 屬	八	六	八、六四〇

二 〇 〇 〇

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府歳入歳出
追加豫定計算書各目明細書(抄)

歳出臨時部

第四款 朝鮮臨時行政諸費

第七項 貯蓄獎勵費

二〇〇,九五二圓

一俸 給 六五,四九六

奏任俸給	1	1	二四〇二圓
本俸	1	1	一七一六〇
總督府事務官	1	三三六〇	三三六〇
道理事官	4	二七六〇	一、〇四〇
府理事官	1	二七六〇	二七六〇
加俸	1	十分ノ四	六八六圓
判任俸給	1	1	四一、四七二

二九 四 五

加	府	道	總督府	本
俸	廻	廻	廻	俸
二五九二〇圓	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	二五九二〇
十分ノ六		一〇八〇	一	一
一五五五二	一〇八〇〇	一三九六〇	二一六〇	二五九二〇

11

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府特別會計

歳入歳出追加豫定計算書各目明細書(抄)

歳出臨時部

第四款 朝鮮臨時行政諸費

一、九三六、七四三圓

第一項 總動員業務其ノ他諸費

一七、一五二

目

十九年度追加豫定額

一俸 給

一、七二八圓

區別	員數	單位費額	金額
判任俸給	一人	一〇八〇圓	一、七二八圓
本俸(總督府屬)			一、〇八〇
加俸	一、〇八〇	十分ノ六	六四八

内務省

昭和十九年度內務省所管朝鮮總督府特別會計

歲入歲出豫定計算書各目明細書(抄)

歲出臨時部

第四款 朝鮮臨時行政諸費

第十項 國民動員費

三二四八五〇二圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較増△減
給	八〇〇、一九八	七六〇、四五四	三九七、四四圓
區分	員數	單位費額	金額
(前略)	三人	11	三五、二〇八〇〇
本	三三八		一九、四四〇〇〇
總督府屬	一四	一、〇八〇	一五、一二〇
道屬	四六		四九、六八〇
(中略)			

二
三
四
五
六
七
八
九
十

府

郡

島

(後略)

屬

屬

屬

一

一

一

五八三二〇

一八七四〇

一〇八〇

二〇九六〇

一九四四〇

一〇八〇

二
P
卷
會

昭和十九年度内務省所管朝鮮總督府特別會計

歳入歳出豫定計算書各目明細書(抄)

歳出臨時部

第四款 朝鮮臨時行政諸費

第九項 經濟統制費

六、二一三、七五五圓

目	十九年度豫定額	十八年度豫定額	比較増 △減
	三、〇二七、八二八圓	二、八六四、五七〇圓	一六三、二五八圓
一 俸			

(前略)	道 警 部	四五人	一、〇八〇圓	四八、六〇〇圓
	(中略)			
(後略)	道 警 部 補	一四七	七二〇	一〇五、八四〇

二 〇 〇 〇

朝鮮總督府 府部内臨時職員取扱冊 (抄)

印へ改正ノ箇所ヲ示ス

第一隊 朝鮮總督府ニ左ノ職員ヲ置ク

戰時特殊損害係隊ニ歸スル事務ニ従事スル者

七 前除

員 專任一人

八 燃料選條研究ニ歸スル事務ニ従事スル者

技師 專任五人

員 專任一人

技手 專任十三人

三十二 軍事扶助、傷病軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事保護ニ關ス

ル事務ニ従事スル者

高等

専任三人

五

三十三

物價調整及貯蓄獎勵ニ關スル事務ニ従事スル者

書記官

専任一人

事務官

専任三人

四

理事官

専任三人

技師

専任三人

技手

専任十八人

二十

第三條 朝鮮總督府道ニ左ノ職員ヲ置ク

四 經濟統制ニ伴フ警察事務ニ従事スル者

警視

専任十人

醫部

專任 四十五人

技手

專任 十一人

醫部補

專任 百四十七人

十二 軍事扶助、傷病軍人ノ保護、職業紹介 其ノ他軍事援護ニ關ス

ル事務ニ從事スル者

應

專任 十七人

十三 物資供給調整ニ物價調整及貯蓄奨励ニ關スル事務ニ從事スル

者

理事官

專任 二人

技手

專任 百六十八人

百七十四

六

二十三 國民徵用ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

專任九人

十三

第四條 朝鮮總督府府部島モ左ノ職員ヲ置ク

國民徵用ニ關スル事務ニ従事スル者

四 削除

屬

專任十五人

八 物資需給調整ニ關スル事務ニ従事スル者

屬

專任百二十五人

九 貯蓄奨勵ニ關スル事務ニ従事スル者

理事官

專任一人

屬

專任九人

定員常員表

		本 府							官署別
各該統制ニ伴フ警察事務		貯蓄奨励			軍需扶助等	燃料鋸研研究	戰時特種持警保險	事務別	
警部種	警部	技手	職	事務官	職	技手	技師	職	官職
一四〇	四二	十	一八	三	三	一三	五	〇	現在員
七	三	十	二	一	二	一	一	一	増員
一四七	四五	十〇	二〇	四	五	一四	六	一	改正員

島 郡 府			道				
肝 蓄 奨 勵		臨 民 徴 用	臨 民 徴 用	肝 蓄 奨 勵			軍 事 扶 助 等
給 付	總 務 官	局	局	技 手	局	總 務 官	局
〇	〇	〇	九	一六八		二	一三
九	一	一五	四	六	四	五	
九	一	一五	一三	一七四	六	一七	

說
明
資
料

說明資料目次

- 第一 燃料選鑛研究ニ關スル事務ニ從事スル者ノ増員説明
- 第二 軍事扶助、傷痍軍人ノ保護、職業紹介其ノ他軍事援護ニ關スル事務ニ從事スル者ノ増員説明
- 第三 貯蓄獎勵ニ關スル事務ニ從事スル者ノ増員説明
- 第四 戦時特殊損害保險ニ關スル事務ニ從事スル者ノ増員説明
- 第五 國民徵用ニ關スル事務ニ從事スル者ノ増員説明
- 第六 經濟統帥ニ伴フ警察事務ニ從事スル者ノ増員説明

第五 國民費用ニ關スル事務ニ從事スル者ノ智員説明

國民徵用ニ關スル勞務ニ從命スル者ノ増員説明

道 四 人

郡 十五人

緊迫セル現時局下ニ於テ朝鮮ニ負何セラレタル各種重要物資生産ノ減
 少の増強ニ伴フ勞務需要ノ急激ナル増加ト取局ノ進展ニ應ジ内地其ノ
 他意外供出勞務者ノ者増等ニ依リ鮮内勞務供給ハ近時逼迫ノ度ヲ加ヘ
 所要勞務ノ確保確保メテ困難ト爲リタルニ應ミ朝鮮ニ在リテハ從來一部
 特殊ノモノヲ除キ殆ンド發効セザリシ國民徵用令ヲ全面的ニ發効シ勞
 務要員ノ圖消ナル充足ヲ圖ルコトトシタル感勞務給源トシテ比較的延
 長セザリシ西北鮮四道ニ於テモ勞務供出ヲ強化スル爲此等四道ニ道
 道各一人増員シ以テ國民徵用ノ資力ニ遺憾ナキヲ期スルノ要アリ

向父勞務關係諸法令及勞務需給論議ノ爲ノ行政措置ハ總テ府郡局ニ於
 テ實際的ニ處理運用セラレツツアルカ從來之ニ對スル職員ノ設置ハ極
 メテ少數ニシテ殊ニ西尾四郡ノ郡ニ在リテハ勞務關係職員未設置ノ
 所多ク事務執行上遺憾ノ點尠カラザリシ處今尚更ニ級上ノ待遇民衆用
 ノ大費補ニ伴ヒ第一級行政課タル郡ノ事務ハ著シク増進シ現在ノ狀
 態ニ於テハ到底之ガ萬全ヲ期シ難キニ付郡局十五人ヲ増員シ總氏採用
 圓滑ナル資補ヲ函ラントス

道府員職員ノ事務分擔表

分 担 事 項

- 一 國民徵用令ノ周知徹底ニ關スル事項
- 二 工場事業場ノ指定ニ關スル事項
- 三 徵用、徵用變更、徵用解除ノ請求又ハ申請ノ審查ニ關スル事項
- 四 出張命令書、徵用命令書、出張變更命令書、徵用取消命令書、徵用解除命令書ノ交付ニ關スル事項
- 五 出張者ノ徵査又ハ調査ニ關スル事項
- 六 出張徵査ノ支給ニ關スル事項
- 七 管理工務又ハ指定工務ニ於ケル被徵用者ノ給與ニ關スル事項
- 八 管理工務又ハ指定工務ニ於ケル被徵用者ノ從業條件ニ關スル事項
- 九 徵用セラルベキ者及被徵用者ノ徵成ニ關スル事項
- 一〇 被徵用者ノ労働管理ニ關スル事項
- 一一 徵用次期返被成ニ關スル事項
- 一二 國民徵用ニ關スル諸國並稅則ニ關スル事項

分擔員

郡増員職員ノ事務分擔表

分 擔 事 項

- 一 國民徵用令ノ周知徹底ニ關スル事項
- 二 徵用セラルベキ者ノ調査登錄ニ關スル事項
- 三 出頭命令書、徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書ノ交付ニ關スル事項
- 四 徵用セラルベキ者ノ経府及出頭者ノ徵査又ハ調査ニ關スル事項
- 五 出頭証書ノ支給ニ關スル事項
- 六 徵用者ノ搬送引單ニ關スル事項
- 七 徵用扶助証書ニ關スル事項
- 八 勞務調整令ノ周知徹底ニ關スル事項
- 九 從業員ノ編入、使用、降格、賦職、從來、退職ノ認可ニ關スル事項
- 一〇 國民動勞報國協力令ノ周知徹底ニ關スル事項
- 一一 國民動勞報國協力申請又ハ請求ノ審査ニ關スル事項

分擔職員

一

- 一三 國民勤勞報國家ノ頌成及効力ニ關スル調査統計ニ關スル事項
- 一四 國民勤勞報國家ノ効力ニ關スル監督ニ關スル事項
- 一五 國內勞務要員ノ供出等處ニ關スル事項
- 一六 勞務者ノ内地其ノ他海外供出等處ニ關スル事項
- 一七 軍要員ノ供出等處ニ關スル事項
- 一八 其ノ他勞務ノ供給調整ニ關スル事項

備
 考
 。 印ハ臨時部減員ヲ示ス

合 計	處 北	處 南	江 線	平 北	平 南
○	○	○	○	○	○
一七、 三三 九五	一八 九	一三 九〇	一 三五	一 三六	一 〇四
○	○	○		○	○
一 五	三	四		四	四
○	○	○	○	○	○
一、 三〇 四五	二八 二九	二三 三〇	一 三五	一 〇六	一 四四

道勞務課定員現員表

一九四一現在

道名	課長		課員		技手		計	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
京	○	○	○	○	○	○	○	○
思北	○	○	○	○	○	○	○	○
思南	○	○	○	○	○	○	○	○
全北	○	○	○	○	○	○	○	○
全南	○	○	○	○	○	○	○	○
廣北	○	○	○	○	○	○	○	○
廣南	○	○	○	○	○	○	○	○
黃海	○	○	○	○	○	○	○	○
平南	○	○	○	○	○	○	○	○
平北	○	○	○	○	○	○	○	○
江原	○	○	○	○	○	○	○	○
江南	○	○	○	○	○	○	○	○
江北	○	○	○	○	○	○	○	○
咸北	○	○	○	○	○	○	○	○
咸南	○	○	○	○	○	○	○	○
合計	○	○	○	○	○	○	○	○

備考。印ハ臨時部職員ヲ示ス

地 域 別	朝 野 人				考
	計	山	工	車	
本年見込員数	X 三二 〇二 〇〇 〇〇 〇〇	X 三二 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	X 一 〇六 〇五 〇〇 〇〇	X 二一 〇二 〇五 〇〇 〇〇	一 〇〇〇〇
全上中費加増数	X 八六 五〇 一〇 九一	X 八六 五〇 一〇 九一	X 二九 八三 〇〇	X 五六 六三 八〇 五一	三 七〇〇
備	X印ハ現員撤用其ノ他ハ新派撤用トス				

昭和十九年國庫使役用見込額 一六四三〇

國民徵用狀況調

道別	年次別			備考
	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	
京畿道	三八四	三八三	四九〇	徵用員數ハ全部軍關係トス
忠清北道	二三四	一九八	九九	
忠清南道	六〇八	四六五	二九〇	
全羅北道	八五一	六一七	三九四	
全羅南道	九二五	七三二	五二八	
慶尙北道	七九八	五四二	三〇四	
慶尙南道	七八五	五〇二	四八四	
黃海道	一五六	九五	七八	
平安南道		七九	七三	
平安北道		七五	五二	
江原道	一五四	九六	七九	
咸鏡南道		二三三	五八	
咸鏡北道		七九	六〇	
計	四八九五	四〇九六	二九八九	

考

昭和十九年各道別勞務補助員見込表

道名	道内助員数	道外助員数 (道外供出割當数)	引受数	計	備考
京 畿 道	45092	47124	47124	92216	道外助員数ハ道内 供出(本府管内)地 供出、軍要員供 出数ヲ合セタルモ ノトス 2本府中ニハ本府保 留員数三五〇〇人 ヲ含ム
忠 清 北 道	17497	22749		40246	
忠 清 南 道	14880	48880		63760	
全 羅 北 道	22880	26225		49105	
全 羅 南 道	22122	26275		48397	
慶 尙 北 道	17424	27275		44700	
慶 尙 南 道	41277	40733		82010	
黃 海 道	23282	10309	4430	38021	
平 安 南 道	22222	1200	22220	44442	
平 安 北 道	37112	4700	37110	84222	
江 原 道	47444	47009	400	94853	
咸 鏡 南 道	27344	4710	4710	32054	
咸 鏡 北 道	19743	4647	4647	24390	
合 計	404444	404444	107430	916318	

軍需券發賣員驗取數調

道別	年次別		見込數	備
	昭和十七年	昭和十八年		
京畿道	1895	1589	4000	
忠清北道	1092	222	1000	
忠清南道	1902	1520	4400	
全羅北道	2002	222	2400	
全羅南道	2222	1221	2200	
慶尙北道	1222	222	2200	
慶尙南道	1222	222	2200	
黃海道	2222	222	2200	
平安南道	2222	222	2200	
平安北道	2222	222	2200	
江原道	1222	222	1200	
咸鏡南道	2222	222	2200	
咸鏡北道	2222	222	2200	
計	12222	2222	40000	

州 考	計	本 府	近 畿 北 道	遠 東 兩 道	江 原 道	平 安 北 道	平 安 南 道
X印ハ引交致 O印ハ引出致 トス世シ本府引受ニ五〇ハ床留員致トス	X		X	X	X	X	X
	O		X	X	O	X	X
	X	X	X	X	O	O	X

鮮内務要勞務者 各 處 政 訓 (道 政 疏)

道別	年次別	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	備考
京 畿 道		57,242	57,242	57,242	
忠 清 北 道		11,148	11,333	11,333	
忠 清 南 道		17,288	17,288	17,288	
全 羅 北 道		17,000	17,244	17,244	
全 羅 南 道		17,244	17,000	17,244	
慶 尙 北 道		17,244	17,244	17,244	
慶 尙 南 道		17,244	17,244	17,244	
江 原 道		17,244	17,244	17,244	
平 安 北 道		17,244	17,244	17,244	
平 安 南 道		17,244	17,244	17,244	
黃 海 道		17,244	17,244	17,244	
咸 鏡 南 道		17,244	17,244	17,244	
咸 鏡 北 道		17,244	17,244	17,244	
可 同		17,244	17,244	17,244	

見 昭 和 十 九 年 政 務 報 告 第 一 卷 第 一 章 第 一 節

考

内地樺太南洋移入朝鮮人勞務者概況

年度別	區分			國民勤勞計畫 二成九計畫數	勞務許可 (勞務)申請數	勞務許可 (勞務)割當數	渡航者數	備考
	内地	樺太	南洋					
昭和十四年度	内地 8,800	樺太 8,400	計 17,200	8,800	8,400	8,800	8,800	
昭和十五年度	内地 8,800	樺太 8,400	計 17,200	8,800	8,400	8,800	8,800	
昭和十六年度	内地 8,800	樺太 8,400	計 17,200	8,800	8,400	8,800	8,800	

昭和十九年度内瑞穂太陽洋移入朝鮮人勞務者供出總數表

道 名	昭和十九年度割當數		備 考
	男	女	
	計		
京 畿 道	三九五五〇	一、四五〇	四、一〇〇〇
忠 南 道	一四、五〇〇	五〇〇	一五、〇〇〇
忠 南 道	三三八〇〇	一、二〇〇	三、五〇〇〇
金 海 道	三七七〇〇	一、三〇〇	三、九〇〇〇
金 海 道	四三、四〇〇	一、五〇〇	四、四、九〇〇
慶 尚 道	四、八〇〇	一、六〇〇	六、四〇〇
慶 尚 道	三、八二五〇	一、三五〇	三、九、六〇〇
黃 海 道	八、九〇〇	五〇〇	九、四〇〇
平 安 道	一、三〇〇	-	一、三〇〇
平 安 道	一、八〇〇	-	一、八〇〇
江 原 道	二、三二〇〇	八〇〇	三、一、二〇〇
咸 鏡 道	一、八〇〇	-	一、八〇〇
咸 鏡 道	一、〇〇〇	-	一、〇〇〇
合 計	二、九〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	三、一〇〇、〇〇〇

生産増強勞務強化対策

一 方針

現下戦前ノ推移ニ鑑ミ生産増強ハ庶肩ノ急務ナル處之ガ基本的要件
ノ一タル勞務対策ニ付勤勞總力ノ取高度發揮ヲ期スル爲テ左ノ方
策ヲ實施セントス

二 實施要領

本対策ニ於テ工場、事業場トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノトス
（一）軍作要邊、軍管理工場兵ノ他軍ノ必安ニ基キ本府ニ於テ指定スル
モノ

（二）生産力補充計畫該當工場、事業場ニシテ本府ノ指定スルモノ
（三）特ニ本府ニ於テ必安ヲ認メ指定スル工場、事業場

（一）経営対策

（一）山 事業主及勤勞者ニ對シ從來ノ勤勞觀念ヨリ脱脚シ各單位經營

ノ雇員單圖タルノ生産ヲ樹立セシムルト共ニ工場建築ニ於ケル責任者ヲシテ監督ニ任ルルノ決意ノ下ニ隊頭指揮ニ任セシムルコト

(2) 工場建築場ニ於ケル勤勞官選拔及勤勞官理ノ陣容ヲ整備セシムルコト

□ 勞務出賃對策

山崎局長は雇員ニ於ケル勞務ノ確保ヲ期スル爲ニ依リ國民家用ノ激減實施ヲ圖ルコト

消費ハ減額、貯蓄奨励等ノ重點政策ニモ該成實施スルコトトシ、費用ヲ安スル工夫ハ之ヲ原則トシテ朝鮮總督ノ直接工場トスルコト

右ノ外特ニ重要ナル礦山ニ付テモ必ズニ依リ費用ヲ賈済スルコト

- (1) 適用期間ハ當分ノ間原則トシテ一年以内トスルコト
- (2) 適用ニ當リテハ都市ニ於ケル無業者及不安定不慮雇從業者ヲ
他ニ先ンジテ適用スル如ク適用スルコト
- (3) 勤勞報國隊ノ活動ヲ左ニ依リ強化シ國民勤勞報國協力令ヲ復舊
的ニ活用スルコト
- (4) 工務ノ學業勤ニ於ケル簡易ナル作業ハ主トシテ勤勞報國隊ニ
依リ勞務ノ充實ヲ圖ル如ク運用スルコト
- (5) 都市ノ勤勞報國隊ヲモ復舊的ニ勤員スルコトトシ成ルベク同
一系統又ハ區域單位ニ之ヲ編成セシムルコト
- (6) 勤勞報國隊ニ依ル出勤員數ハ一年ヲ進シ道内全戸數ノ一割ヲ
目標トスルコト石以上ノ出勤ヲ爲シツツアル道ニ在リテハ現
在ノ出勤員數ヲ目標トスルコト
- (7) 學徒或ハ勤員臨時雇立安插ニ依リ復舊的ニ學徒ノ勤員ヲ行フ

コト

(3) 徴兵徴立ヲ受ケタル者ニシテ徵集又ハ召集セラレザルモノハ原則トシテ一定期間徴家ノ系世トスル義務ニ従事セシムル爲之ヲ勅員スルコト

(4) 學校卒業者使用制限令ノ適用ヲ受クル學校卒業者以外ノ新就學校卒業者ノ使用ヲ統制シ之ガ重點的配賦ヲ圖ルコト

(5) 女子勞務ヲ以テ支障ナキ程度ニ對シテハ勞務調整令ニ依リ男子從業者ノ雇入、使用、配賦及從業ノ禁止又ハ制限ヲ實施スルコト

(6) 主要都市ニ於ケル日曜勞務者ヲ統制シ左ニ依リ之ガ適正配賦ヲ圖ルコト

(7) 土木建築業、交通運輸業等ニ於ケル日曜勞務者、右關係業業主及勞務供給業者ヲ以テ勞務報公費（假令）ヲ課税セシムルコト

(1) 日勤労働者ノ使用ハ労働報公會ヲ進ジテ行ハシムルコト

(2) 内人ノ討込採掘者及仔勞務ヲ有效ニ利用スルコト

(3) 女子遊休努力ノ價値的活用ヲ圖ル爲左ニ依リ措置スルコト

(4) 女子ノ行住ニ適應スル職價ヲ選定シ新視學後卒業者及年時十四年以上ノ未婚者等ノ全面的幼員職訓ヲ確立スルコト

右ノ措置ニ關聯シ之ガ勤勞管理員ノ招請施設等ニ付行列ノ考慮ヲ爲スコト

(5) 労働調整令ヲ改正シ接客業、娯樂業等ニ於ケル女子青少年（概本年滿十二年以上二十五年未滿ノ者）ノ使用制限ヲ實施スルコト

同此ノ趣旨勞務調整令ノ適用ヲ受ケザル女子青少年ニシテ營業取締ヲ受クル者ハ付テハ本件ニ準ジ之ガ取締ヲ強化スルコト

労働移動防止対策

山勞務調査令ニ依ル無謀可ノ雇入、既城ノ絶無ヲ期シ之ニ違反シタル者ニ對シテハ政府方針ヲ以テ咄ムコト

(2) 勞務調整令ニ依ル従業者ノ解雇、退職ノ制限ヲ鐵山ニモ成知スルト共ニ之ガ取締ヲ強化スルコト

(3) 勞務者ノ住宅ヲ確保スルコトトシ間業促進ナル措置ニ依ラシムルコト鐵山ニ於テハ府ニ赤松村小継木等ニ依ル明雜式住宅ヲ獎勵スルコト

(4) 配給設備ヲ改善シ左ニ依リ物資ノ確保ヲ期スルコト

(1) 主要其被 勞務者一人ニ付一被定食ノ配給ヲ爲スノ外毎週日

食ニ應ジ若干ノ付配ヲ行フコト

右待遇分ニ付テハ生産増強ニ效果アラシムル如ク工場毎茶場

ニ於テ適切ナル給與ヲ成施セシムルコト

(2) 味噌、醤油、鹽等ノ供給ノ困難ヲ期スルコト

(イ) 作業用必需品等ニ作業衣、地下足袋、手拭、草子、脚絆、洗
 石、石炭、煤、時石、等ノ被先有出ラ為スコト

(ニ) 酒類、煙草ノ供給ノ圖有ラ細スルコト

(B) 左ニ依リ厚生施設ノ以テ允賃ヲ圖ルコト

(イ) 健康衛生施設ノ擴充ヲ圖ラシムルコト

(ロ) 購買組合、共済機關等ノ施設ヲ促進セシムルコト

(B) 開拓氏以外勞務者ノ渡然既支該補抑制ノ方策ヲ時スルト共ニ國
 境附近ニ於ケル勞務者ノ海外就勞ヲ奨励スルコト

四 賃金對策

(A) 勤勞能率ノ増進ヲ圖リ生産ノ向上ヲ期スル爲工場、營業場ニ於
 ケル勞務者ノ賃金ニ準力任ヲ略ムルト共ニ特ニ嶺山勞務者ノ坑
 内所賃賃金ノ増額ヲ圖ルコト

(B) 日當勞務者ノ取高賃金ヲ公定シ其ノ抑制ヲ圖ルコト

⑤ 養成対策

(1) 工場、事業場ニ於ケル仕事隊組織ノ徹底ヲ期シ、養成委員ノ設置ヲ期スルコト

(2) 事業主、経営幹部、労務監督者等ニ對シ、産業指揮者トシテノ養成ヲ期スルコト

(3) 工場、事業場ニ於ケル中堅労務者ノ養成ニ資スル為、明瞭等務隊、資道支部ノ設立ニ係ル道中並、労務者指導訓練所ヲ積極的ニ活用スルコト

(4) 工場、事業場技能者養成令ニ依ル養成義務ヲ有スル工場、事業場ニ對シテハ之が養成施設ヲ設テ強化セシムルコト

關係豫算書

科目	算出内訳	金額
<p>朝鮮臨時行政諸費 國民勳員賞 俸給</p>	<p>邦任俸給 本俸 道廳 四人各二〇八〇圓 郡廳二〇人各一〇八〇圓 加俸</p>	<p>四六六五元 四六六五六 四一四七二 二五九二〇 四三三〇 二一六〇〇 一五五五二 五一八四</p>

法制局第二部 官内参事官

本件説明内容は嚴格には警察の觀念に包摂せられざるべし。増員を警察署に配置し得るや一應の疑を存す。第三條第四號中之を加ふは「勤勞勤目^{勤勞勤目}の警察と考へらるる部分」を所掌とする職員と諒解し、且經濟統制とは物的資源のみならず人的資源の統制をも包含する觀念なりとの説明を承認する結果也。

(警察署の職權に「勤勞勤員」を加ふるは(1)統治上の影響、(2)今回増員の理由を理由として(2)統制の諒承せざる所なり。)

第六 經濟統制ニ伴フ警察事務ニ從事スル者ノ増員説明

官制改正說明資料目次

一 經濟統制ニ伴フ審察事務ニ從事スル者ノ增員說明 1 頁

二 附 表

經濟審察官增員配置表	3 頁
各道經濟審察職員定員調	4 頁
道審察部經濟審察課事務分担別定員配置表	5 頁
四大前産産業ニ關スル工場、鑛山、専業場調	6 頁
生産撥充推進計劃該當工場、鑛山、専業場調	7 頁
第一次各道別現員撤用實際狀況	8 頁
第二次各道別現員撤用實際狀況	9 頁
經濟統制令別違反取締狀況表	10 頁
國民徵用令別違反取締令違反狀況(各道別)	13 頁
勞務勸励ニ關スル流言ノ取締狀況	15 頁
關係豫算書	45 頁

臺灣稅務ニ存テ警察事務ニ從事スル者ノ増員説明

戦力増強上戦時勤勞ノ増産ハ刻下ノ急務ナル處之ガ生産ノ現況ヲ考ルニ猶稅多ノ隘路ノ存スルハ遺憾トスル處ナリ而シテ其ノ生産阻害ノ原因ハ材料、勞務、輸送力等ノ空カラザルニ存ストハ諸ヒ就中勞務ノ不足乃至總勤率ノ低位、移動ノ困難等ガ其ノ原因ナル原因ヲ爲スキノナルヲ以テ朝鮮ニ於テモ勞務所管局ニ於テ客年十月「生産増強勞務總化對策」ヲ獨立シ勤勞員ノ強化、勞務者移動防止、總勤率ノ向上、勤勞管理ノ改善等ニ關聯的の政策ヲ遂メウツアル處朝鮮ノ現狀ニ於テハ之ガ實効奏場ヲ觀スル爲ニハ勞務訂整令、臨時檢用令等法令ノ違反取締ヲ遂正強化スルト夫ニ警察ノ有スル強力ナル組織構ト統制アル實効力ヲ以テ指導協力スルコトこそ最モ効果的ナリ而シテ警察部門ニ於テハ產業經濟界ノ實在ニ連絡セル警察ニ於テ之ヲ奉ルヲ適切ト認メ客年來勞務當局ト緊密ナル連絡ヲトリ勞務對策ニ即應シテ取締ノ強化ニ依ル心刀ヲ爲シソフアル處其ノ成果見ルベキモアリ

員徵用ヲ實施シ更ニ第三次徵用ニ目下計画中ナルガ群内外ニ於ケル勞務者ノ供給確保ネキ爲ニハ勞務勸励手段ノ強化、勞務者移動防止稼働率ノ向上ハ必至ニシテ又ガ成呆ヲ發揚スル爲ニハ

ノ國民徵用令、勞務調整令違反ノ絶滅

2. 勞務ニ關スル惡質汎言ノ取締

3. 對工工場、鑛山、專業場ニ於ケル勞務者ノ就勞確保（移動防止、稼

働率向上、勞務斡旋等）ノ援助

4. 本府料及勞務者ノ供出ニ對スル協力

5. 日僑勞務者統制機關（勞務報公會）ノ指導

6. 生産増強資金政策ノ維持（資金統制令違反取締）

等警察力ヲ以テ指導取締ヲ強化スルト共ニ雄厚ナル協力援助トヲ必要トス然ルニ警察ニ於ケル既往配當職員ハ戰時下増増スル諸般ノ勞務ニ專念シ至ク餘裕ナキヲ以テ道ニ警部三名警部補七名ヲ増員シ第一線ニ於ケル經濟警察機體ノ充實ヲ圖リ綜合生産増強諸政策トノ融和ニ於テ其ノ警察的裏付ケトシテ適時適切ナル指導ヲ稱シ第一線活動ニ積極性ヲ賦與シ計画生産ノ完遂ト治安維持ニ萬遺憾ナキヲ期セントス

經濟警察官寮官増員配当表

(一九五一)

備考	合計	道名										道配当	署配当	用	合計						
		京畿道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尚北道	慶尚南道	黄海道	平安南道	平安北道					江原道	咸鏡南道	咸鏡北道			
道配当込表中ニハ幹校等勞務者供出ヲ對象トスル要員ヲ合シ	三	一																			
	七																				
	二二	三	二	二	二	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
	八八	一八	一〇	五	五	一六	九	三	三	三	二	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三
	三六	九	三	三	二	六	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一七	二	二	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一七	三	二		一	三															
	一八	四	三	一	一	五	四														
	三	一				一															
	七		一	一	一		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一一〇		二	七	六	七	一	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	

道別	警言視		警言部		技手		警言部補		内地人		朝鮮人		囑託	雇員	合計
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一			
奉天道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遼寧道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
吉林道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
黑龍江道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山東道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
河南道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
江蘇道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
安徽道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
浙江道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
江西道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福建道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣東道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣西道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雲南道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
貴州道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四川道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
陝西道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
甘肅道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
寧夏道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
青海道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

各道經濟警察官職員定員調

昭和十九年五月現在

道名別	鐵	鋼	輕金屬	石	炭	船	船	計
京畿道		二	一					二
忠清北道		七			一			八
忠清南道		二			一			三
全羅北道		一						一
全羅南道					五			五
慶尚北道		三			五			八
慶尚南道		二			一		一	四
黃海道		一			二			三
平安南道		八	三		一			一二
平安北道		五	二		三			一〇
江原道		七			七			一四
咸鏡南道		二	三					一四
咸鏡北道		五	一		三			九
合計	七	六	一	四	一	一		一六

四大重點產業及金屬工業局銷路統計表

(一九五二)

6

生産額推進計別該出工場領山事業場綱

(昭和一九四〇)

道名	非鉄金屬	石油及其 代用品	ソーダ	硫安 セメント	鐵道車輛	電力	硝酸	計
京畿道	四				三	四		一一
忠清北道	四							四
忠清南道	五							五
全羅北道	二					二		四
全羅南道	四					二		六
慶尙北道	九					一		一〇
慶尙南道	六				一			七
黃海道	一			一		一		二
平安南道	一		一	二	一			六
平安北道	一	一				二		四
江原道	一		一			二		四
咸鏡南道	二	一	二	一	一	三	一	一〇
咸鏡北道	一	三		一		二		六
合計	二八	五	四	四	七	六	一	六五

7

計	咸北	咸南	江原	平北	平南	黃海	慶南	慶北	全南	全北	忠南	忠北	京畿	道/名/位/別
	三六	六	九	三	三	三	二					二	八	工務局 役用定額
	一四		二	一			六	一	二	一				全 錫山數
	五	六	一	四	三	三	八	一	二	一	一	二	八	計
	五四二九五	四八二〇	一六九六〇	七〇八九	一、二四九	三、一六八	八、二六四	四〇六	二、五一	一、二三〇	一、〇〇一	八七八	六、七二七	工務局 役用定額
	四八七三七	四七一四	一三、九九二	六七八二	九一二	三、〇一六	八、一三八	四〇六	二、四九五	一、一七九	九〇一	八二八	五、四二〇	省日令狀 交付數
	五、五二〇	一〇六	二、九六八	三〇七	三三七	一五二	一、二六		一、二	五	一〇〇	五〇	一、二九七	全上 交付數
	90	99	82	95	73	95	98	100	99	99	90	95	81	令狀 交付
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	合計

第二次各道別役用定額

9

銅、使用制限ニ スル件	錫、錫物等使 用制限ニスル件	鉄屑、鉄屑及鉄鋸配 給統制規則	煉鉄、設備制限 規則	皮革、使用制限ニ スル件	皮革、配給統制 規則ニスル件	皮革、販賣制限ニ スル件	皮革、使用制限ニ スル件	銅、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則	錫、配給統制 規則
人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件	人件
一	二	二	二	一	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	二	四	五	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
五	五	四	七	五	三	八	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	七	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七

ス

國民教育令、勞務調整令違反狀況

(自一月至四月)

道名	國民教育令		勞務調整令		計	
	違反件數	違反人員	違反件數	違反人員	違反件數	違反人員
京 都 道	1	1	1	1	2	2
忠 清 北 道	1	1	1	1	2	2
忠 清 南 道	1	1	1	1	2	2
全 南 道	1	1	1	1	2	2
全 北 道	1	1	1	1	2	2
全 南 道	1	1	1	1	2	2
慶 尙 北 道	1	1	1	1	2	2
慶 尙 南 道	1	1	1	1	2	2
黃 海 道	1	1	1	1	2	2
平 安 南 道	1	1	1	1	2	2
平 安 北 道	1	1	1	1	2	2
江 原 道	1	1	1	1	2	2
咸 鏡 南 道	1	1	1	1	2	2
咸 鏡 北 道	1	1	1	1	2	2
合 計	10	10	10	10	20	20

等毒動員ニ因スル流首取締状況

(自一月至四月)

道	法令別		除	示
	警察	保安		
京畿道	七	二	七	七
忠清北道	一五	三〇	一五	一五
忠清南道	一五	一五	一五	一五
全羅北道	六	七	一	一
全羅南道	二六	二六	一八	一八
慶尙北道	二	二	一	一
慶尙南道	六四	六五	三七	三八
釜海道	二	二	一	一
平安南道	三	三	一	一
平安北道				
江原道	一一	一一	二	二
咸鏡南道				
咸鏡北道				
合計	一五二	一七四	四五三	四五四

科目

朝鮮臨時行政諸費

經濟稅制費

俸給

算出內譯

算出額

判任俸給

本俸

督部(乙) 一人各1080圓

督部補(甲) 七人 7200圓

加俸

精加俸督部補二人 二付一人各60圓

巡查俸給

本俸

21,850

15,010

1,840

5,180

5,020

4,280

1,200

12,620

2,500

賃	賃	經交甲) 一〇〇人各六〇〇圓	(甲) 三〇人	加 俸	宿勤加善二〇人(每人三付人各三〇圓)	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	七二〇	一〇〇〇〇〇
---	---	----------------	---------	--------	--------------------	-------	-------	-------	-----	--------

(以下省略)

軍
関
係

七月十一日

①恤兵金ノ處分ニ関スル件「閣議決定」(昭7・7・19)

陸甲第一八號

昭七 年七月十八日

決可 年 月 日 施
定 七 年 七 月 九 日 行

年 月 日

内閣總理大臣

東

内閣書記官

東

内閣書記官

東

外務大臣

東

陸軍大臣

東

文部大臣

東

逓信大臣

東

内務大臣

海軍大臣

東

農林大臣

東

鐵道大臣

東

大藏大臣

東

司法大臣

東

商工大臣

東

拓務大臣

東

別紙陸海軍兩大臣請議恤兵金ノ處分ニ関スル件ハ相當ノ儀ト被

然認ニ付請議ノ通閣議決定相成
ルベシ

指令案

恤兵金ノ處分ニ関スル件請議ノ通

昭和七年七月十九日指令

主任者

陸軍大臣 荒木貞夫 井上操 作

陸滿昔第一七四二號

恤兵金ノ處分ニ關スル件

昭和七年七月十八日

海軍大臣 岡田

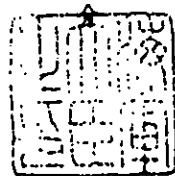
田

啓

内閣總理大臣 子爵 齋藤 實 殿

陸軍大臣 荒木 貞 夫

陸軍大臣 荒木 貞 夫



今回ノ滿洲事變ニ際シ陸海軍々人軍屬ヲ慰恤スル爲寄附ヲ受ケタル金員ハ之ヲ從來ノ戰役ノ例ニ慣ヒ出征將士ノ慰恤、遺家族ノ應急的慰鞠及救護等ニ使用シツツアルモ此ノ際此ノ多額ナル寄附金ヲ基本トシ恒久的施設トシテ財團法人ヲ組織シ必要ナル軍事的社會施設ヲ行ハシメントス此ノ交付金額二百萬

陸軍大臣

陸軍大臣

陸軍大臣

圖トシ將來値兵金ニシテ處分殘額ヲ生シタル場合モ亦右財團法人ニ交付スル
コトトシ尙財團法人組織ノ時期ノ決定ハ之ヲ陸海軍大臣ニ委任セラレ度右閣
議ヲ請フ

理由書

今回ノ滿洲事變勃發以後本年六月末迄ニ備兵金トシテ受理シタル寄附金ハ陸軍ニ於テ三百五十五萬餘圓、海軍ニ於テ五十八萬餘圓ニシテ同日迄ニ使用シタル額ハ陸軍ニ於テ七十一萬餘圓、海軍ニ於テ三十八萬餘圓差引陸海軍現存合計額三百四萬餘圓ヲ有ス此ノ多額ナル金員ヲ以テ從來ノ戰役ニ於ケルカ如ク一時的ニシテ且ツ應急的ノ慰恤及救護等ニノミ費消スルコトハ却テ寄附者ノ意思ヲ徒ラナラシムルノ虞アルヲ以テ寧ロ此ノ際其ノ餘裕ヲ以テ財團法人ヲ組織シ特ニ戰歿將士遺家族及傷損軍人ノ職業輔導生業助成其

ノ他生産的ナル軍事的社會施設ヲ行ハシメ以テ寄附者ノ意思ヲ有
效且ツ永久的ニ存續發掘セシムルヲ適當ト認ムルニ由ル

恤兵金使用一覽表(其三)

恤兵金を以て購入せし恤兵品ノ部

自一九一九年一月一日起至一九一九年三月三十一日止

品種	関東軍	奉天駐屯軍	海軍	朝鮮軍	朝鮮内地	總數量	金額	摘要
品種	一組	一組		一組	(二)	二四組	二〇〇〇〇	特許内各師団送付ノ分
東洋下								
キング	一八〇〇部	一五〇部				一九五〇部	七八〇〇〇	
富士	九〇〇部	七五部				九七五部	五九〇〇〇	
増葉書	六三〇〇〇枚	九〇〇〇枚		二二五〇〇枚		七八二〇〇枚	一六二五〇〇〇	
封紙葉書	三二二〇〇枚			九〇〇枚		三七六〇〇枚	一五〇八八〇	
つけもの	一七五〇部	二〇〇部	七五〇〇部	四〇部	六〇部	二八〇〇部	八六七〇〇	
千歳菓子			三〇〇〇部		三〇〇部	三三〇〇部	五五九七〇〇	
御所港雁			三〇〇〇部		三〇〇部	三三〇〇部	五三三三〇〇	
上海市交	一組	一組			(一五)	一八組	五四五九六〇	特許内各師団送付ノ分
藤椅子					三八組	三八組	一一〇三〇	
藤椅子					八	八	六二四〇〇	
机					六	六	二一〇〇〇	
額(画)					六	六	一三七七六〇	
郵便切手		八九〇枚				八九〇枚	一三五六五〇	
レコード					一五枚	一五枚	一六五五〇	
レコック					五箱	五箱	五〇〇〇	
レコック針				一六箱		二一箱	三一五〇	
軍歌集	甲種大八部 乙種大八部	甲種大八部 乙種大八部	九七五部	四七〇部	五箱	五三三〇部	一五三一三〇〇	
エキセロ						三葉	一一九〇	
不滅インキ							四七〇七六	
煙草			四七〇七六			四七〇七六	三五三〇〇	特許内各師団送付ノ分
菓子			一五六九部			一五六九部	四七〇七六	特許内各師団送付ノ分
汁粉			一五六九部			一五六九部	七四五五〇	
計							三九三六七〇	

恤兵金使用一覽表(其一) 現金配給一部

占五月十七日 國軍恤兵部
至六月三十日 送付十九年出納

遺族救恤費		家族救恤費		慰問金(慰問品費を含む)	
送付先	金額	摘要	送付先	金額	摘要
近衛師團 參謀長	二〇〇〇〇〇	各官用紙直 接送金	近衛師團 參謀長	一三〇〇〇	近衛師團 參謀長
第一	五〇〇〇〇	"	第七	二〇〇〇	近衛師團 參謀長
第二	七〇〇〇〇	"	第十四	一四七〇〇〇	第一
第四	五〇〇〇〇	"	第十九	一六二〇〇	第二
第五	一〇〇〇〇〇	"	中野官服改官 司令部	二〇〇〇〇	第四
第六	一〇〇〇〇〇	"	中野	二〇〇〇〇	第五
第八	七〇〇〇〇	"	函館	一五三〇〇	第六
第九	三〇〇〇〇	"	釧路	一八九八〇	第九
第十	三二〇〇〇	"			第十
第十一	一〇〇〇〇	"			第十一
第十二	三〇〇〇〇	"			第十四
第十四	二六〇〇〇	"			第十六
第十九	二六〇〇〇	"			第十九
第二十	五〇〇〇	"			陸軍運輸部長
參謀本部	一〇〇〇〇	"			宇田樺林本
陸軍副官	一〇〇〇〇	"			參謀本部
熊本憲兵隊	一〇〇〇〇	"			
樞路	一〇〇〇〇	"			
本野隊官	一〇〇〇〇	"			
石倉屋	一〇〇〇〇	"			
此年	一〇〇〇〇	"			
全澤	一〇〇〇〇	"			
大分	一〇〇〇〇	"			
合計	二三三〇〇〇			二二九四八九〇	五二八三三六六

恤兵部代
野田 一ノノ

送付先	金	額	使	途
閩東軍	三四七七	四六七	昭和六、二閩東軍司令部へ送付シ適宜分配ス	
恤兵金使用一覽表(其五) 軍馬軍用動物慰問金(部) 昭和七、五、一〇調				

種類	恤兵金使用一覽表(其四)	雜費部	昭和七、五、一〇調
郵便切手	一五四・八〇	使	師團等ヨリ遺族又ハ家族等ニ救恤金ヲ送付スル為使用シタル券料トス
謝禮用繪葉書	七六七〇・〇〇	途	金品等贈者ニ對スル謝禮用トス
寫眞帖類	六・五〇		寫眞帖作製、為見本トシテ購入
滿蒙は明竹行	三二・八〇		接待用トシテ繪葉書及小冊子購入
木札及荷札	二二九・七〇		恤兵品運送ノ爲ノ
慰問品格納箱	七・六〇		宇品糧秣廠ニ格納箱購入ス
人夫賃	二五〇・一九		恤兵品破損ヒシモノ等、梱包換等ヲシ
標記金札	一〇・五〇		恤兵品、對シ標札附着ノ多ク
自動車賃	八三・六八		勅諭下賜五十年紀念祝賀會ニ東一湯島兵招待ノタメ、及東京世征家旗狀況調査
運搬賃	一〇一・七〇		恤兵品運送ノタメ
新聞代	一六・六九		接待用トシテ
新聞挾	四・〇〇		全 右
案内用郵料	一三〇・〇〇		親兵式及靖園神社祭ニ金品等贈者ヲ招待ヒシモノ、郵料
茶碗及盆	三・四五		接待用トシテ
香茶	二・六〇		全 右
合計	八七〇四	四、二一	

恤兵金使用一覽表(其ノ中) 雜費ノ部
自五月十日 陸軍恤兵部
 至六月十日迄ノ支出額

種別	金額	使途
郵便切手	一九七・一九〇	遺家挨拶恤費送金ニ要スル郵便切手及爲替料金
人夫賃	一〇・三二二・〇	宇呂糧秣支廠ニテ使用ノ分
自動車賃	一四三・一五〇	還送患者禮狀運搬遺家族調査ノ爲使用
運搬貨	一六九・八一〇	恤兵品運賃
番茶	一三〇・〇	接待用
恤兵品郵送料金	三〇〇・〇〇〇	山砲兵等十一聯隊ノ分
禮狀筆料	八三六・九四〇	東京市職業紹介所及錦耕社
活字挾	二二五・〇〇	禮狀用トシテ
郵便切手	八四二・五四二・〇	寄附金禮狀郵便切手代 各師團司令部ノ分ニシテ
其ノ他雜品	七九五・〇〇	
合計	一〇、二八六・四三〇	

恤兵金收支累計旬報 陸軍恤兵部

昭和七年六月三十日計

科目別收支計算表

科目	區分	收入	支出	差引残額
從軍軍人	前月高	二、八六三、九〇八、〇六	四七七、四〇五、三三	二、三八六、五〇二、七四
	今月高	五、六九八、八三	五、九九七、九三	二、九九一〇
軍屬	計	二、八六九、六〇六、八九	四八三、四〇三、二五	二、三八六、二〇三、六四
	前月高	三八五、二九八、八七	一三六、九八四、五八	二四八、三一四、二九
遺族	計	二、三三七、二七	四、〇〇〇、〇〇	一、六四二、七三
	前月高	三八七、六五六、一四	一四〇、九八四、五八	二四六、六七一、五六
救恤金	前月高	二八〇、三三九、一三	六八、三六四、一	二一一、〇三三、二七
	今月高	二八〇、三三九、一三	二〇〇、〇〇	二〇〇、〇〇
家族	計	二八〇、三三九、一三	六八、三六四、一	二一一、〇三三、二七
	前月高	二八〇、三三九、一三	二〇〇、〇〇	二〇〇、〇〇
救恤金	計	二八〇、三三九、一三	六八、三六四、一	二一一、〇三三、二七
	前月高	二八〇、三三九、一三	二〇〇、〇〇	二〇〇、〇〇

陸

陸

昭和七年七月

日

海軍省經理局 桑原主計少佐



内 閣

板 橋 總 務 課 長 殿

恤兵金使用狀況ノ件通知

陸軍省井上主計正ヨリ傳言ニ係ル海軍省所管恤兵金使用狀況別紙ノ
通ニ有之候

(終)

恤兵金使用狀況一覽表（其ノ一）

六月三十日圖
海軍省經理局

受入總額	使用總額	殘高
八八八一八圓	八八八一八圓	一〇〇〇〇〇〇〇

備考

一 受入總額、使用總額中ニハ上海、青島其他各海軍病院等ニ於テ直接受取シタルモノヲ金テ恤兵金トシテ受入ノ上各寄附者ノ意思ニ從ヒソノ受取實額ヲシテ使用セシメタル額一、一七五圓一、一〇〇ヲ含ム

二 使用總額中ニハ支出未済ノ分ヲ含ム（内譯ノ通り）

恤兵金使用狀況一覽表（其ノ二）

六月三十日現在

海軍省經理局

使用内訳

種別

金額

額

浪遊部隊慰問補助金	一三五、四〇九	五一〇
疾病者療養慰問補助金	二一、二一七	九五〇
死傷者遺族交付金	二五、八五二	二二〇
葬儀補助金	四、六六五	〇〇〇
疾病者家族見舞金	一六、三二〇	〇〇〇
出征軍人家族救恤金	二、〇八〇	〇〇〇
恤兵種件費	五五九	七九〇
小計	二〇六、一三六	四七〇
浪遊部隊慰問保管費	四七、一八一	九六〇

醫病者療養慰安保留 <small>(難勝發行基金其他)</small>	一三〇、〇〇〇 〇〇〇
死後者遺族交付保留 <small>(大同坊國神社會祀 豫定者ノ分ヲ含ム)</small>	三、〇〇〇 〇〇〇
職傷病者家族見解保留	一、八〇〇 〇〇〇
小計	一八一、九八一 九六〇
合計	三八八、一一八 四三〇

恤兵金使用狀況一覽表（其ノ三）

六月三十日 閣

海軍省經理局

海軍省貯蓄部貯蓄資金ヲ以ツテ
購入シ送付セル恤兵品

品名	数量	金額	金額
繪圖書（八枚一組） ファイルム（大平岸）	四〇、〇〇〇組 壹	二、〇八〇 一、〇〇〇 三、〇八〇	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
計			



昭和八年三月至三月十日衛生業務旬報

混成第14旅團司令部

精製官混成第由旅團司令部駐屯ニ等軍備正中野鐵砲
 妙利八年三月三日衛生業務向報 於平泉 混成第由旅團司令部
 一部隊行動ノ概要

前句ニ引續キ諸隊ハ長城附近ニ於テ對陣中旅團任
 務ハ亦變更セシ 桃林口(ヨリ)ニ以テ山口(ヨリ)ニ至ル
 長城ノ線ヲ守備スルト共ニ擔任警備地域内(北ハ七家子、
 金家店ヲ連テル線以南、南ハ長城ノ線、西ハ金家店、光頭山、
 七溝、架又山、洪山口ヲ連テル線(乙ヲ念ム)ヲ以テ川原旅團
 ニ界シ東ハ九頭山、四道嶺、井龍山、東盤山、桃林口連
 テル線(乙ヲ念ム)ヲ以テ鈴木旅團ニ界ス(間)ノ敗殘兵(匪ヲ
 掃蕩シ)治安維持ニ任スルコトナリ。新ニ歩兵(第百十五聯隊
 (大隊欠)ヲ基幹トスル)迎支隊ヲ配屬セラレタルヲ以テ且五
 日軍隊區介ヲ變更シ各其任務ヲ定メラレリ。即チ次ノ如シ

二 衛生機關業務ノ概要

衛生班ハ二十五日部隊ノ移動ニ伴ヒ警戒ノ割合上青峰ノ開門附近ニ移動開始シ前在務ヲ續行セリ

本日間收容シタル患者數ハ戰傷三九、平病五九ニシテ内ニ九名急性穿孔性壞疽性蟲線突起疾アリニ因リ手術ヲ施シテリ。而シテ本日間後送シタルモノハ六名ニシテ均癒退院セントスルモノモ亦六名ニシテ同末現在患者ハ三九ナリ。

三 患者輸送ノ状況

本間衛生班ヨリ平泉關東軍臨時第一野戰病院へ後送シタル患者數ハ六名ニシテ内ニ九ハ三十三日旅團自動車班ノ釋送輸送ノ歸路ヲ利用シ内ニ九ハ三十五日旅團司令部ノ平泉ニ歸送スルニ際シ司令部看護長ニ依頼シ第一日ハ大行李ヲ次々第二日ハ自動車班ノ自動車ヲ輸送セリ。又二名ハ三十一日大行李

空車輜ヲ利用シ尚一名ハ三十歩五ノ第一大隊ニ属セシ野砲中
隊ノ歸還ニ際シ關東軍自働車隊ノ自働車便乘セシメテ
後送シ遺憾ナキヲ得タリ

田 衛生材料補給ノ状況

戦傷及平病用一般ノ材料ハ未タ不足ヲ感スル程度ニ至ルモ
特種藥物消耗品中若干補足ヲ要スルモノアリ、補給方ヲ申
請セリ其他衛生班ヨリ他部隊ニ補給シ或ハ他部隊ヨリ受
領シタルモノハ衛生班ノ回報ニ示スヲ以テ茲ニハ省略ス。
格闘司令部ヨリ衆馬科代隊ハ撤曹疑トナル散疑・硝酸
疑・健胃錠各三〇個ヲ補給シタリ

五一般衛生状態

ノ患者ノ状況

本自問各部隊ノ休業以上ノ新患總數ハ三十百名ニ至ラ

旬ニ先シ八十名ヲ減セリ、其ノ減少シタルモノ原隊ハ戰傷ニシテ先回ノ八十五名ニ對シ本回ハ僅カニ五名ニ過キズ戰死者モ先回ノ二十名ニ比シ僅カニ二名ナリ、

而シテ平病者ノ數ハ先回ノ千九名ニ比シ千九名ニシテ衛生状態ハ概不良好ナリ、而シテ平病中特ニ部スベキモノ八司令部ノ馬丁及歩兵ノ兵中花柳病ニ罹リ入院シタルモノ各一名アルトト歩兵五歩兵七歩兵ハ各一名ノ胸腹疾患者ヲ出シタルトニシテ他ハ特ニ部スベキモノナシ、

先回報告シタル騎兵隊ノ凍傷患者ハ全部治癒退院シ障碍ヲ賜ハズナカリシハ幸ヒナリキ

部隊別患者表

部隊別	新患	死	転	病送	治癒	復健	摘	要
旅團司令部	一			一				

2. 被服ノ状況

出發以來約一ヶ月間行軍戦闘警戒勤務等劇シカリシ
 著被服ノ洗濯ヲナス數ナク大半數ノ毛ハ臭ニ覺イサレタ

計	衛生班	自動車隊	通信隊	野砲七ノ五	騎七ノ二	歩二ノ一ノ五	歩二ノ七ノ一ノ五	歩二ノ六ノ一ノ五	歩二ノ五ノ一ノ五
三日		日	一			二	二	二	一三
二							二		
二〇		一				二	七	二	七
日		三							一
八				一			二		五
							二	二	五
							二	二	五

〔以下略〕



昭和八年四月三十日 衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

リ杏花満開ノ好季節トナリタラニ尚朝夕ノ日差強ク日ニ
 ヲリクモ著シキ差異アリ、二十日ハ小雪降りニテ午後リ日中
 ノ氣温五六度ニ降りテ夜間ノ氣温司令部ニテ測定シタル
 氣温表次ノ如シ

氣温表

月日	天候	測定時間	測定時間	測定時間	測定時間	測定時間			
十一日	快晴	五。五。	九。九。	五。五。	十六日	快晴	四。四。	七。七。	三。三。
十二日	"	三。三。	一四。一四。	四。四。	十七日	"	四。四。	二〇。二〇。	三。三。
十三日	"	〇。〇。	一六。一六。	二。二。	十八日	"	二。二。	二〇。二〇。	四。四。
十四日	"	六。六。	一七。一七。	三。三。	十九日	"	四。四。	一六。一六。	八。八。
十五日	"	六。六。	一六。一六。	二。二。	二十日	小雪	一六。一六。	一六。一六。	一。一。

右ノ各果多測定セルモノトス、
 大所及衛生施設

備考 檢診者

關東軍 臨時第一野戰病院 陸軍 穿甲正 島津清志

步兵 第五聯隊 陸軍 穿甲正 針行 順

七 其他 必要ト認ルル事項

ノ 最キニ 大學院 入學ノ 為 更迭シタル 歩兵 第一 船垣ニ 穿甲正

ハ 十三日 着任シ 矢部 軍醫 八十五日 大平 氏 出發セリ、

又 歩兵 第一 内藤ニ 穿甲正 隨ハ 十九日 着任シ 佐々木 軍醫 八

二十日 樂陽 城ヲ 出發セリ、

2. 歩兵 第一 中隊 看護兵 五歩 又 第一 中隊 看護兵 八共ニ

病氣ノ 為 内地ニ 還送セリ 缺員 中 多 衛生 班ヨリ 臨時 配

屬シ 居リタル 歩兵 第一 中隊 看護兵 八十七日 歩兵 第一 中隊 看護

兵 八十二日 共ニ 補充 充員 内地ヨリ 到着セリ、



昭和八年四月五日自十一日
至三十日 衛生業務旬報

混成第14旅團司令部

車輛ヲ以テ五カヲ發送シ次テ二十日自動車班、自動車
 歸還ニ際シ五カヲ復送シ前後二回二十カヲ發送セリ、
 東尖支隊ニ屬セシ衛生班ハ支隊ト別カルルニ際シ當時
 入班中ノ患者ニカヲ一土日並家口ニ於テ平泉ニ歸還スル
 予等ノ又ノ階官ニ托シ平泉關東軍臨時第一野戰病院
 ニ轉送シタリ

旧衛生材料補給ノ状況

四月九日混内四核階官ニ云ニ糞多ク請求シタル補充充員
 ニ對スル痘苗ニヨリカ四月五日到着シタル付直
 之ニ在平泉部隊ノ介介配シ他ハ四月三日衛生班送
 休シ各隊ニ介配セシナリ、其ノ介配區介防疫項
 ニ部ス

又各種衛生材料ハ朝陽支隊ノ請求ノ受領函目ヲ關東軍

軍醫部ノ報告スヘシト曰月ニテ由日軍醫部部長ヨリ電報
アリタルニヨリ奉天陸軍関東倉庫へ五月分ノ衛生材料其
他受領ノ為ニ張中ノ他ノ要事ニ兼不出發シテ有護長ニ右旨
電報スルト共ニ朝陽支庫へ豫メ準備シ置クヲ要スト認ムヘキ
材料ノ準備ナク電報ニテ依頼セリ

六旅團司令部ノ携行衛生材料ハ隊階級一號ニ號担架
隊瓦斯醫板等ノ定数材料外ニ梱アリ、内ニ梱ハ隊階
級内務ノ藥物消耗品ノ増加携行品ニシテ外田梱ハ主トシテ
保健所費用トシテ省費ナクニ銀膏クレゾール等ノ類
ガツリト等ナリ、

五一般衛生状況

ノ患者ノ状況

本回問各部隊ノ休業以上ノ新患總數ハ三十五名ニシテ先

同ニ比シキヤハカヲ撰テ其ノ主ナルモノハ先同ハ戦傷ハ主カアリ
 タルニ對シ單ニ一カアリタルニ過キアルカ爲メニシテ病病先
 同ニシテカニ比スレハ反ツテ田カヲ増加シタルコトトナル想レト
 又其ノ患者ノ種類ハ多シ種多ク採ニシテ胸膜炎一花柳病ニ最
 標突起ス一等注意スヘキモノナル他ハ特ニ記スヘキモノナシ
 部隊別患者ノ状況表ノ如シ

部隊別	新患		既患		摘	要
	人数	割合	人数	割合		
歩ニ五ノ五	八		田	五		
歩ニ三ノ五	三		二	一		
歩ニ七ノ五	一		五	田		
歩ニ八ノ五	五		三	一		一 次傷(再発)
野炮七ノ五	田		一	三		
自動車	三		二	六		
計	五		一	一〇		

二 防疫及衛生施設

歩兵第三十二聯隊第二大隊ニ於テ大平房整備隊ニ於
 テ一カノ平七日發病ニテ一日程紅熱疑似多シ朝陽
 閣東軍臨時第三野戰病院ニ入院シタル為同隊ニ於テ
 八散密ナル防疫處置ヲナシ其後續發シ徴ナシ
 2. 腸チフスバチチフス豫防接種亦前豫防錠ノ内服種痘

月日	天候	潮差	時局	防疫	月日	天候	潮差	時局	防疫
三月二十一日	曇	0.0	7.0	1.0	三月二十一日	快晴	6.0	6.0	1.0
三月二十一日	快晴	6.0	1.6	5.0	三月二十一日	曇	6.0	5.0	6.0
三月二十一日	〃	7.0	1.0	1.0	三月二十一日	〃	5.0	5.0	6.0
三月二十一日	〃	6.0	2.6	7.0	三月二十一日	快晴	5.0	2.0	1.0
三月二十一日	〃	7.0	2.6	7.0	三月二十一日	〃	6.0	2.0	1.0

朝鮮人	内地人	藝妓	藝妓	検査人員 有者 人
婦	婦	二	二	
三	五			同
八				病
11.4				名
日				別
11.4				検査
日				人員
				調査
				人員
五	一	一		調査
				人員

3. 20日平泉ニ於ケル内鮮人藝妓妓女全員ヲ警察署署長ニ集メ
 署長立會ノ上ニテ花柳病豫防及其他ノ防疫ニ関シ
 衛生講話ヲナシ續キテ各妓樓ヲ署長及憲兵ニ巡
 視シ衛生並ニ花柳病豫防施設ニ関シ指示シタリ。
 4. 平泉ニ於テ11.15日實施シタル第二回藝妓妓女検査成績
 次ノ如シ。検査階級ニ関東軍臨時第一野戰病院附陸
 軍二等軍階級等森義郎トス。

7.

計	田田	八	八	田	八	田	八	田	八
---	----	---	---	---	---	---	---	---	---

七、其他必要ト認ハル事項

八、熱河作戦間ニ歿死シタル者其他ニ對スル第一回補充
員九十二名ハ、イ、九日平泉旅團司令部ニ到着各隊ニ
介配シタリ、

又、歩兵第千七聯隊第一大隊ニ於テ昨年十月以來ニ有
米日逆ニ胸腹矢患者ニ、〇名、脚矢患者ニ、〇名、手
患者ヲ出シタルヲ以テ、レカ原因調査ヲ同隊隊醫
ニ任シタルニ、四月ニ由リ詳細調査報告セリ、

其ノ詳細ハ既ニ其際報告シタルヲ以テ茲ニ復スルニ要
スルニ違者ノ最モ多ク、殺シタルハ一月ノ、〇名、傷ニシテ
當大隊ハ昨年十月出征以來東邊道第一、第二、第三、

成ニ引續キ大興安ノ嶺ノ作戦ニ参加シ續イテ休養ノ暇
 モナク吉林省東境方面ノ昨戦ニ出勤シ非常ナル辛
 苦ヲ嘗メタル為メ疲勞ノ蓄積ヨリ一月ニ亙リ發
 シタルモノト判断シ居レリ
 八意見
 ナシ

秘

昭和八年五月自一日至十日 衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

イ、六ツ瓦リヲキテ六ツ瓦他ガール液ニロ瓦ハルオキニドニロ瓦、次下ニロ瓦、
健胃錠ニロ菌、今、硫黄、四口瓦、アスベリ、錠、三ロ菌、酒精、一ロ瓦、
ピロカルピン軟膏、一ロ瓦、巻軸帶、六巻、藥包紙、三ロ枚、等、主ナ
ルモノトス。

五、一般衛生狀況

ノ患者ノ狀況

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患總數ハ四一名ニシテ先旬ニ
比シ六名ヲ増加セリ新患中、戰傷ハ二名ニシテ他ハ平病ナリ
之等疾病中、病名ノ決定セルモノハ急性胃腸炎、外傷
三、戰傷ニ、中耳炎、一、肩批腺炎、一、花柳病、一、等ニシテ、病名
未定ニマ名ナリ、此ノ中、野砲兵、第五大隊、第五中隊ノ上等看護
兵、一胸膜炎ノ疑ヒニテ、入班シ、入班後、濕性胸膜炎ニ決定セ
ラレタリ、其ノ他、特ニ記スベキ疾病ナシ、部隊別患者ノ狀況

次表ノ如シ

備考	計	自動車班	野砲七II	歩二八II	歩三七I	歩三六II	歩三五II	部隊別 患者表				擲筒要	
								新患	死	戦傷	治癒後遺		
一其、他、部隊ニ患患者ナシ 二轉歸救ノ新患ニ比シヨクハ、今、病名未定 患者者下リタルニヨル	四	三	五	三	二	七	一一	新患	死	戦傷	治癒後遺	擲筒要	
	三四	一	四	三	一一	六	九						
	四	二			一	一							
	七		一					六					
				内戦傷一		外戦傷函發一							

六

混成第十四旅團 蕨云 娼妓酌婦健康診断實施要領 昭和八年四月三日

一 旅團、警備区域内(蕨鉄附屬地ヲ除ク)ニ於テ營業スル蕨云

娼妓酌婦ニ對スル健康ハ本要領ニヨリ實施スルモノトス、

二本健康診断ハ軍隊防疫上ノ必要ニヨリ實施スルモノナル事

苟モ人權ニ関スルモノナルヲ以テ慎重ニ實施スルハ勿論良ク

憲兵又ハ警察官ト協議ニ違背ナク行期スルモノトス、

三 健康診断ハ旅團司令部附屬正(旅團司令部所在地

外ニテハ其地高級醫官)ノ指示スル醫官ヲシテ實施セシムル
モノトス、

四 健康診断實施回数ハ憲兵又ハ警察官ト協議上定ム

ベキモノ一般検査ハ毎月一回局部検査(検徴)ハ毎週一回以上

検査ヲ要スルモノトス、

検査日時場所等ハ検査醫官憲兵又ハ警察官ト協議

ノ上定ルモトス

五検査醫館ハ健康診断ノ結果疾病ニ罹リ稼業ニ堪ハ
ルモノ又ハ傳染性疾病ヲ有スル者ヲ発見シタル時ハ其皆憲兵
又ハ警察官ニ通報スルモノトス、

六検査醫館ハ藝娼妓酌婦健康診断簿(別紙様式第二
ヲ備ヘ検査毎ニ所見ヲ記入捺印シ後症ニ資スルモノトス
七防疫ノ必要上藝娼妓酌婦ハ健康診断受検票(別紙
様式第三)ヲ各人毎ニ常ニ携帯セシメ客ノ求メヨリ提
示セシムルモノトス、

検査醫館ハ健康診断實施毎ニ健康診断受検票
ニ疾病ノ有無(有病者ハ病名ヲ記入ス)ヲ記入捺印シ之
ヲ本人ニ交付スルモノトス
八検査醫館ハ検査終了後成ルルヲ速カニ検査概況ニ検査

成績表(別紙様式第三)四通ヲ添ハ概團司令部附軍醫正
 ニ提出スルモノトス、
 九不健康者ニ対シテハ樓主ヲシテ速クニ治療ヲ受ケシムル如
 ク指導スルモノトス但シ地方ニ適當ナル診療機關在ラザ
 ル場合ニ於テハ関東軍地方民施療實施要領ヨリ施
 療ヲ復施シ防疫ニ費スルモノトス、
 一〇妓樓ニ於ケル花柳病豫防施設ニ就テハ未得ル文書備
 マシムル如ク指導スルモノトス、
 以上

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	券	別紙様式第一
					號	
					姓名	
					號屋	
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日		
					名日	
					年 月 日生	

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日

天

三

昭和三十九年

健康診断受検票

表西

検査料取
 本票を紛失セザル様注意ニ受検ノ除ハ勿論第ニ
 検査料毎週四円
 検査料日毎検査陸橋ノ捺印ナキハ其週間
 受検者カレヨリホ又
 本照ハ個人ノ保管ナレヨリナ
 本橋支店陸橋又ハ各ノ求メテ上キ本照ノ提出
 本照ヲ紛失シテ上キ八道ノ検査陸橋ニ取テ
 付テ親出シ
 混成井上旅團司令部

名	姓	
	名	
名	氏	
	姓	

昭和 年 月 日

日	日	日	日	日	日	日	日
月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日

檢 査 日 期 欄

(参考法規)

娼妓取締規則

第二條 娼妓名簿ニ録セラルル者ハ娼妓稼ヲナスコトヲ得ス

娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルニ

トス

娼妓名簿ニ登録セラルル者ハ取締上警察官

署ノ監督ヲ受クルモノトス

第三條 第三項

娼妓名簿登録申請者ハ登録前廳府縣令

ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス

第九條 娼妓ハ廳府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受

クヘシ

第十條 警察官署ノ指定ニシテ醫師又ハ病院ニ於テ疾

病ニ四惟リ稼業ニ堪ヘサル者又傳染性疾患アル者ト診断シタル娼妓ハ治療ノ上健康診ノ断ヲ受クルニ非ラサルハ稼業ニ就クコトヲ得ス

第十三條 一、尤ノ事項ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百円

以下ノ罰金ニ處ス

三、第十條ニヨリ稼業ニ就クコトヲ得サル者又ハ稼業停止中ノ娼妓ヲシテ強イテ稼業ニ就カセラル者
 第十三條ノニ、左ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 二、第七條第九條第十條ニ違背シタル者

秘

昭和八年七月至前衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

監部造衛生班ヲシテ材料ヲ送付セシメタリ、

3. 建昌營部隊ヨリハ施療ヲ開始シ度 意見具申アリ、又山海関ニテモ施療ヲ実施スル必要アルヲ認メタルヲ以テ、之ヲ軍々醫部部長ニ申請シ認可ヲ受ケタルヲ以テ之レニ要スル材料部隊販衛生班用各一箇月分ヲ七月五日軍々醫部部長ニ請求セリ、

五、一般衛生状態

一、患者ノ状況

本旬間各部隊ノ休業以上ノ新患總數ハ四九名ニシテ内一名ハ戰傷他ハ平病ニシテ前旬ニ比シ一四名ヲ減セリ 患者中多數ナルハ痲名未定ノ二〇名、急性胃腸炎ノ一七名、感冒性疾患三名、外傷二名、花柳病二名、胸膜炎一名、外痔核、外被痲、跌傷、狂園環瘍各

[中略]

一名等ニシテ、赤痢患者ハ全クナシ。
 部隊別患者ノ状況左表ノ如シ。
 部隊別患者表

部隊別	患者数	新患者数	死亡	治療	轉送	後遺	摘要
歩三五ノII	一一				八	三	
歩三六ノII	八			三	五		内戦傷一
歩三七ノI	四				三	一	
歩三八ノII	一〇			六	四		
騎七ノII	六			三	三		
野砲七ノII	六				二	四	
自動車班	四			二	二		
計	四九			一四	二七	八	

三

本冊手ハ戦闘間紛失シタルモノ多数アリ尚木不足ノ模様アリ、

先旬報告シタル如ク山海関治安維持會ト塵芥汚物、糞糞、馬糞等ノ搬出法ニ就テ協議中ナリ處漸ク協定出来タルヲ以テ十日ノ會報ニテ別紙ノ如ク各隊ニ通報シ実施スルコトニシタリ、

山海関支那人遊廓ハ駐留以來駐留規定ヲ以テ立入禁止区域ト定メラレタルモ、諸種ノ關係ニテ各隊ヨリ、禁止ヲ解除セラレ度、意見出テタルヲ以テ支那娼妓ニ對シテ檢査ヲ實施スルヲ得ハ解禁スルモ可ナリトノ意見纏マシ、軍部ニ於テ、檢査スルコトニ就テ治安維持會ト交渉シ其ノ快諾ヲ得タルヲ以テ來ル十四日嚴格ナル檢査ヲ実施シタル後十六日ヨリ

駐留規定ヲ改メ立入リヲ許可セラルルコトナリ、
七、其他必要ト認ムル事項、

一、建昌營・懿江部隊ヨリ施療ヲ実施シ度キ希望ノ
意見具申アリ、又山海關ニテモ治安維持會等ヨリ
盛ニ希望セラルルノミナラス、宜傳防疫等ノ意味ヨリ
其ノ必要アルヲ認メタルヲ以テ、四日電報ヲ以テ山海關
及建昌營ニ於テ施療ヲ実施シ度キ旨、軍醫部
長ニ申請シタル處、直ニ認可セラレタルヲ以テ其
旨、懿江部隊ニ電報セルト共ニ、衛生班長ニ山
海關ニ於テ施療ヲ開始スヘク命シ、衛生材料準
備、診療場所ノ準備等ヲ命シタリ、
名、旅團司令部附中野軍醫曹ハ七月七、八日新京
關東軍司令部ニ於テ閣催セルヘキ軍内、軍醫部

五

秘

昭和八年七月二十日 衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

乙、七月十七日軍々醫部長ヨリコレヲ豫防接種液三、ニ〇〇人分送付ノ通牒ヲ受ケタリ、然ルニ目下工兵第四大隊ヨリニ小隊配屬中ナルヲ以テ、其トニ必要ナル八〇人分ヲ追加請求シタル二十九日倉庫ヨリ送付セシタル旨通知アリタリ、

3、先般軍中衛生醫部長、病院長、會議ノ際意見具申依頼シ置ケタル、咳痰検査用、顯微鏡ニ具、屬具一具十八日衛生班ニ到着セリ、

五、般衛生状態

患者ノ状況

本向間各部隊ノ休業以テ新患総數ハ四八名ヲ算シ内一名ハ戰傷他ハ平病ニシテ前向ニ比シ一名ヲ減シタリ、患者中多數ナルハ急性胃腸炎、一四名、癒名未定、一一名、感心胃性疾患ノ八名、外傷及外被病、各四名、

部隊別	患者数	新患者数	治愈数	転送	後遺	摘要
歩三三ノ二	四			一	三	
歩二六ノ二	二			一	二	
歩二七ノ一	五		一	三	一	
歩二八ノ二	一六		一四	二	一	
騎七ノ二中	一三		六		七	内軟傷一名アリ、急性性 疾患五名、急性性腸炎一名、 急性性胃腸炎七名アリ
野砲七ノ二	五		二	一	二	
通信隊	二			一	一	
衛生班	一			一	一	
計	四八		二三	九	一六	

部隊別患者表

痔疾三名、戰傷者、花柳病、肺炎、各一名、順序トス、
患者中、料校患者、二急性腸炎、一、兩側肺炎、患者、アリ、
部隊別患者、狀況、左表、如シ、

六防疫及衛生施設

ノ又那鵝妓ノ檢査ハ、十日日實施シ爾後毎週一回實施スル
 フトニ定メタリ、成績ハ極メテ不良ニシテ、概ネ三〇%以上ノ
 罹病者アル狀況ナルヲ、諸種ノ關係ニテ駐留規定ヲ入
 シ解禁スルトニ決スリ、

之判稱娼妓ノ四惟病者ノ治療ヲ滿洲国々境檢疫所醫
 員ニテ治療ヲ實施スルフトニ協定實施セリ、

二十五日軍醫團部ヨリ北平ニヒ眞性コレラ一名発生シタル旨通
 知アリ、更ニ二十日承德ニ一名去ル十七日発生シタル旨ノ通
 知ヲ受ケタリ、

4右ニヨリコレラレ豫防ニ萬全ヲ期セラレ度、旨軍醫團部ヨリ
 通牒アリタルヲ以テ各隊ニ通牒シテ遺漏ナキヲ期セタリ、
 5腸チカスバラAB豫防接種ハ各隊概シテ先向ヨリ實施シ

口

ニシテ旅團司令部ハ左記日割ニヨリ實施ヲ開始セリ、

第一回、第二回、第三回、第四回

甲班

七月二日

七月三日

八月三日

八月十日

乙班

七月二日

七月三日

七月四日

七月十一日

七其ノ他必要ト認ムル事項

七月十五日 部隊長會議ヲ開催セラレ司令部附軍醫正

八別冊ノ如ク衛生成績向上ニ関シ同席上ニ於テ口演ヲナシ

隊長ノ奮勵ヲ希望シタリ、

又衛生班附陸軍二等軍醫白岩義明兩側肺炎ニ

罹リ十八日衛生班ニ入院セリ、白岩軍醫ハ歩三八ノ第三大

隊濱崎軍醫ノ入院セシ後歩三八ハ臨時配屬中ナリシヲ

以テ今回野砲隊市村軍醫ヲ歩三八ハ臨時配屬セシメ、左

山海關部隊ノ診療ハ歩三八ト衛生班ニ分担スルヲ命ジ

タリ、

ふ、衛生班ヲ豫ネテ野砲兵第五中队へ配属中ナリシ龍看
護兵ハ七月十六日帰班シタリ、

八、意見 ナシ、

秘

昭和八年八月自十日
至二十日 衛生業務旬報

混成第十四旅團司令部

六防疫及衛生施設

ノ、關醫兩第七六一號ニヨル飛行機ノ汚染防止法（註）消毒ニ關シ
各部隊ノ注意ヲ荷茲ス。

又團下各部隊ノ腸「チフス、パラチフス」混合豫防接種液（註）コレヲ
豫防接種ハ軍醫配屬ナキ撒河橋部隊（歩三五七中山砲
一分隊）ヲ除キ全部完了セリ。撒河橋部隊ハ接種液ノ有
効期限ヲ經過セル為再申請中ナルヲ以テ、接種液到着
ノ上ハ直チニ實質施ノ豫定ナリ。

3. 歩兵第三七聯隊第一大隊ノ嗜好疫検査ハ一般豫防的處
置ト共ニ前旬ヨリ引續キ順調ニ實質施サレ、隊附軍醫ノ
熱心ト努力トハ逐次其ノ効價ヲ發揮シツ、アリ。本旬結核
ノ最モ濃厚ト目セラル、第二中隊及機關銃隊ヨリ各一
名ノ抗酸性菌（カフキ）一號乃至三號程度）保有者ヲ檢出シ

直ニ患者ヲ隔離入班セシメ、居室、被服、食器等ノ消毒ヲ勵行セリ。

尚歩兵第三十五聯隊騎兵第七聯隊(建昌營部隊)八百下嘯痰検査實施中ナリ。

4. 前所部隊(歩兵ノ大隊本部及第二中隊、M.G.)ハ本旬ニ於テ炊事場完成セルヲ以テ、場内外ノ消毒的清潔法ヲ實施シ、防疫的施設ヲ行ヒ、且ニ調理上ノ諸注意ニ關シ同列ナル教育ヲ實施セリ。

5. 司令部附軍醫兵六本旬山海關ニ於ケル日鮮支人藝的婦檢徴狀況竝ニ妓樓、花柳病豫防施設等ニ關シ視察セル結果支那人娼妓ハ有毒者常ニ他ニ比シ多數ヲ占ムルニ拘ラス、治療ノ要求ニ應セス、且ニ豫防的施設ヲ行ハサルヲ以テ、有毒者ハ逐日増加ヲ見ツアリ。

一面多數ノ移住日鮮人娼婦ニヨリ雨田用ハ充分ナルノ現況ヲ
 看取シ衛生部員ノ過少ニシテ餘力ニ乏シキ現下支那人
 娼妓ノ檢査ハ徒勞ナルヲ以テ、爾今之レヲ廢止スルノ可キヲ
 決意シ之レカ意見具申ヲナシ關係部隊ハ實況ヲ通
 報シ兵員之ニ接セサル様特ニ注意ヲ促セリ
 尚前所部隊ニ於テモ同地日鮮人藝酌婦ハ有毒者多數ナ
 ルヲ以テ、六軒由四軒ニ立寄禁止ヲ命セリ、

七其他必要ト認ニル事項

ノ司令部附軍醫正六本旬旅團長ニ隨行シテ、歩三六大隊本
 部、第五第六中隊、步三七第三中隊、野砲七第三大隊、通
 信隊、自動車班、衛生班(以上山海關部隊)及步三六大隊
 本部、第一第二中隊(前所部隊)、步三八大隊本部、第五
 第六中隊(綏中部隊)、步三八第七中隊(興城部隊)ノ衛
 六

394
35

③ 滿州事變陸軍衛生史 第4卷 [陸軍省] (昭10・8・1)

日本將校ノ外
閱覽ヲ禁ス

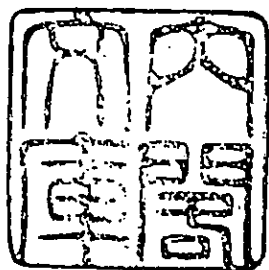
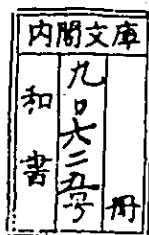
昭和十年八月一日調製

滿州事變陸軍衛生史

第四卷

衛生勤務 其四

陸軍省



凡例

- 一 本史ハ主トシテ滿洲事變ニ於ケル陸軍ノ衛生醫事ニ關スル事項ヲ蒐錄セルモノトス
- 二 本史ハ特ニ示スモノヲ除クノ外事變開始ヨリ昭和九年三月三十一日迄ノ事實ニ就キ之ヲ編纂セリ

三 「秘」ニ屬スル編制及統計關係事項ノ詳細ハ之ヲ第八卷「秘」ニ一括收録セリ

四 本卷ニハ作戰及軍政其他一般的情勢ニ關スル事項ヲ省略又ハ簡記シタルヲ以テ其詳細ハ

各軍ノ衛生業務篇^{第一卷}ヲ參照スヘシ

五 時刻ハ當該地方ノ標準時^{滿洲國、北支、上海地方ノ正午ハ日}ニ據リ溫度ハ攝氏ヲ使用セリ

六 事變間ニ名稱ヲ變更セラレタル地名、鐵道名等ハ記事當時ノモノヲ使用セリ但下士官兵

ノ名稱ハ總テ昭和六年十一月陸普第四七五五號ニ依リ改正セラレタルモノニ據レリ

七 本卷各記事ノ研究ニ方リテハ今次事變ニ關スル職史、政史、給養史及盛^{昭和八年十一月}陸軍

醫團ヨリ刊行シタル滿洲事變衛生勤務記念寫真帖ヲ參照スルヲ可トス

八 本卷ニ掲ケタル主要事件名、地名、物名、人名等ノ索引及各卷ノ總目次ハ之ヲ第九卷ニ掲ク

九 本卷所載ノ地名ハ添附地圖ノ外陸地測量部刊行五十萬分一及十萬分一地圖ヲ參照スルヲ

便トス

凡例

一〇 各卷ノ主要内容及取扱區分ハ左記總目次ノ如シ

滿洲事變陸軍衛生史總目次

二

第一卷 衛生勤務 其一「秘」規則

第一篇 總論

第二篇 中央部ノ衛生業務

第三篇 關東軍ノ衛生業務

第二卷 衛生勤務 其二「秘」規則

第四篇 上海派遣軍ノ衛生業務

第五篇 朝鮮軍ノ衛生業務

第六篇 支那駐屯軍ノ衛生業務

第七篇 内地師團及留守師團ノ事務業務

第八篇 戰地衛生機關

第九篇 内地衛戍病院

第三卷 衛生勤務 其三「特」日本特設ノ外
陸軍ノ外

第十篇 戰地兵衛衛生概誌

第十一篇 衛生

第十二篇 調査研究事項

第十三篇 跋

第十四篇 衛生部ノ人事

第十五篇 衛生部ノ戰病死傷者

第十六篇 恩給診断所扶助科

第十七篇 衛生部員ノ功績

第十八篇 事變傷病者ニ對スル泉室ノ御仁誌

第十九篇 衛生勤務ニ關係アル國民ノ後援

第二十篇 意見

第四卷 衛生勤務 其四「特」日本特設ノ外
陸軍ノ外

第二十一篇 防疫

第二十二篇 檢疫

第二十三篇 患者輸送

第二十四篇 陸軍軍醫學校ノ業務

第二十五篇 衛生材料

第二十六篇 陸軍衛生材料廠ノ業務

第二十七篇 陸軍運輸部ノ衛生業務

第二十八篇 軍隊輸送船ノ衛生業務

第二十九篇 衛生勤務關係ノ滿洲事件我ニ對テ

滿洲事變陸軍衛生史 第四卷

第二十一篇 防疫

第一章 總論

第一節 總說

軍醫防疫業務ノ特長

今次事變ニ於ケル派遣部隊ハ作戰地方ノ衛生狀態著シク不良ヲ極メ各種急性傳染病ノ侵淫濃密ナリシニ拘ラス繁劇ナル軍事行動ノ傍ヲ充ク艱苦缺乏ニ堪ヘテ保健防疫ニ邁進シ既往戰役ニ背テ見ナル良好ナル防疫成績ヲ舉ケタリ是偏ニ諸隊ニ於ケル幹部ノ機宜ニ即シタル施設指導ト兵員ノ自覺ニ基ク衛生履行トノ賜ト謂フヘク就中病者ノ侵襲ヲ豫防シ或ハ隊内蔓延ヲ防遏シ軍事行動ヲシテ支障ナカラシメタルハ實ニ衛生部員ノ積極的畫策ト莫大ニ稱スルモ其大部ハ特殊ノシテ今次事變ニ於ケル防疫業務ノ特長トシテ擧クヘキハ出動部隊中一部ハ戰時編制ニ據リタルモ其大部ハ特殊ノ臨時編成部隊ニシテ兵員數ハ多カラスト雖之ニ伴ヒ衛生部員亦人少ナリシ爲防疫業務ノ實施ニ方リテモ支障少カラス加之作戰地方ハ上海方面ヲ除キテハ廣汎ニシテ且疾風迅雷的ノ行動多ク既往ニ於ケル諸戰役ト大ニ趣ヲ異ニシ防疫業務亦之ニ隨ヒテ機動性ヲ要求セラレルコト多カリシ事ニシテ特設防疫機關トシテハ上海派遣軍ニ第四野戰防疫部ヲ屬セラレ卓越セル性能ヲ發揮シ關東軍ニ於テハ各衛戍病(分)院及各師團衛生班、間島臨時派遣隊ニ於テハ其衛生班軍醫隊ノ爲ニハ、第十九師團衛戍病院、第十九、第二十師團越境出動部隊ニ於テハ夫々師團ノ衛戍病(分)院、支那駐屯軍ニ於テハ駐屯軍病院各、菌檢索實施機關トシテ活躍シ昭和七年夏季ニ於ケル哈爾濱ノコレラ大流行ニ方リテハ關東軍ニ於テ臨時防疫班ヲ編成シテ地方防疫ニ協力シ尙防疫處置ニ關スル連繫指導ノ爲無電又ハ有線通信機關ヲ活用シタルカ如キ又菌檢索材料、豫防接種液等ノ補給、防疫指

第二十二篇 防疫

一七〇

願慮シテ可檢便ハ其大部ヲ熱河省内ニ於ケル各集地ヨリ空輸ヲ以テ、一部ハ部隊ノ通過時ヲ利用シテ之ヲ交付シ檢疫委員ハ第一梯團ニ對シ三月九日ヨリ十四日ニ互リ又第二梯團ニ對シ三月二十一日ヨリ二十六日ニ互リ菌檢索ヲ實施シ五、五七一名中ヨリ赤痢菌保有症五名ヲ檢出セリ

11 第十及第十四師團歸還時昭和九年四月ノ檢疫業務ニ關シ軍軍醫部長軍醫監ハ三月二十二日左ノ通り兩師團軍醫部長ニ指示セリ

内地歸還ニ伴フ衛生業務ニ關スル指示拔萃

昭和九年三月二十二日
於新京關東軍軍醫部

部隊檢疫ニ關シ左ノ通り實施スヘシ
1 左記衛戍病院又ハ分院ニ於テ兼健ノ菌檢索ノミツ實施ス依テ關係師團軍醫部長(當該病分)院長ト協議シ萬急漏ナキヲ期セリレ度
左記

哈爾濱衛戍病院
齊齊哈爾衛戍病院
新京衛戍病院
拉法衛戍病院延吉分院
但延吉分院ハ附近部隊ノ分ノミツ取扱ノモノトス
身體檢査ハ出發前各部隊醫官ニ於テ適宜實施スヘシ(以下第八師團ニ對スルト同様ナルヲ以テ省略ス)

歸還部隊ニ對スル腸管傳染病病原菌檢索ハ各最寄衛戍病院ニ於テ實施セラレ南保有症第十師團八、六ヨリ三名赤痢二、チフ、第十四師團九、四ヨリ八名赤痢五、A型パラチフスヲ檢出セリ第十師團ハ北鮮津津及鐵基ヲ經由シ俄由シ俄由ニ於テ、第十四師團ノ主カハ大連ヲ一部ハ茶山ヲ經由シテ秋野ニ於テ檢査ヲ受ケタリ

第十三節 地方側ニ對スル防疫指導

關東軍軍醫部長ハ滿洲國ノ現況ニ鑑ミ先ツ地方側ノ衛生防疫ヲ指導啓發シテ環境ノ衛生狀態ヲ向上セシムルニアラサレハ軍隊防疫ノ成果得テ望ムヘカラスト爲シ兼ネテ新興滿洲國ノ諸施設ヲ誘掖整備シテ住民ノ福祉増進ヲ圖ルニ決シ積極的
地方指導ノ方針ヲ立テ昭和七年四月二十九日各部隊附醫官ニ對シ左ノ通牒ヲ發シテ企圖ヲ明ニセリ

衛生施設改善ニ關スル件通牒

住民ノ衛生ニ對スル關心絶無ナルト相俟テ傳染病ノ發生四季ヲ通シ其跡ヲ絶ス爲ニ軍隊ハ常に傳染病預防ノ自衛ヲ盡リテ當リテアル事實ニ鑑ヘ陸内衛生施設ノ改善ニ満足セズ軍部指導者トナリテ各駐屯地官民ト提携シ衛生委員會ヲ設置シ

軍軍醫部長ノ指
導方針

滿洲ニ於ケル地方衛生施設ノ施設ハ滿洲附屬地ヲ除クノ外ハ極メテ不備ニシテ

地方衛生施設ノ向上改善ヲ圖ルハ普ニ住民ノ福祿増進上ノミナラス軍隊ノ衛生上ニモ極メテ有意義ナルヲ確信ス然レトモ其急進ナル根本的改善ノ經費之ヲ許ササルヘキヲ以テ左ニ掲クル如キ實施容易ナル事項ヨリ漸ク遂テ實施シ以テ防疫ノ完備ヲ期スル如クセラル

左記

- 1 検病的戸口調査
- 2 傳染病ノ可疑者ノ偏出及軍部ト地方側トノ相互通報
- 3 種痘ノ豫防接種
- 4 街路上ノ放尿嚴禁止、共同便所ノ設置

即チ之カ實施ノ爲軍ニ於テハ滿洲國政府ニ對シ、師團ニ於テハ關係省政府乃至主要都市當局ニ對シ又各部隊ニ於テハ夫々駐屯地ノ地方官憲等ト緊密ナル連絡ヲ保持シ衛生防疫業務ノ指導援助ニ努ムルト共ニ軍部ハ常ニ滿洲國側ト滿鐵、關東廳、外務省側及蘇國側トノ間ニ在リテ連絡ヲ楔子トナリテ其協力統制ニ努ムタリ今軍部ニ於テ實施シタル主要地方防疫指導事項ノ概要ヲ掲クレハ下ノ如シ特殊傳染病流行時ニ於ケル防疫指導ニ就テハ既ニ記述シタルヲ以テ省略ス

主要ナル地方指導例

一 關東軍軍醫部長ハ昭和七年初頭ヨリ日滿防疫會議ノ開催ヲ計畫シ滿洲國政府ニ對シ之カ主宰ヲ提唱シタルニ同國ハ國政未タ整ハサルノ故ヲ以テ正式會議ノ開催ヲ不能トシタルモ折衝指導ノ結果昭和七年五月三十日長春ニ於テ軍部高原長春、分隊長、關東廳山口衛、生課長、滿鐵千種衛生課長、村川防疫主任、滿洲國都留保健部衛生司醫務科長、都留保健部衛生司助役科長、當事者相會シ打合會議ヲ開キ主トシテ左記事項ニ就キ協議セリ

- 1 滿洲國ニ於テ計畫又ハ實施中ノ防疫事項ノ件
- 2 防疫制度改善ノ件
- 3 傳染病發生時ノ情報交換ノ件

- 4 ベスト、コレラノ發生及其他傳染病多發時ニ於ケル共同防疫ノ件
- 5 滿洲國人ニ種痘實施ノ件

二 獨立守備步兵第三大隊ハ昭和六年九月十九日營口河北古領後直ニ同地ニ軍政ヲ布キ二十日軍政所日本領事館ニ同日日滿首腦者ヲ召集シテ衛生會議ヲ開キ地方防疫ニ就キ協議シ且既設ノ防疫諸機關ヲシテ引續キ業務ヲ實施セシムル外臨時辦法ニ依リ船舶檢疫、戸口調査、死體檢案、市街清掃等ヲ勵行スル如ク協定セリ

三 在錦州第二十師團軍醫部長中山武秀、昭和七年三月地方衛生施設改善ノ爲錦州日滿合同衛生委員會ヲ設立シ四月九日會同ヲ行ヒ、委員長中山軍醫部長、(軍醫委員)前田英成第三十八旅團司令部醫官正、津川軍醫部長員外五名(日)軍醫部作製ノ案ヲ基礎トシテ左記事項ノ實施ヲ決議セリ

- 1 軍醫部員ノ日滿人ノ數往來檢査(日本軍隊ニ出入スル日滿人ノ郵便預檢査亦ハ日本軍部ニ於テ實施)
- 2 檢病の戶口調査(滿洲國領ハ特殊分票ニ於テ調査ニ當リ疑ハシキ患者ヲ發見セハ、野務局ニ報告シ醫師ノ派遣ヲ受ケ日本國領ノ戶口調査ハ領事館野務局ニテ行フ)
- 3 傳染病、同疑病者ノ届出相互通報(滿洲國領ニ發生ノ場合ハ野務局ヨリ日本領事館及憲兵隊ニ、日本國領ニ發生ノ場合ハ領事館野務及憲兵隊ヨリ野務局ニ通報ス)
- 4 傳染病隔離病舎ノ開設(滿洲國領ハ適當ノ地方醫院内ニ隔離室ヲ設ケ日本國領ハ將來隔離病舎新設ノ決定)
- 5 共同便所ノ増設、保清、消毒、防臭(現在ノ便所五箇ヶ改造シ別ニ七箇所ヲ増設ス糞便ハ毎日汲取苦力ヲシテ汲取リシム)
- 6 街頭糞尿排泄禁止

四 第八師團軍醫部長ハ承德地方衛生指導ノ爲昭和八年四月十二日軍特務機關長、憲兵隊長、地方側主眼者等ト協議ヲ遂

ケ同月十五日衛生委員ヲ任命シ翌十六日委員會ヲ開催シ軍醫部作製ノ原案ヲ基礎トシテ左記事項ヲ協定セリ

(委員長) 佐野 軍醫部長 伊

- 1 檢病の戶口調査
- 2 傳染病及疑病者ノ届出
- 3 傳染病發生時ノ消毒及傳染病隔離病舎ノ設置
- 4 便所
- 5 共同便所ノ増設及消毒、防臭方法
- 6 街頭糞尿排泄禁止
- 7 各家屋敷ノ糞尿汲取及消毒、清潔、防臭

7 各戸頭ノ糞尿汲取、消毒、保清、防臭(便所汲取、石炭燃料、助煤箱取附ヲ贊助ス)

8 糞尿除去(郊外四箇所ノ糞糞場ニ衛生車ヲ以テ排出集積シテ堆肥ト爲ス) 排水渠工事

9 井戸ノ改善(井戸屋形、井桁、井戸蓋ヲ設ケ井戸周ニセメントヲ敷ケ土瓦蓋ハ住民ノ負擔トス)

10 飲食物販賣店ノ助煤箱設置

11 春季及秋季大清潔法實施

12 大掃除及日本人墓地ノ設置

13 防疫ノ檢査(例假、開花假ハ届出シテ之ヲ檢知ス居臥場ハ二箇所存在シ居臥場ハ居臥場ノ檢印アルモノニアリサレハ販賣ヲ許シララルモ一併之ヲ廢止シ具設備ヲ改善ス)

8 糞尿除去及糞尿堆却場設置

9 排水渠工事

10 井戸ノ改良

11 飲食物販賣上ノ取締

12 春秋二季大清潔法ノ實施

13 防疫場所

尙同年六月三十日第二回會同ヲ熊シ一部委員ノ改任致第一回決議事項ノ進捗程度ノ打合セテ行ヒコレヲ校閲時ノ對策等ニ就キ審議研究スル所アリタリ

五 昭和八年八月遼源在留邦人ニ赤痢及腸チフス各一ツ發生シ其後續發ヲ見サルモ患者ノ隱匿ヲ慮リ同地開設第六師團衛生班第二半部ハ八月十八日憲兵隊、領事館警察分署、遼源縣警局及日本人居留民會ト協力シ左ノ如ク調査班ヲ組織シ
 二、六二六戸ニ就キ檢病の戸口調査ヲ實施シ血便排泄者六名、下痢患者一三名ヲ檢出セリ
調査済家庭ニハ
 現病ヲ檢付セリ

檢病的戸口調査班編成表

編成區分	衛生班		憲兵隊		領事居留民會	警察	局	計
	班長	班員	班長	班員				
第一班	若軍醫正	二	通補上下等士 助憲兵官	二	長領	會警	警長	二二
第二班	若軍醫	三	通補上下等士 助憲兵官	三	長領	會警	警長	三三
第三班	若軍醫	二	通補上等 助憲兵官	二	長	會警	警長	二二
第四班	若軍醫	二	通補上等 助憲兵官	二	長	會警	警長	二二
計	一〇	一七	八	五〇	八	五〇	八五	八五

六 昭和八年五月敦化駐屯歩兵第十聯隊調停留邦人
 水野文次郎ニ於テハ其指導ノ下ニ同地ニ於テ衛生組合ヲ組織セシノ内規ヲ設ケテ
 地方衛生ヲ改善ニ對セリ組合内規左ノ如シ

衛生組合内規

第一條 本組合ハ敦化衛生組合以下京ニ組合ト時務之ト稱シ敦化城内外在住
 民ノ健康保全ニ關スル一切ノ業務ヲ計畫實施スルヲ以テ目的トス

第二十一條 防疫

第二條 組合ニ長一、理事一、委員六ノ役員ヲ置キ但組合長ハ理事ヲ兼業スル
 コトアリ
 第三條 役員ハ種々名譽職トス
 第四條 組合長ハ理事以下ノ役員ヲ選擇シ要ニ應ジ役員會ヲ召集シ其決議ニ依

第二十一頁 防疫

イ左ノ事項ヲ執掌スルモノトシ慎重ニテ要シ役員會有基ノ後日ナキニ於テハ先ツ歴盡度更テ其ノ後成ルヘク速ニ役員會ニ關付スルモノトス

左記

- 1 毎年四月乃至十月ノ間ハ毎月一回、其他ノ五箇月間ハ概シテ二回城内外一校ニ各戸毎ニ消毒檢査ヲ施行ス
 - 2 右檢査ノ場合ハ同時ニ井戸及販賣飲食品ノ檢査ヲモ行フモノトス
 - 3 各戸兼用厨屋至者ヲ實見セシメノ外ニ於ケル排糞装置ノ腐敗ヲ期ス
 - 4 塵埃又ハ下水汚濁等ヲ調査組合所定ノ場所ニ搬出投棄スル爲人夫ヲ雇價シ其義務ヲ指導監督ス之ヲ爲シハ關係官憲又ハ關係民會長ト協力ス
 - 5 四半ヲ過シ各季節ニ適合スル保健衛生又ハ防疫ニ關スル布告又ハ注意書又ハ印刷配布又ハ要所ニ貼付シ一般市民ニ對シテ衛生思想ヲ普及向上セシムルモノトス
 - 6 常ニ關係官憲又ハ關係民會ト密ニ連絡シ擔任義務ノ圓滑ナル遂行ニ努ムルモノトス
 - 7 傳染病者ニハ保護ヲ備ヘシメ一般民ヲシテ路上其他公眾ノ出入スル所ニ吐瀉スルヲ嚴禁シ且手洗ノ要ヲ經常ナラシムルコト
 - 8 城内外所屬箇所ニ共同場所ノ設置及之ヲ清潔保持ニ關シ責任スルモノトス
 - 9 成ルヘク各戸兼用ノ厨屋ヲ設置スルコト
 - 10 傳染病ノ根絶又ハ發生ノ場合ハ概シテ失セヌ之ヲ防止法ヲ實施シ上下協力シテ未然ニ防疫シ又ハ蔓延ノ防止ニ努力スルモノトス
- 第五條 組合員ハ傳染病預防ニ關シ其責任ニ任ス之ヲ爲實スルヘキ事項次ノ如クシ
- 其一 平常ノ施設
- 1 傳染病預防上在任員一般日當注意事項
 - イ 印刷物配布又ハ通俗衛生講話ニ依リ傳染病ニ關スル知識ノ普及及向上ヲ期ス
 - ロ 一般民ニ對シテ生水ヲ飲用セザル習慣ヲ養成セシム
 - ハ 糞、尿、痰及汚穢等ヲ傳染病ヲ媒介スル昆蟲類及鼠類ノ驅除ヲ勵行シ防護、防鼠ノ設備ヲ爲スコト

- 4 定期検査ニ際シ檢査者ナキヲ期スルコト
- 5 馬チフス、バラチフス、似熱等ニ對シテハ成ルヘク預防接種ヲ實施スルコト
- 6 食器ハ成ルヘク消毒槽ニ耐ノルモノヲ選ビ毎食後熱湯ヲ注キタル後洗滌スル習慣ヲ養成スルコト
- 7 酒室ノ飲酒ヲ禁止ス
- 8 生食スル食品(例ヘハ漬物類)トシテ賣スル食品トニ使用スル瓶丁及皿ハ嚴シク消毒シテ用フコト
- 9 傳染病發生時ノ處置ヲ左ノ二期ニ分ツ
 - 第一期 救化ト關係アル地域ニ傳染病發生シ漸次蔓延其來ノ境アルトキ第二期 救化者ヲハ其附近ニベスト、コレラ等ノ散居ナル傳染病發生者又ハ其他ノ傳染病流行蔓延ノ限アルトキ
- 第七條 第一期傳染病ハ概シテ左ノ各戸ヲ實施スルモノトス
 - 1 傳染病流行地ニ發行セントスル者ニ對シテハ其狀ニ依リ之ヲ延期又ハ中止セシムルコト
 - 2 傳染病流行地ヨリ來リ又ハ之ニ立寄リタル者ニ對シテハ醫師ノ診察ヲ求メ要スルハ隔離スルコト
 - 3 第二期傳染病ハ前條ノ外概シテ左ノ各戸ヲ實施スルモノトス
 - 1 補助委員ヲ編成スルコト
 - 2 市民ノ家族者ヲ限リテ其補助委員ヲシテ其健康状態ヲ調査セシメ早期發見ニ努ムルコト
 - 3 ベストニ就テハ皮膚損傷ノ治療ヲ普及セシメ特ニ虫及鼠ノ驅除ニ努力スルコト
 - 4 ベスト有蓋地ヨリ來レル肉類等傳染病ノ媒介物作殊ニ棉花、古着、紙類、被褥、紙屑等ノ取扱ニ注意スルコト
 - 5 コレヲ、ベストノ場合ニ在リテハ要スルハ消毒法ヲ實施スルコト
 - 6 發病ノ原因及傳染経路ヲ追ヒテ調査シ根絶汚染ノ媒アル者ハ隔離スルコト
- 8 病狀檢驗ニ必要アル傳染病ニ就テハ所要ノ方法ヲ以テ檢査ヲ實施スルコト

- 7 修造用ノ種類ニ應ジテ器ノ消滅、マスクノ使用及含嗽等ヲ勵行スルコト
- 8 要スレバ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止セシムルコト
- 9 酒ヲ造ルキス消滅法ヲ實施スルコト

第九條 組合長ハ防衛員其他防衛衛生業務進行上ノ人員トシテ所必要ノ町會及轉長ニ請求スルコト但其實行ニ關シテハ明確ナル出納簿ヲ作製シ組合役員及防衛委員ノ承認ヲ經ルモノトス

第十條 修造用防衛委員長ハ修造用發生ノ際ハ毎日、其他ハ概シテ一月一回頓事館警察署長、衛生分隊長、組合長、居留長等ニ連絡通報ヲ發スルモノトス

第十一條 防衛委員ハ委員、同助手若干名ヲ以テ編成シ委員ハ主トシテ組合役員中ヨリ、助手ハ其他ノ在任長中ヨリ選任シ委員中ヨリ委員長ヲ互選ス

第十二條 委員長ハ修造用防衛ニ關スル施行方法ヲ定メ組合長ハ承認ヲ得テ之ヲ實施スルコトヲ勵行ス

委員以下ハ委員及ノ命ヲ承ケ各、其業務ニ取スルモノトス

第十三條 防衛委員ノ業務概シテ左ノ如ク

- 1 檢査ニ關スル事項
- 2 隔離ニ關スル事項

七 警安ニ於テハ混成第三十八旅團司令部附軍醫正ノ提唱ニ依リ昭和七年六月二日衛生委員會成立シ其決議ヲ以テ左記事

項ヲ改善實施セリ 委員長 山田軍醫正

- 1 檢査用ノ口調査
- 2 修造用、同遊園者ノ居住及軍部ト地方間トノ相互通達
- 3 共同體所設置各演習、市地等、客床採取ノ勵行、街上散撒糞尿及屍糞ノ禁止
- 4 廢渣箱ノ附設及修理、廢渣運搬車ノ活動
- 5 抽水車ノ新設
- 6 夏中大清潔法實施

八 混成第十四旅團司令部附軍醫正ニ依リ昭和七年六月二日衛生委員會ヲ組織指導

第二十一條 防 査

- 3 病原體檢査ニ關スル事項
 - 4 清潔消毒ニ關スル事項
 - 5 衛生講習、健康診察、預防接種ニ關スル事項
 - 6 飲食、飲用水ニ關スル事項
 - 7 修造用消毒實ニ關スル事項
 - 8 防疫用品ノ配發及諸報告ニ關スル事項
 - 9 防疫用品材料ニ關スル事項
- 第十四條 木内良八入任シ隔離期同ク左ノ如ク定ム
- コレラ、赤痢 五日間
 痘瘡、ペスト 一〇日間
 鼠紅熱、チフテリア、流行性腦脊髄膜炎 七日間
 腸チフス、パラチフス、登革チフス 一四日間
- 第十五條 防衛委員長ハ右ノ期間ヲ經過シタル者ニ對シテハ醫師ノ意見ヲ以テ隔離ヲ解除スルコトヲ得
- 第十六條 病原體檢査作業ハ員寄病院ニ依テ實施シ但シ必要スル人員ハ防衛委員長ニ於テ決定シ所要材料ノ購入及經費ニ關シテハ組合長ト協議ノ上決定スルモノトス

- 7 飲食物販賣店ノ防護設備改善
- 8 清涼飲料ノ檢査取締
- 9 理髮店ノ保護消毒取締
- 10 花柳病性功
- 11 市民ニ對スル衛生指導會實施、衛生講習等
- 12 房敷掃除ノ改善

セリ委員會規程左ノ如シ

衛生委員會規程

- 一 山海關ニ於ケル衛生防疫實施ノ爲衛生委員會ヲ設ケ治安維持會内ニ置ケモ
ノトス
- 二 本會ハ左ノ委員ヲ選任シ衛生防疫ニ關スル實施事項ヲ合議スルモノトス
治安維持會 四 商務會 二 庶務司合部 二 守備隊 一
憲兵隊 二 居留長會 二 警察署 三
- 三 衛生委員會會長ハ治安維持會會長トス
- 四 委員長ハ業務ノ統一ヲ圖リ時々衛生會議ヲ開キテ實施事項ヲ協定シ業務ノ
遂行ヲ期スルモノトス
- 五 委員ハ委員長ヲ輔佐シテ衛生防疫ニ關スル實施事項ヲ立案協定スルト共ニ
各其機關内ニ於ケル實行委員ヲ選動シテ業務ノ遂行ヲ圖ルモノトス
- 六 實行委員ハ委員及助手若干名トシ衛生委員ヲ選出シタル各機關ニ於テ業務
ノ實施ニ必要ナル人員ヲ適宜任命スルモノトス
- 七 各機關ハ實行委員及助手編成ノ狀況及員數ヲ衛生委員會會長ニ通報スルモノ
トス
- 八 實行委員ハ各機關ヨリ選出シタル衛生委員ノ區處ニ依リ衛生委員會ニ於テ
協定シタル實施事項ノ實施ニ努ムルモノトス
- 九 衛生委員會ニ於テ協定シタル事項ノ實施ニ要スル經費ハ各機關ノ負擔ト
ス
- 一〇 平時衛生施設ニ關スル事項
 - 1 平時衛生施設ニ關スル事項
 - 2 コレラ、ベスト等ノ激烈ナル傳染病流行時ニ於ケル防疫ニ關スル事項
- 一〇 平時衛生施設ニ關スル事項概テ次ノ如シ
 - 1 住宅内外ノ清潔ヲ勵行スルコト
 - 2 市内及附近ノ溪澗、水溜ヲ浚深シテ排水ヲ良好ニシ排水ナカラシメ已ム
ヲ得サル溪澗等ノ水溜ニハ石油乳劑ヲ投入スルコト
 - 3 各戸ニ塵芥箱ヲ備ヘシメ塵芥、汚物、炊事ノ殘渣、馬糞等ト共ニ搬出ノ

方法ヲ講スルコト

- 4 大小便所ヲ各戸ニ設備シ便所以外ニテ排便セシムルコト
- 5 大便所ニハ石灰末ヲ備ヘ用便後撒布セシムルコト
- 6 大小便ノ搬出方法ヲ講スルコト
- 7 井戸井ノ作り汚水ノ流入ヲ防キ釣瓶等ヲ設ケ不潔ナル箇所ニ釣瓶ヲ置カ
シサルコト
- 8 井水ヲ檢査シテ飲用適否ヲ標示スルコト
- 9 生水ヲ飲用セシムル如ク指導スルコト
- 10 飲用水ト冷却用氷トノ區分ヲ明ニシ之カ販賣ヲ監督スルコト
- 11 罐ノ膠除法ヲ勵行スルコト
- 12 飲食品製造販賣店ニ於ケル飲食品用器ノ清潔及防護處置ヲ勵行セシムル
コト
- 13 居獸所ノ監視及居獸檢査ヲ勵行スルコト
- 14 幼類殺ノ檢査ヲ勵行スルト共ニ私娼ノ取締ヲ嚴ニスルコト
- 15 戸口檢査ヲ勵行スルコト
- 16 死亡者ノ届出ヲ勵行スルコト
- 17 衛生講話ヲ勵行シテ一般市民ノ衛生思想ノ向上ヲ圖ルコト
- 一一 コレラ、ベスト等激烈ナル傳染病流行時ニ於ケル防疫ニ關スル事項概テ
次ノ如シ
 - 1 平時ニ於ケル衛生施設ノ實施ヲ一層確實ニ勵行スルコト
 - 2 野菜、果物ノクロール消毒ヲ實施スルコト
 - 3 生魚ノ販賣ヲ禁止スルコト
 - 4 旅行者ノ檢査ヲ勵行スルコト
 - 5 旅行地ヨリ來ル者ノ檢査ヲ勵行シ要スレハ隔離スルコト
 - 6 流行地ヘノ旅行ヲ禁止スルコト
 - 7 患者ノ早期発見ニ努ムルコト
 - 8 患者ノ收容及隔離所ノ設備ヲ爲スコト
 - 9 塵芥箱ヲ勵行スルコト

- 10 患者發生シタル場合ノ消毒ノ實施方法ヲ規定シ置クコト
- 11 患者發生家屋附近ニハ立入ヲ禁止スルコト
- 12 檢病的戶口調査ヲ勵行シ患者ノ發見ニ努ムルコト

九 第十四師團軍醫部長ハ其指導ノ下ニ昭和七年十月黑龍江省臨時防疫會ヲ組織セシメ章程ヲ設ケテ地方衛生ノ向上ヲ圖

レリ章程
略

- 13 傳染病患者發生セシトキ、死亡者アルトキ、死體檢査ヲ爲シタルトキハ其部度發生場所、日時、氏名、病名、徵候ノ概要ヲ速ニ各機關ニ通報スルコト

第三章 上海派遣軍ノ防疫業務

第一節 軍防疫ノ概要

上海派遣軍防疫ノ概要

軍ノ作戰地方ハ所謂江南瘴癘ノ地ニシテチフス性疾患、赤痢及發疹性傳染病侵淫シ又コレラハ殆ト毎夏猖獗ヲ極メ慘害著シキモノアルニ鑑ミ中央當局ニ於テハ派遣軍ニ對シ特ニ豫防上ノ注意ヲ喚起スルト共ニ給水器材ヲ整備シ淨水藥、クレオソート丸ヲ支給シ且地方衛生狀況調査書類、「下士官兵衛生心得」等ヲ交付シ爾後狀況ニ應シコレラ豫防接種液、赤痢豫防錠等ヲ追送スル所アリ軍當局亦克ク中央ノ意圖ヲ體シ軍防疫方針ヲ制定シテ準備ヲ明ニスルト共ニ積極的ニ部隊防疫ノ指導ニ任シ野戰防疫部ノ運用ヲ適切ニシ其他地方衛生狀況ノ調査ヲ勵行シテ傳染病患者ノ早期摘發ニ努メ豫防ノ具全ヲ期セリ而シテ軍防疫ノ重點ハ派兵ノ前半期ニ於テハ主トシテ痘瘡ニ、後半期ニ於テハ特ニコレラニ指向シ且部隊ノ内地歸還ニ方リテハコレラ病毒ノ内地輸入防止ノ爲乘船地ニ於テ隔離、健康診斷、糞便菌檢査等ヲ行ヒ克ク戰疫ヲ豫防シ軍ノ作戰ヲシテ後顧ナカラシムルヲ得タリ

地方傳染病ノ狀況ハ第十篇(戰地兵衛衛生概況)參照

第二節 軍ニ於ケル戰疫發生ノ概況

軍ニ於ケル戰疫發生ノ概況

軍派兵間ニ發生シタル急性傳染病ハ六四名病保有者ヲ含メ 軍團ヲ含マズニシテ人員每千一日比例〇・〇二、患者每千比例〇・七八、戰死傷一ニ對シ〇・〇三ニ相當ス師團別發生ノ概況次表ノ如シ

④北支那並滿洲國視察報告〔工兵第4大隊中隊長〕（昭9・3）

昭和九年三月

北支那並滿洲國視察報告

工兵第四大隊中隊長陸軍工兵大尉 塩見久吉

目次

- 一. 緒言
- 二. 北支問題
- 三. 北鉄問題
- 四. 匪賊討伐
- 五. 滿洲國軍隊
- 六. 駐滿軍隊、志氣
- 七. 滿洲國移住、獎勵
- 八. 國語、獎勵、他國語、研究
- 九. 將來策、應之國軍練成
- 十. 結言

留意ノ要アリ)ニ努ムルノ要アリ

特ニ蒙古騎兵聯隊ハ之ヲ最大限度ニ増設シ訓練シ皇軍ノ第一線ニ活躍セシムルヲ要ス

右ノ如ク心身共ニ訓練セラレタル滿洲國軍隊ヲ皇軍一部ノ指導ノ下ニ後方連絡ニ又守備勤務ニ從事セシメテハ皇軍ハ後顧ノ患ナク全カヲ第一線ニ傾注シ大敵ニ當ルヲ得ン

六 駐滿軍隊ノ志氣

駐滿將校以下極メテ緊張シテ特ニ國境ニ近ラクニ從ヒ營舎厩ニテ慰安ノ道ナキニ務ラス緊張ノ度ノ高キヲ感ス 又初年兵ニシテ討伐ニ行カサルモノハ度イテ連行ヲ願出ワルカ如キ 其ハ皇軍ノ任務ヲ了解シ之ニ邁進セントスル結果ニシテ又一面國民後援ノ賜ナリ 然レ共物事ハ一段落ヲト共ニ心ニ死ミテ生レ事伴ハ永

領スルト共ニ緊要張ヲ久クニ至ルモノナリ。而シテ此間ニ不軍
規ヲ養成シ不正行爲サヘ取テナス者ナキニ非サルナリ
此弊風ハ現役蒞期ノ後即チ豫後備役兵ニ迄蔓延シ
國軍ノ練成ニ影響スル所大ナリ。

シベリヤル出兵ノ末期ニ於テ此例ナキニ非サルヤヲ聞ク
目下ノ情況ハ正シク其危^機ニ直^面セルモノニシテ駐荷師團
ノ交代等ニテ其大部ハ削除セラル、ナランモ部分^的ニハ
其弊風ノ残ラサルヤ保シ難シ

故ニ幹部ハ常ニ左ノ諸項ニ留意シ教育指導スルトコト緊
要ナリ。

一、國軍ノ危^機特ニ隣邦軍ノ兵力裝備等ヲ徹底^的に教
育シ任務ノ重且ツ大ナルコトヲ理解セシムルト共ニ之ニ
對スル訓練教育ヲナシ精神的實質的ニ緊要

セシム

2. 慰安法ヲ講スルコトハ駐滿部隊^隊於テ最モ緊要ナリ
 折角守備ニ討伐ニ重大^隊命令ヲ果シテ歸營セ
 ルモ之ニ對スル物質的慰安ナク待ツモノハ癯屋ノ
 如キ古兵營ノミニテハ軍に死ス易ク荒^シ易カラ
 スヤ又滿鉄其他ノ大會社々員ニ比シ甚シキ負勳
 ナル給與ヲ受ケアル幹部ハ物質^價ノ高騰ト相俟テ相
 當困難ニ居ル者アルヤニ聞及ヘリ

3. 熱シ易ク令メ易キハ我國民ノ常ニシテ事變ノ當初
 ヲシ慰問品慰問使等々東奔西走席ノ温マル暇ナ
 キ兵ニ送ラレシカ業漸ク成リテ稍々寂寥ヲ感スル
 ニ至リ國民一線モ之ヲ顧サルニ至リシニ非ザルヤノ感
 あり

要スルニ目下ノ時期カ志氣振興上最モ大ナル時ト信ス
 故ニ諸花鼓ヲ完備シ指揮官ハ部下ヲ古手^重展シ以テ果

心ヲシテ儀マシムサル如ク努力セザルヘカラス

七 滿洲國移住ノ獎勵

滿洲國ヘノ移住ノ緊要ナルコトハ暢々ヲ言セザル所ナルモ往
 キニテ何等調査研究スルコトナクシテ渡滿シ失敗スル者
 アルハ全人等ノ爲惜ム所ナリ然レ共彼等ハ一個人ノミニ損失ニ
 テ足ルモ意志薄弱ナル者或ハ無賴ノ徒ノ渡滿スルハ之ヲ防
 カサルヘカラス 優越感ヲ以テ暴威ヲ振ヒ或ハ「モヒ」空賣
 ナシ或ハ博徒ノ宿舍ヲナス等 法網ヲ潛リ無辜ノ民ヲ
 苦しムル等是ナリ

特ニ是等ノ徒ノ豫東附近ニ多キハ日支親善上ヨリ見
 ルモ面白カラサル現象ニシテ甚シキハ日本軍ノ陰ニ隱シテ
 暴威ヲ振フト聞クニ至リテハ許シ難キ現象ト云ハサル
 ヘカラス

之等徒ハ^輩日滿或ハ日支親善ヲ阻害スルコト大ナルハカノ

⑤ 飛行第一二聯隊長ニ與フル注意事項 [關東軍司令部] (昭10・7・17)



飛行第十二聯隊長ニ與フル注意事項

昭和十年七月十七日
關東軍司令部

注意ヲ倍獲スルヲ要ス

經理

一、經理一般ノ状態ハ概不良好ナルモ第

二、大隊ニ對スル統轄指導ハ更ニ綿密積極的ニ實施スルヲ要ス

二、動員計畫ニ伴フ衣糧其他諸資材ノ準備ハ概不良好ナリ

保育及衛生

一、衛生一般ノ成績ハ可ナリ然レトモ尚結核胸膜炎胃腸疾患並花柳病ノ發

生計カラサルニ鑑ミ此等ノ防遏ニ一段
 ノ努力ヲ拂ヒ實績ノ向上ヲ圖ルヲ要ス
 二保育及防疫ニ關スル計畫並實施ハ
 概テ適當ニシテ食器ノ煮沸消毒ヲ勵
 行シアルハ可ナルモ防具ノ清拭及消毒
 ノ確實ナラサル、起床時咳嗽、冷水摩
 擦等保健法ノ實施確實ナラサル、咳嗽
 者名簿記載ノ的確ナラサル或ハ衛兵
 所酒保醫務室ニ於ケル地方傳染病發
 生狀況ノ圖示的確ナリル(新京部隊)又ハ下

痢患者用便所、設備ナキ（公主嶺部隊）
 初年兵班ニ毛布巾、備付ナキ（公主嶺部隊）
 炊事場ニ於テ漬物用俎、庖丁ノ使用區分的
 確ナラサル（公主嶺部隊）等規程ノ履行確
 實ナラサルモノアリ

三 兵ノ衛生法及救急法教育ハ聯隊教育企
 畫ニ於テ其進度ヲ示シ各中隊ニ於ケル實
 施ヲ齊一確實ナラシムルヲ可トス
 兵ノ之ニ關スル識能ハ向上ノ要アリ
 又毒瓦斯ノ種類性状並ニ瓦斯傷救急

救處置及淨水藥使用法ハ更ニ的確ニ
 教育ニ置クヲ要ス

四 出動用衛生材料ノ整備ハ可ナルモ格納
 ニ關シテハ注意ヲ要スルモノアリ(新京部隊)

昭和二十年八月四日

陸軍軍事警察月報

国立公文書館	
分類	⑤ ④
配架番号	15
	51-10

JP/TOK/13964
SA 10087
Sank 2 Item 89



極秘

北支憲兵第一八六號

陸軍軍事審察月報

昭和二十年八月四日

北支那派遣憲兵隊司令官

末部憲兵

昭和二十年六月首題月報別冊ノ通提出（送付）ス

發送先

大本營・陸軍省・陸軍（甲集司經由）

寫憲司・北部・東北・東部・東海・中部・中國・四國・西部・朝
台・關・中支各憲司・南支憲・憲校・乙・仁・戊・秀嶺各集司
錄下各隊（分隊迄）

二 殺狀況

犯 罪

七二件九七名（前月四〇件四九名）

多發犯罪左ノ如ク逃亡首位ヲ占ム

○ 逃 亡 一五件一六名

○ 擄 奪 一〇件一二名

○ 窃 盜 一〇件二七名

○ 戦地強姦 八件九名

非 行

六三三件八七一名（前月五三五件七四九名）

飲酒ニ基因ナル暴行傷害等依然首位ヲ占メ脱獄遊興並輕微ナル窃盜
 收賄・賭博等犯罪關係非違次テ多發ス

逃亡離隊

四三件五二名（前月四四件六二名）

主ナル原因左ノ如ク嚴格ナル軍隊生活ヲ嫌忌セルモノ或然首位ヲ占ム尙本期間朝鮮出身兵二五件一〇名（前月三件七名）ノ發生アリタ

リ

○嚴格ナル軍隊生活嫌忌 八件一三名

○身体虛弱ヲ苦慮 七件 七名

○叱責ヲ怖レ（悲觀シ） 四件 四名

○發作的精神異狀 四件 四名

三、犯罪ノ狀況

軍刑法犯 四七件五二名（前月二八件二八名）

刑法犯 二五件四五名（前月一二件二一名）

其他法令犯 ナシ （前月ナシ）

計 七二件九七名（前月四〇件四九名）

ニシテ之ヲ階級別ニ觀レハ

將 一名（前月 一名）

校 一名（前月 一名）

軍士	官	ナシ	(前月)	ナシ
下士	官	九名	()	九名
兵		五七名	()	一八名
軍屬	一般	二一名	()	七名
交通團		九名	()	一四名

ノ如ク前月ニ比シ兵・軍屬ニ顯著ナル増加ヲ示セリ
 主ナル犯罪事例左ノ如ク詳細附表第一・第二ノ如シ

◎ 將 校

軍務執行妨害・傷害

第一四七五部隊平山隊豫備役中尉一(中隊長)ハ部隊長ノ招集
 臨ミ飲酒酩酊二〇〇頃同僚中隊長數名ト共ニ軍人俱樂部ニ赴
 キタルモ入口ニ於テ仲辱ヨリ公休日ナリトテ拒絶セラレタル
 折柄

器々所屬ヲ終リ俱樂部ヲ立出テタル主計某ヲ現認スルヤ仲居ノ差別
 的態度ナリト曲解憤慨シ經營主ヲ毆打轉倒センメタル上更ニ足蹴
 踏付ケ等ノ暴行ヲ爲シ因テ全治四週間ヲ要スル打撲裂傷擦過傷ヲ
 負ヘシメ更ニ届出ニ依リ現場ニ到リタル憲兵下士官ニ對シ暴言ヲ
 吐キツツ二回ニ亘リ左頬ヲ強打シ更ニ胸倉ヲ握リ壁ニ突頭部ヲ
 打付ケ因テ取務ノ執行ヲ妨害ス

◎下 士 官

一 上官暴行

甲第一八五一部隊本部豫備役技術草曹一ハ六月二十九日允許外出
 シ同僚ト共ニ鄭州市内食堂ニテ白酒約一合五勺ヲ飲酒稍々酩酊ノ
 上市内ヲ徘徊中野戰郵便局前ニテ舊友タル某伍長ト再會シ同所ニ
 テ談話中前方ヲ通過セル同部隊曹長ニ缺體セル爲同曹長ヨリ注意
 ヲ受クルヤ之ニ慥スルコトナク不遜ナル態度ヲ示シタル爲該曹長

ヨリ毆打セラレントスルヤ激昂シ脇下ニ入り腰投ヲ掛ケントシタ
ルモ果サス遂ニ組打トナリタル際同曹長ノ顔面ヲ三四ニ且リ毆打
シ同僚ヨリ制止セラルルヤ暴言ヲ以テ之ヲ侮辱ス

◎兵

用兇器上官傷害致死

甲第一八五部隊油田隊・補充兵役衛生上等兵一ハ六月二十四日
允許外出ノ上同僚四名ト共ニ北京市内散策後「つはもの」（酒）ニ於テ
飲酒泥酔シ前記同僚ノ保護ヲ受ケツツ騎隊ノ途ニフキー一七三〇頃
所屬隊表門衛兵所ニ到着シタル際服裝ヲ著シク素シ「第二組以下
全部外シ略帽ヲ冠ラス」アリタル爲衛兵司令稻垣伍長ヨリ「略町
シテモ服裝ヲ正シテ通レ其儘テハ營門ヲ通サス」ト注意セラレル
ヤ之ニ激昂シ衛兵前ニ到リ「稻垣」ト怒號シタル上「キチント直
キハ良イタロウ」「稻垣」ト放言セツツ酔歩・躊躇トシテ衛兵所

内ニ侵入シ稻垣伍長ニ近接矢庭ニ自己所携ノ三十年銃剣ヲ拔キ稻垣伍長ノ左肩胛棘線上第九第十肋間部ヲ刺突。陣戦ニ連スル深サ約十五糎ノ切創ヲ與ヘ因ツテ出血多量ノ爲遂ニ死ニ至ラシメタリ

戰地強姦哨令違反勦務隊

壘第一四七七部隊水庭隊補充兵役兵長一ハ彈藥庫分哨長トシテ勦務中

ノ五月十五日軍屬某ヨリ「プランデー」一本（約四合入）ノ贈與ヲ受クルヤ諒テ面議アル常人一ト共ニ同分哨假眼室ニ於テ會飲シ因テ勦務ヲ怠リ哨令ニ違反シ

2 右飲酒中警備地區副村長ヲ呼ビ奇セ共ニ飲酒シ一九〇〇頃醉余同副村長ト同行村公所ニ到リ暫時休息後日没トナリタル爲歸哨スヘク同所ヲ立出テ途中附近民家ノ婦女一ト遭遇スルヤ俄ニ劣情ニ驅ラレ之ヲ強姦スヘク決意シ矢庭ニ所携ノ銃剣ヲ引抜キ之ヲ撥シテ脅迫ノ上河原ニ連行致女ヲ強ヒテ淫シ

又五月二十六日巡察中同分哨兵一カ隊町ヲ上部落方向ニ無断出向
 セントスルヲ發見スルヤ古年隊兵ナル爲之ヲ制止シ得テ保護シ
 目的ニテ追尾中該兵カ婦女姦淫ノ目的ナルヲ察知セルモ却テ之
 ト共謀共姦淫センコトヲ決意シ該兵カ民家ニ侵入妻女一ヲ強姦
 シアルヲ發見スルヤ室外ニ在リテ見張り警戒ヲ爲シ該兵カ姦淫
 後立出ツルヤ劣情押へ難シ室内ニ侵入前記妻女ヲ更ニ強テ姦淫
 ス

◎軍 艦

旅 艦 獲 入 救 護

甲第一四一七部隊軍艦一牛島人通譯一ハ所屬隊偵察班ニ於テ服
 務中物然ニ題ラレ附近住民カ兵威ニ怖レアルモ密偵ヲ通シ正
 月用設備或ハ捕獲者釋放ヲ報酬ニ或ハ時伐時部落民ノ不在ヲ奇貨
 トシ家畜ヲ奪取スル等前後五回ニ亙リ合計九万四千圓ヲ掠取シタ

ル外豫テ自己婚約中ノ婦女カ他ニ情夫アルヲ聞知スルヤ報復金一
 万圓ノ提供ヲ條件ニ該情夫ヲ殺害方教唆シ因テ審偵ヲ受テ該情夫
 ヲ殺害セシメタリ

戰地強姦

北支那交通國德縣自動車營業所軍屬一ハ四月下旬二回ニ亙リ晝食
 後同營業所附近ニ於テ野外運動中偶々同所ヲ通り掛リタル華女一
 ヲ發見スルヤ劣情ニ驅ラレ同女ヲ人通りナキ附近民家ニ連行シテ
 之ヲ姦淫シタル外華女一ニ對シ根喪行爲ヲナス

其非行ノ狀況

六三三件八七一名中所屬長ニ通報セルモノ一七八件二八八名ニシテ
 前月ニ比シ通報セルモノ一一件六一名増加セリ之ヲ階級別ニ觀ルニ
 將 校 八名(前月 九名)
 准士官 四名(前月 一〇名)

下士官 五七名（前月 三六名）

兵 一三二名（前月 一一四名）

軍屬 一 般 五三名（前月 三四名）

交通團 三四名（前月 二四名）

計 二八八名（前月 二二七名）

ノ如ク前月ニ比シテ下士官一般軍屬ニ顯著ナル増加ヲ示シタリ

主ナル非行ヲ擧ケレハ

○ 酪町暴行（一言）傷害服装態度不良 一〇三名

○ 輕微ナル窃盜收賄賭博掠奪等 七二名

○ 脱逃（無斷外出）遊興 二一名

等ニシテ飲酒ニ基因セル非行依然多發シアリ

主ナル非行事例左ノ如ク詳細附表第三第四ノ如シ

◎ 將 校

○ 準第一七三三六部隊現役中尉一ハ飲酒酪町ノ上繁華街ニ於テ拔

刃洋車夫ヲ脅迫ノ上乘車シ車上ニテ尙拔刀セル事刀ヲ振上ケテ
 フ洋車夫ヲ威嚇シ部下兵四ラシテ後押シテナサシメ通行ス

○將第一四六三部隊豫備役中尉一ハ同僚將校ニト共ニ飲酒酩酊ノ
 上牛島崎亭ニ到リ妻女ニ對シ暴行ヲ爲シタル外妓女一ニ對シ拔
 刀シテ之ヲ威嚇ス

◎准士官

●秀領第一七二〇部隊現役五尉准尉一ハ昨年一月頃ヨリ一〇月ニ
 イル女給ト馴染トナルヤ屋々青島ニ出張市井ノ旅館ニ同伴投宿
 シ醜行ヲ重キ遂ニ懷孕セシメ該女給カ離別方哀願セヨモ肯セス
 却テ之ヲ毆打暴行ス

○仁第一四〇二部隊現役衛生士陸軍中尉一ハ速行シテ軍慰安所ニ到
 リ慰安婦ト口陰中該女カ慰安婦及家族ニ罪人エニ咬ミ付キ咬傷
 フ與ヘタルニ何等之カ防禦策ヲ講セス放任ス

◎下士官

○ 第一八五六部隊並河隊現役衛生曹長一ハ允許外出ノ上飲酒酷
 町二二〇〇頃洋車ニ乗車隊隊途次洋車夫ノ動作緩慢ナルニ憤激
 シ拔刀ノ上洋車夫ノ臀部ヲ刺突シ全治一週間ヲ要スル刺創ヲ與
 。

○ 至陸第一五六八一部隊曹長現役曹長一ハ分遣隊長トシテ服務
 中情報ノ訪問ヲ受クルヤ上司ニ無斷兵舎附近ニ宿泊セシメ一週
 間ニ亙リ同居生活ヲ爲ス

○ 第三九一五部隊隊員一ハ隊址構築ニ服務中無断外出ノ
 上特殊慰安所ニ到リ登樓翌朝送還スルカ此ノ間酌婦ノ態度不
 良ナリト憤激酌婦ノ院時計ヲ擲取除ス

○ 甲第一四八一部隊現役曹長一軍曹二ハ允許外出中使用務員ヨリ
 華人飯店ニ於テ娯遊ヲ受ケ際際ノ上更ニ「カフエー」ニ到リ飲
 酒諸酌偶々來客ノ船員五名ニ悪戯セルニ端ヲ發シ口論トナルヤ
 該船員三名ヲ捕獲又ハ所持ノ拳銃ニテ毆打シ二名ニ全治一週
 六

間ヲ要スル傷害ヲ與フ

◎兵

○甲第一五七五八部隊加藤隊現役上等兵一ハ交通團員妻女ト十數
 回ニ三リ不倫關係ヲ結ビアリタルヲ夫ヨリ發見セラレ關係ヲ絶
 ツヘタ誓約書ヲ徵セテレタルモ尙文通ヲ爲シテ家庭爭執ヲ惹起
 セシメ軍人ノ体面ヲ汚ス

○甲第一四〇九部隊現役上等兵一ハ照空勤務中遊具賣捨出ノ爲分
 屯地ヲ離脱前後三回ニ亘リ進行華人ヲ強奪金品ヲ掠取セントシ
 タルモ未遂ニ終ル

○甲第一四八七部隊現役兵四隊偵夜兵一ハ飛行場附近遊蕩ニ服勤
 中共謀又ハ單獨ニテ外出華人飲食店ニ於テ無錢飲食又ハ器物ヲ
 破損シ或ハ苦力監視中動作緩慢ナリトテ排水溝ニ突キ落シテ墜
 死セシメタル外苦力ノ拔荷行爲ニ憤激シ銃劍ニテ毆打傷害ヲ與
 フ

◎ 軍 兵

○ 一般軍情

○ 甲第一八〇〇部隊保刈隊軍屬（技術雇員）ハ飲酒ノ上同僚宅ヲ訪問途次知人ニ遺送スルヤ醉余業務上知得セル今次臨時召集ニ關シ「今度大キナ召集カアルニ十日迄ニ將校下士官三十日迄ニ未教育既教育ノ兵約一万余カ召集ニナル」云々ト軍事上ノ秘密ヲ漏洩因テ流官ノ因ヲ醸成ス

○ 戊第五三〇九部隊岡田隊軍屬（自動車手）一ハ倒菜ニテ飲酒酩酊ノ上女中ノ座席ニ來ラサルニ不滿ヲ抱キ土足ノ儘女中部屋ニ亂入居合セタル女中ニ對シ太鼓並煮沸シアル鍋竈ウドン鍋敷等ヲ投ケ全治一週間ヲ要スル火傷並傷害ヲ與フ

○ 交通阻礙

○ 新郷交通分團軍屬三八輩人一ヨリ小銃彈藥ノ密送方依頼ヲ受クルヤ報酬ヲ目的ニ小銃彈藥二二〇〇發ヲ輸送セントシテ未

逃亡離隊ノ狀況

逃亡離隊ノ狀況

逃亡 二七件三五名（前月三二件三九名）

離隊 一六件一七名（前月二二件二三名）

計 四三件五二名（前月五四件六二名）

ニシテ之カ主ナル原因ヲ舉クレハ

○ 嚴格ナル軍隊生活嫌忌 八件一三名

○ 身體虛弱ヲ苦慮 七件 七名

○ 叱責ヲ怖レ（悲觀シ） 四件 四名

○ 發作的精神異狀 四件 四名

等ニシテ嚴格ナル軍隊生活ヲ嫌忌セルモノ依然首位ヲ占ム

尙本期間朝鮮出身兵ノ逃亡離隊五件一〇名（前月三件七名）ノ發生

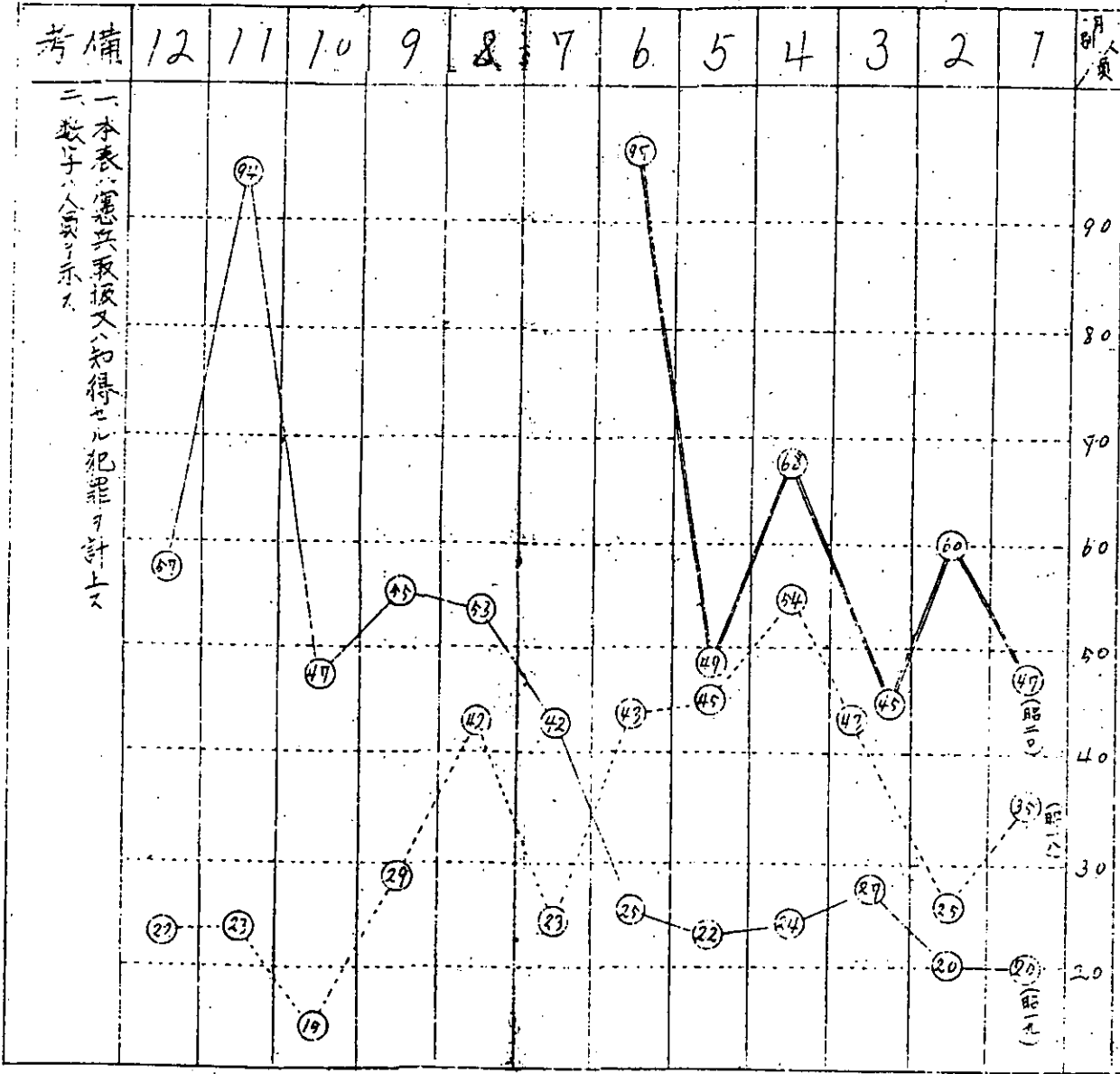
アリタリ

詳細附表第五、第六ノ如シ

考備	刑										法				
<p>一拾狐内罪名ハ主犯ト共犯トニルモノヲ示ス 二陸軍刑法下其他トノ併合罪ハ陸軍刑法ニ其他の併合罪ハ重キ罪ニ計上ス</p>	公文書毀棄	業務上過失傷害致死	傷害	過失傷害致死	業務上過失	賊物運送	強盜	器物毀棄	横領	詐欺	恐喝	殺人 (今未遂)	竊盜 (詐欺贓物致賣罪)	軍務執行妨害 (傷害)	軍用物損壞
	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

附表第二

過去三年間ニ於ケル陸軍之人軍属犯罪統計表



備考
一 本表ニ憲兵取扱又ハ知得タル犯罪ヲ計上ス
二 数字ハ人員ヲ示ス

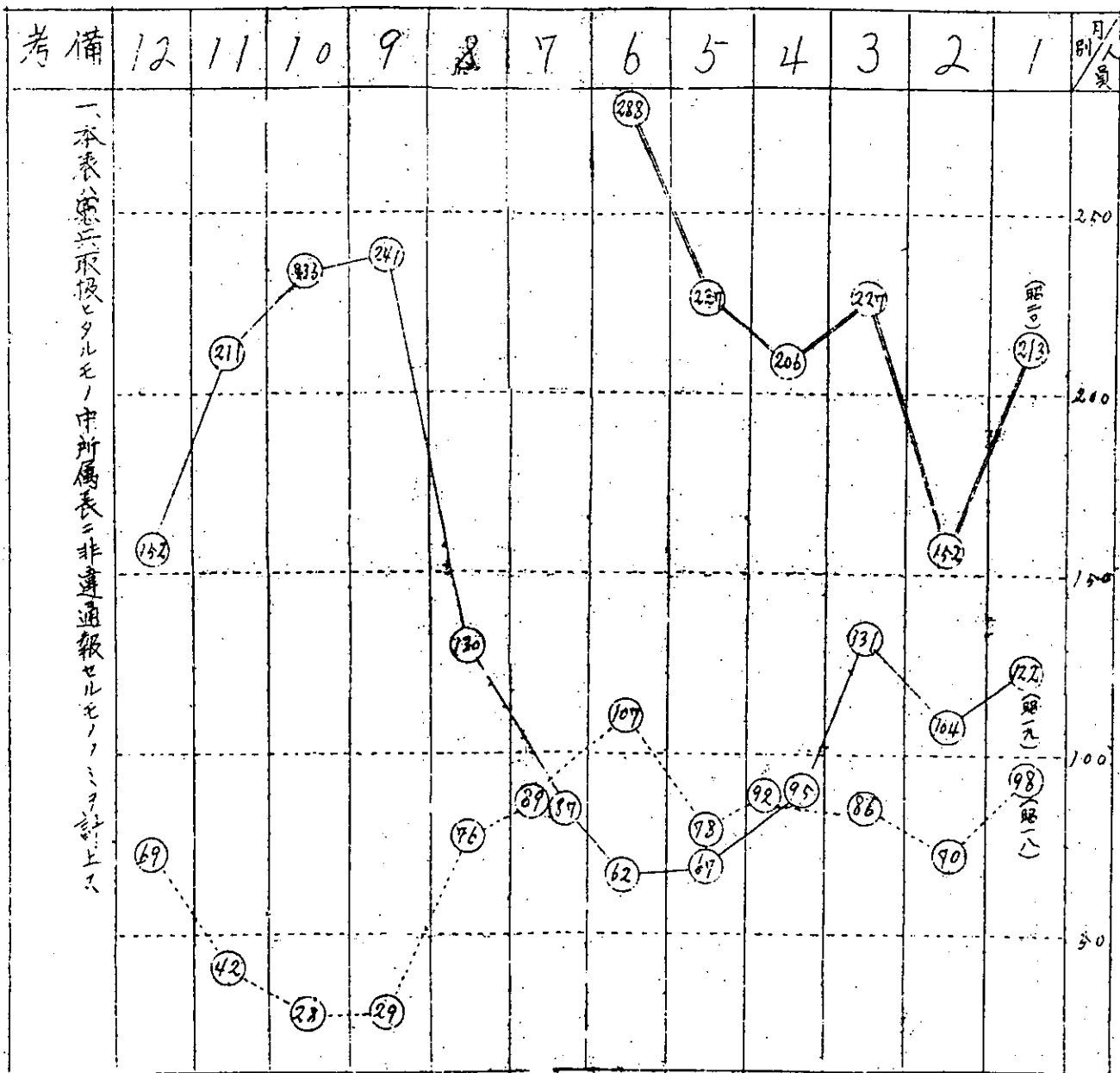
(昭二九) 昭二九
(昭二九) 昭二九

陸軍之人軍屬非行統計表 (六月)

内容	階級(役種)別	件数	將校		准官		下士官		兵		軍屬		計
			現	召	現	召	現	召	補	一般	交通		
昭訂暴行(言傳等)器物損壞 又、振替態度不良 公用勸進中飲酒遊樂又、私 用等々	別計	一六	三	五	四	三	四	七	五	二	一	五	二八
脱柵(無断外出)遊樂		一六				一	一	一	一	一	一	一	二
輕微ナル犯罪(盜竊)等類		一三			一		一	一	一	一	一	一	一七
賭博ヲ為ス		八					四	一	一	一	一	一	五〇
禁止区域ニ入遊興ス		七				一		一	一	一	一	一	八
防禦上有碍通信(言動)		六				二		一				一	四
無断常入宅ニ指泊ス		五					一	一	一	一	一	一	一一
掠奪類似行爲		四					三	一	一	一	一	一	五
筆劔利便利用通信		三					一		一	一	一	一	五
不始末(盗用)等類		三						二	一	一	一	一	三
婦人關係(風紀紊亂)		四	一		一	三		二	一	一	一	一	四

附表第四

過去三年間ニ於ケル陸軍々人軍屬非行動態表

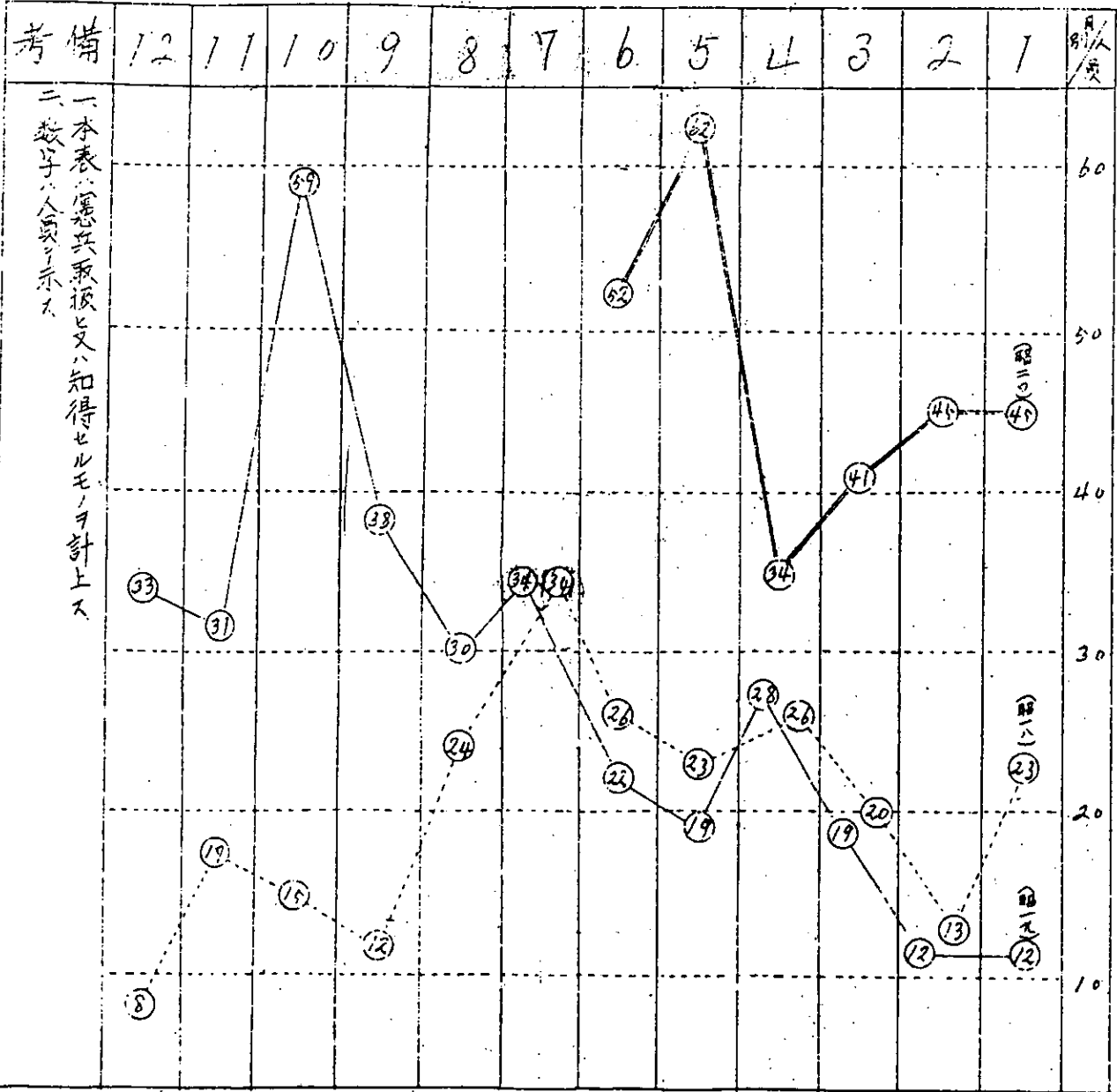


一、本表ハ憲兵取扱ヒタルモノ中所属長ニ非違通報セルモノノミヲ計上ス

考 備 一〇印ハ朝鮮出身者ヲ示ス	遊興	私的制裁ヲ苦慮	戰友ニ嘲笑セラレタルヲ悲觀	慕郷ノ念ニ駆ラレ	犯罪ノ發覺ヲ怖レ	勞役ニ耐ヘ兼ス	藝妓愛慕ノ餘リ	不正利得ヲ得ント	幹候不合格ヲ悲觀	戰鬪中行方不明(敵側逮捕スル)	右利ヲ難思ヲ苦慮
	心ニ駆ラレ	隊	離	七							
		一	二	一	一	一	一	一	一	三	三
										二	
			一						一		
		一									三
		一									二
		一	一	二	一	一	一	一	一	一	五

附表第六

過去三年間ニ於ケル陸軍ノ人軍屬逃亡離隊發生動態表



一本表ニ憲兵取扱トモ知得セルモノヲ計上ス
二数字ハ人員ヲ示ス

第一章	總則
第二章	經營
第三章	衛生
第四章	雜則及其他

駐屯地慰安所ニ關スル規定

第一章 總則

第一條 本規定ハ駐屯地慰安所ニ關スル必要ナル事項

ヲ規定ス

第二條

慰安所ハ日本軍人軍屬ニ於テ使用スルヲ本則ト
スルモ軍人軍屬ノ使用ニ支障ヲ與ヘサル限度ニ
於テ左記各項ヲ嚴守ノ上當分ノ中「コシダレ」在
位ノ日本人ハ二四三〇以降ニ限り特ニ登樓ヲ許可
ス從ツテ二四三〇以前ニ於ケル立入りハ之ヲ嚴禁ス

左記

1. 軍人軍屬ノ遊興ヲ妨害セザルコト
2. 規則ニ違反シ又ハ風紀ヲ紊スル如キ行爲ヲナサルコト
3. 登樓時刻以前ニ於ケル豫約ヲ嚴禁ス

料金ハ總テ將校ノ額トス

前各項ニ違背セシ者ニ對シテハ許可證ヲ引上ケ爾後
之ヲ禁止スル外其ノ行為ノ如何ニ據リテハ其ノ商社

ハモトヨリ日本人全部ヲ禁止スルコトアルヘシ

但シ奧地等ヨリ來渡者ニシテ右ノ時間以降ニ登樓

シ得サル特別ノ事情アルモノニ限り日本人會長ハ自己

ノ責任ヲ以テ其ノ都度豫定時間資格氏名等ヲ

記入セシ證明書ヲ本人ニ交付シ之ヲ樓主ニ明示スルニ依

リ開業時間内適宜登樓スルコトヲ得

第三條

本規定ニ將校トアルハ准士官見習士官及高等文官

同待遇囑託ニ又下士官トアルハ判任文官同待遇囑

託同雇員ニ兵トアルハ待遇ヲ定メサル囑託同雇員

及傭人ニ適用ス

第四條

慰安所ニ於ケル軍紀風紀及非違行為取締リハ
巡察將校又ハ駐屯地司令部娛樂係將校下士官ヲ以テ

日支人會社
村田八郎

在屯所
ノ附
ノ引子

二種
ノ同
ノ全
ノ空

第五條

テ行フヲ本則トス
慰安所使用日ハ下士官兵ニアリテハ各隊外出日

第六條

トス
慰安所ニ出入スル下士官兵ハ外出証ヲ有スルモノニ限り
且ツ部隊ノ規定セル部隊標識及階級章ヲ附スル
モノトシ慰安所内ニ掲示セル注意事項ヲ嚴守スル
モノトス

第七條

慰安所ニ於テ營業者又ハ慰安婦ヨリ不當ノ取扱ヲ
受ケルカ或ハ金錢等ノ強要ヲ受ケタル場合ハ直チ
ニ其ノ首ヲ所属隊長ヲ經テ該地司令部ニ報告
スルモノトシ如何ナル場合ト雖モ殴打暴行等ノ所爲
アルベカラズ

第八條

慰安所内ニ於テ規定ヲ履行セザル者ハ直チ其ノ
使用ヲ禁止スルノミナラズ該地司令部ニ報告

告知シ要之ハ當該部隊ノ使用ヲ一時停止スルコトアリ

第二章 經營

第九條

慰安所ニ於ケル料金ハ軍ノ定允軍票ニ依ルモノト

シ其他ノ物品ヲ以テナスコトヲ得ス

第十條

慰安所ノ使用時間及ヒ料金ハ別紙第一ニ據ルモ

狀況ニ依リ變更スルコトアリ

第十一條

慰安所經營者ハ各慰安婦室ノ入口並ニ見易キ箇所

ニホ札ヲ以テ慰安婦ノ姓名及合不合格ヲ揭示シ置

クセトス

第十二條

設備費及患者ノ治療費ハ總テ經營者ノ負擔トス

モ營繕ニ關スル箇事ナル設備ハ軍ニ於テ實施スルコ

トアリ

第十三條

經營者ハ其ノ月ノ賣上高ヲ翌月五日迄別紙第二

第十四條

ノ様式ニ據リ駐屯地司令部ニ提出スルモノトス
貨物廠等ヨリ交付ヲ受クハキ調味品類其他ノ
必需品ハ所要ノ月前ニ駐屯地司令部ニ請求スル
モノトス

第三章 衛生

第十五條

慰安所ニ於テ消毒所ヲ經營者ニ依リ設置スル
モノトス

第十六條

消毒所ノ消毒設備ハ灌水器ニ萬倍ノ過リ消毒液
ヲ滿タシ置クモノトス

第十七條

「サソク」(星殺亮)ヲ使用セサル者ハ遊興セシノサルモ
ノトス

第十八條

遊興者及其ノ相方ハ毎回消毒所ニ於テ確實ニ消毒
ヲ行フモノトス

第十九條

慰安婦ノ健康ニ就イテハ經營者ハ特ニ注意シ營業開始前慰安婦ヲシテ軍ノ實施スル一般身體検査及局部検査ヲ受ケシムルモノトス

第二十條

每週一面慰安婦ノ身體検査ヲ實施シ其ノ程度依リ左ノ如ク區分シ其ノ証票ヲ慰安婦ニ所持セシムルモノトス

左記

合格
不合格

營業ヲ許可セラレタル者

休業スヘキ者

第二十一條

經營者(慰安婦)ハ軍人軍屬ヨリ每週ノ検査成績ノ提示ヲ要求セラレタル時ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四章 雜則 及其他

第二十二條 管理部隊別紙第三慰安所注意事項ヲ營業

第三十二條

所ニ揭示スルモノトス
慰安婦ノ他出ニ際シテハ經營者ノ証明アル他出証
ヲ携行セシムルモノトス

別紙第一

慰安所使用時間及遊興料金表

備考	將校		下士官		兵		區分
	商社関係使用者規定第二條ヲ嚴守スルモノナ 八 〇 〇	至 自	至 自	至 自	至 自	至 自	至 自
二 四 八 〇 〇		二 四 〇 〇 〇	一 七 〇 〇 〇	一 七 〇 〇 〇	三 十 分	遊興時間	遊興料金
	泊 り	五 十 分	四 十 分	二 〇 分	一 〇 分	一 〇 分	一 〇 〇 〇 〇

別紙第三

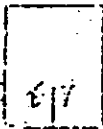
慰安所ニ於ケル軍人軍屬其他使用者ノ守可キ

注意事項

- 一 大日本帝國軍人軍屬及日本人タル事ヲ自覺シ其威信ヲ失墜スルカ如キ行爲ヲナサハルコト
- 二 特ニ防諜ニ注意スルコト
- 三 慰安所ニ於テ使用スル通貨ハ「ルビ」又ハ「ドル」軍票タルヘキコト
- 四 料金規定料金表ヨリ現金ニ豫メ支拂ヒタル後遊興ヲナスヘキコト
- 五 過度ノ飲酒者ハ遊興セザルコト
- 六 従業員(慰安婦ヲ含)ニ對シ粗暴ノ振舞ヲナサハルコト
- 七 「ザツク」(屋敷券)ヲ必ス使用シ確實洗濯ヲ行ヒ性病予防ヲ完全テラシムコト
- 八 規定ノ時間ヲ嚴守スルコト

昭和 年 月 日

駐屯地司令部



⑧ 第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定 [第五野戰輸送司令部] (昭18・10・3)

隊長



副官



主任

連帶

軍事極秘

第五輸送防第二八號

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定

昭和十八年正月三日
第五野戰輸送司令部

中野

中野



中野

	三月 五 日
	三月 五 日
	三月 五 日

昭和十八年正月三日



五輸駐防第二八號

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定件連



駐屯地諸部隊一般

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定本冊、通定、
昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行、

昭和十八年十月三十一日 第五野戰輸送司令官 高田清彦

配布區分

配布先	部数	配布先	部数
林司	一	患五八小	一
五三兵站本部	二	特建二八中	一
高射五一火	一	三〇三野部	一
水勤三三中	一	カンタム勞務部	一
陸勤七九中	一	司令部	一
五特鉄工作	一	兵器支廠	一
特設水勤二一	一	貨物支廠	一
一三兵站病馬廠	一	自動車支廠	一
獨自五九火	一	六一停司	一
二〇航空補支	一	三特水輸隊	一
特設陸勤一口	一	一五軍兵器廠	一
電一九科五中	一	同自動車廠	一

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定目次

第一章	總則	一	頁
第二章	駐屯地司令官の職域	二	
第三章	警備	五	
第四章	軍秩 軍紀 風紀	一五	
第五章	建物 軍需資材	二三	
第六章	防疫 衛生	一六	
第七章	其他	二七	

第五野戰輸送司令部駐屯地業務規定

第一章 總則

第一條 本規定ハ第五野戰輸送司令官ヲ駐屯地司令官
タル場合其駐屯地業務執行ノ爲必要ナル一般ノ事項ニ關シ定ム
駐屯地ノ實情ニ即應シテ勤務上必要ナル細部ノ事項ニ就テ別ニ
之ヲ定ム

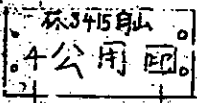
第二條 駐屯地業務ニ關シ本規定ニ於テ定メタル以外ノ事項ニ
關シテハ林集團防衛規定(昭和十七年十月二十日合林集團司令部)ニ據ル
外所要ニ應ジ衛戍令、衛戍勤務令、作戰要務令、自動車交通規
定(昭和十七年六月十五日第十五軍司令部)其他第十五軍ノ定ムル
諸規定ニ示ス所ヲ準テ用ス但シ兵器ノ使用ニ就テハ作戰要務令ニ據ル

第三條 駐屯地 兵、地名ヲ冠シテ某駐屯地ト謂フ

司公官、認可ヲ受クルモノトス。右ノ認可ヲ受クルコトニ付、外出セシ

メタル場合、外出者ハ當日慰安所ヲ利用シ得サルモノトス。

第三十八條 下士官以下ハ公用外出者ニハ左腕左ノ腕章ヲ附着セシム



部隊印

白布 黒書

大サ 適宜トス

要スルハ番號ヲ記ス

前項腕章ハ各部隊毎ニ原簿ヲ備ヘ置キ、之ヲ推定シテスルト
共ニ紛失等場合ハ速ニ遺失ノ報告ヲ行ヒ、之ヲ推定シテスルト
狀況止テ得ル場合ニハ腕章ニ代フルニ公用証(緑)等軍隊内務令
ニ準テス。但シ同有部隊名等ヲ避クニシテ、又、之ヲ得
第三十九條 日課時限慰安所ノ設置並ニ其ノ使用日割ハ

銃等射撃場火砲射撃場等ニ關シテハ必要ノ都度司令官之ヲ定ム

第四十條 駐屯地外ニ於テ掃蕩演習行軍實定(費彈)空

(急)射撃等燃焼作業等ヲ行フ場合ニハ成ルルヲ實施ニ可前迄ニ概要

ヲ司令官ニ報告ス

第四十一條 外出中軍人軍屬ノ行動ニ關シテハ既ニ關係諸條ニ

於テ要求セル所ニ據ルノ外左ノ通心得ルモノトス

一 軍人軍屬ニシテ空襲警戒報ニ遭遇セハ速カニ最寄部隊ニ行進

スルモノトス

各部隊(衛兵歩哨)ハ前項行進者、ミナラズ新來、通過者ヨモ道

ニテ營内ニテ木内ニ避難セシムルヲ要ス

二 軍人軍屬ニシテ死傷者ヲ生シヨレ場合ニハ最寄部隊ニ旅ニ之ヲ收

養スルト共ニ所屬部隊ニ通報、處置ヲ執ル

三 外出者ハ空襲警ニ依ル防護處理等、為最寄部隊ニ要求アリ

タルトキハ之ニ應答スヘキモノトス

4. 前三項 爲外出者帰營時限ニ達ルル處アルカ達レル場合ニ其ハ
 旨關係部隊長ハ證明ハ

5. 防謀ニ特ニ注意ス

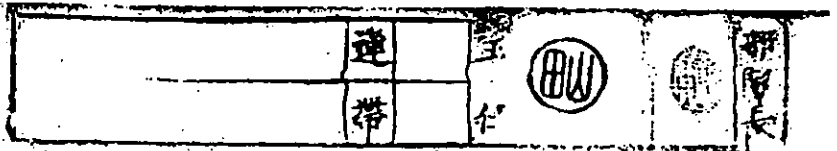
6. 軍ニ於テ指定セルモ以外ノ飲食店等ノ賣品ヲ飲食スヘカラス

7. 慰安所ヲ利用スル者ハ密ニ其ノ規定ヲ遵守スルミテ又苟モ不徳
 義ノ言動ヲ爲シ日本軍人ノ名譽ヲ汚スコトアルヘカラス

8. 將兵ハ外出間常ニ軍紀ヲ嚴南敬禮ヲ嚴正服甚々端正ヲ旨ト
 スヘシ

9. 將兵ハ外出間苟モ裸体ヲ排斥詔呼ヲ任民ノ眼前ニ暴露スヘカラス

⑨ 「マンドレー」 駐屯地業務規定 「第五野戦輸送司令部」 (昭18・10・20)



軍事秘
五輸駐防第二九號

昭和十八年十月二十
第五野戦輸送司令部

「マンドレー」駐屯地業務規定

↓



佐方 M W

田
寛

	結 印
	川 印
	川 印

仲
芳
系
為
係
長
下
百
三
十
三



五輸駐

切二九號

「マングレ」駐屯地業務規定ノ件達

「マングレ」駐屯地諸部隊一般

「マングレ」駐屯地業務規定本冊、通制定シ昭和十八年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

追テ「マングレ」駐屯地勤務規定(昭和十七年十二月三日 林第七〇二四部發)「マングレ」

附近統制地區防空暫行規定(昭和十八年三月三日 林第七〇三四部發)要註日命第二

號ヲ昭和十八年十一月三十日限廢止ス

昭和十八年十月三十一日 中兵站地區司令官 高田清秀

「マングレ」駐屯地業務規定目次

第一章	總 則	一
第二章	兵站地區隊長ノ職責	二
第三章	警 備	四
第四章	軍 秩 軍 紀 風 紀	八
第五章	建 物 資 材	一一
第六章	防 疫 衛 生	一二
第七章	其、他	一四

新駐屯部隊ハ速カニ地區隊長本部ニ連絡シテ其ノ決定ヲ受クルモノトス

第十七條 一般外出日ニ於ケル外出時限ハ一〇〇ヨリ下士官(判任官)

却井

ニ一。迄兵(下士官勤務兵長ヲ管ム) (雇庸人)ハ一九〇迄トシ且兵
官内居住下士官以下官(各)ノ者ハ軍隊内及入隊者一九三ヨリ
ヨリ

第十八條 各部隊長ハ一般外出日ニ於ケル下士官以下外出者ノ服装ヲ
軍隊内及入隊者ハ四ニ成ルハ同ノ地帯勤務執行ノ成(子)倍及別隊(子)同

第十九條 日課時限ノ基準別紙第九ノ如シ

第二十條 慰安所ニ関シテハ駐屯地慰安所規定(昭和十八年三月十六日)ニ據ルヘシ

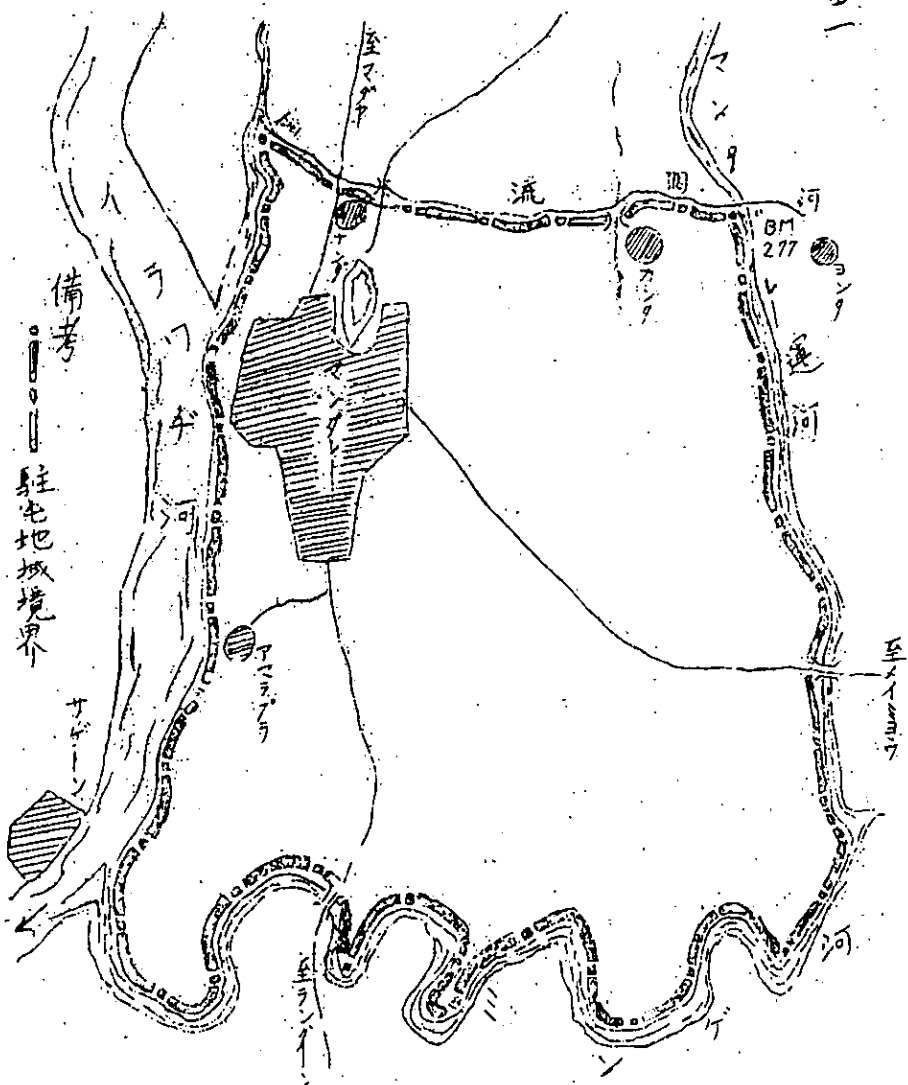
第二十一條 小銃(機刺銃擲彈筒)手榴彈ヲ含ム射撃場別紙第十ノ
如シ

第二十二條 火砲射撃場別紙第十一ノ如シ

第二十三條 前二條ノ射撃場ヲ使用シ若クハ駐屯地内ニ於テ爆破作業
等ヲ行ハントスル場合ニハ部隊長ハ實施二日前迄ニ地區隊長ニ概要ヲ
報告シ地區隊長ハ司令官ニ報告スヘシ

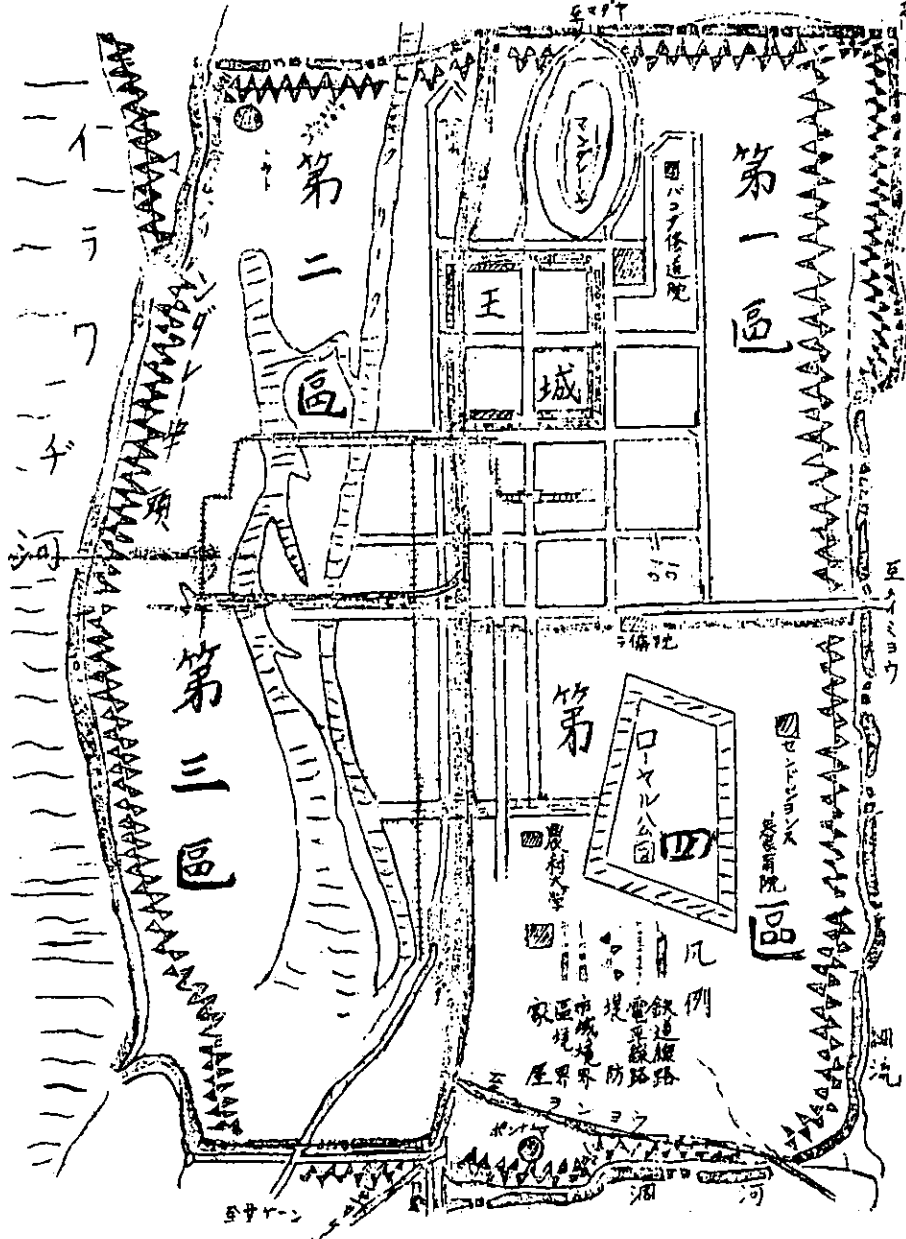
マンドレイ駐屯地域要圖

別紙第一



「ワンダレ」市域及境界要圖

別紙第二



別紙第八(五三站駐警第三號ニ依リ訂正ノ分)

「マングレ」駐屯部隊一般外出日割表

部 隊 名	員 数	日	月	火	水	木	金	土	備 考
第五野戰輸送司令部	1	0	0						
第五十三兵站地區隊	1/2	0					0	0	
第六十一停車場司令部	1/2							0	
第八特設鐵道工務隊	1/2		0	0	0			0	
野戰高射砲隊第五十一大隊	1/3		0	0	0			0	
獨立自動車隊第五十九大隊	1							0	
架橋材料隊第二十二中隊	1/2				0				
第十三兵站病馬廠	1/2					0			
野戰貨物廠	1							0	
野戰兵器廠	1		0						
野戰自動車廠	1			0					
獨立糧食隊第五五中隊	1					0	0		
架橋材料隊第二十一中隊	1/2					0	0		
患者輸送隊第七十一隊	1				0	0			
水上勤務隊第三十三中隊	1/3					0	0		
陸上勤務隊第七十九中隊	1/2		0	0					
特設水上勤務隊第二十二中隊	1/2					0	0		
電信第十九聯隊第四中隊	1							0	
特設連隊勤務隊第二十八中隊	1					0	0		
第三〇三野戰節便所	1	0	0						
節節隊經理部出張所	1							0	
特設自動車隊第五十中隊	1							0	
第二〇野戰航空補給廠	1/2							0	
第七航空地區司令部	1/2			0	0				
第五特設鐵道橋梁隊	1/3			0	0				
第五特設病院「マングレ」出張所	1			0	0				
第五特設鐵道工作隊	1/2			0	0				
第十特設鐵道運輸隊	1/3			0	0				
森務務部「マングレ」出張所	1			0					
第五特設鐵道運用隊「マングレ」出張所	1			0					

兵補ノ部

獨立自動車隊第五十九大隊
 水上勤務隊第三十三中隊
 特設水上勤務隊第二十二中隊
 特設連隊勤務隊第二十八中隊
 第二〇野戰航空補給廠

獨立自動車隊第五十九大隊	1	0							
水上勤務隊第三十三中隊	1/3		0						
特設水上勤務隊第二十二中隊	1/2					0	0		
特設連隊勤務隊第二十八中隊	1/2				0			0	
第二〇野戰航空補給廠	1/2		0	0					

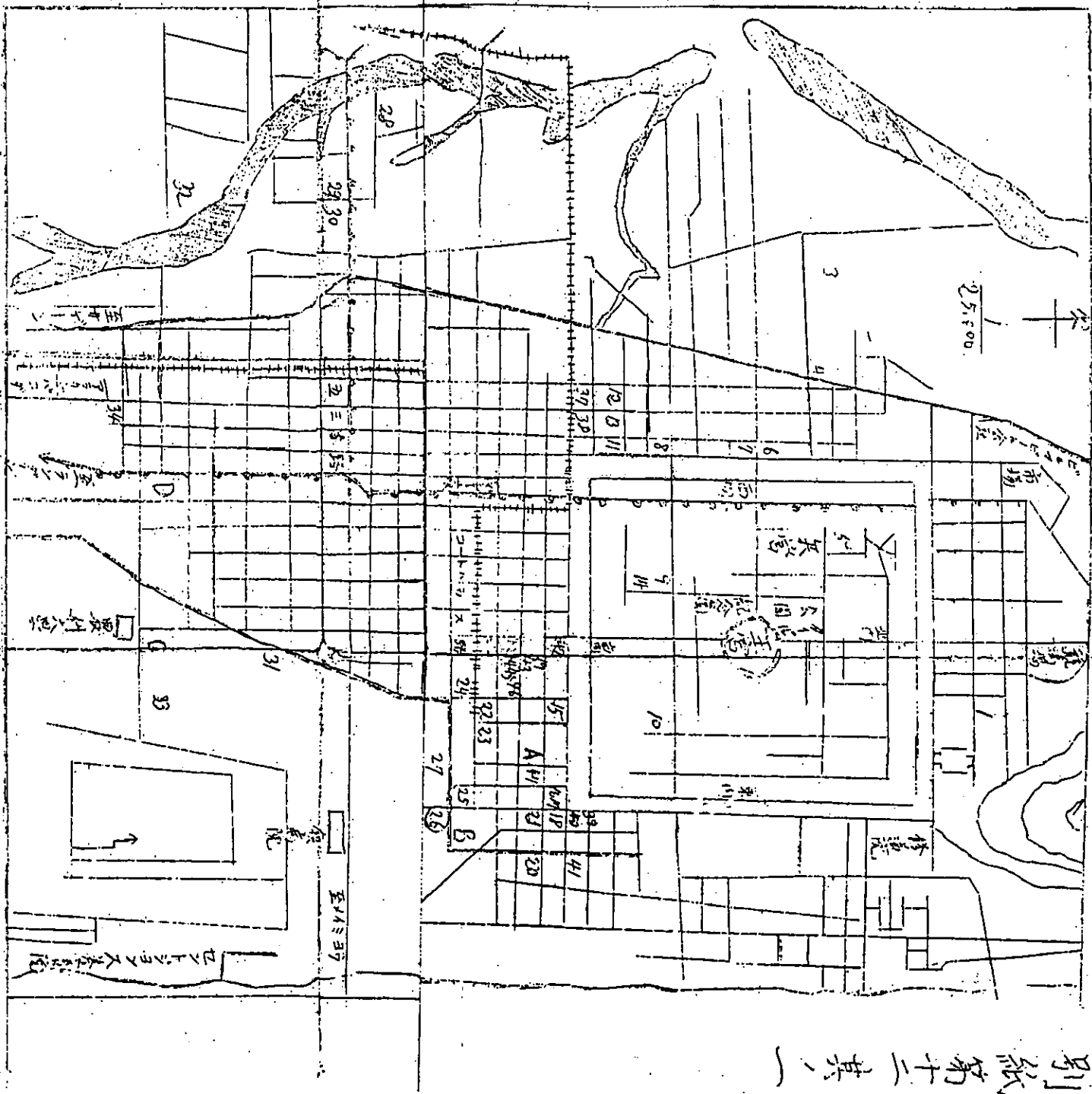
備考
 一〇印ノ外出曜日ヲ示ス
 一回外出人員ヲ全員ニ對スル
 割合ナリ

飛紙第九

ヨシダシ一附近日課時限ノ基準

備考	消燈	夕食	業務終了	晝食	教育訓練其他	朝食	起床	日課		
								十月	三月	四月
細部ハ各部隊長ニ於テ是ム 各部隊長ハ業務ノ都合ニ依リ本表時限ヲ変更スル コトヲ得	二	一	一	一	一	一	〇	十	三	四
	三	九	八	四	四	〇	九	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	二	一	一	一	一	一	〇	十	三	四
	三	九	七	四	四	〇	九	〇	〇	〇
	〇	〇	三	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇

「ワシタレ」駐屯地配属要圖其ノ一



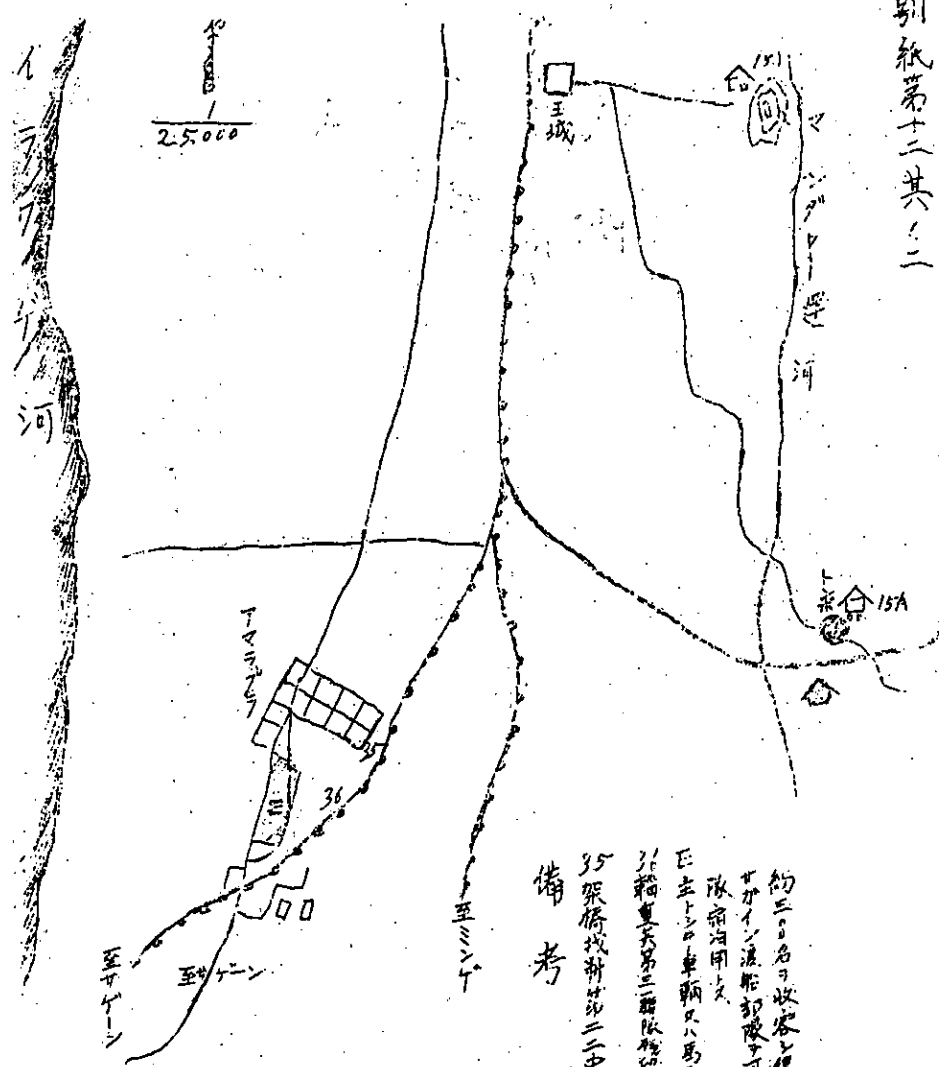
21	第五野戰輸送司令部	22	吉樂莊(駐屯所)
19	陸上勤務第七九中队	23	戰友食堂
18	通信隊九聯隊	24	日ノ丸屋
17	獨立自動車第五大隊	25	樂天地(駐屯所)
16	第一〇一〇兵站支隊	26	錦水閣
15	軍航空地區倉庫	27	兵站酒保
14	司令官々舎	28	ビルツ館(駐屯所)
13	第五三兵站地區隊	29	北海棧(駐屯所)
12	女子學徒部出張所	30	芥子(駐屯所)
11	第三野戰航空補給隊	31	瓦城園
10	野戰部隊連(給所)	32	第一〇一〇食堂
9	患者輸送隊五中队	33	輜重兵第三二聯隊
8	第一〇一〇憲兵隊	34	架橋材料第三中队
7	野戰自動車隊之支隊	35	獨立自動車第二中队
6	在兵站之野戰隊	36	第五六隊軍需隊
5	志者輸送隊七二中队	37	野戰兵器廠(駐屯所)
4	第三野戰輸送隊	38	野戰兵器廠(駐屯所)
3	第五野戰鐵道橋梁隊	39	特設水上勤務第三中队
2	野戰貨物隊之支隊	40	野戰兵器廠之支隊
1	特設自動車第七九中队	41	水上勤務第三中队
	第四野戰經理部出張所	42	野戰兵器廠(駐屯所)
	第十三兵站病馬廠	43	野戰兵器廠(駐屯所)
	特設建築勤務隊第三中队	44	架橋材料第三中队

備考

別紙第十二其ノ一

ニ其要圖宿配地屯駐「ラングレ」

別紙第十二其ノ二



約三〇名ヲ收容シ得
 甘クイン渡船卸限ヲ可トス
 隊宿泊用トス
 巨主トシテ車輛又ハ馬匹卸
 35 架橋機材等ニ中隊
 備考

別紙第十三

「マングレー」駐屯地区内軍指定飲食店表

- 一 「マングレー」食堂
- 二 錦水閣
- 三 戦友食堂
- 四 日の丸屋
- 五 兵站酒保
- 六 瓦城園

駐摩第百五十四號

「マンガレ」駐屯地勤務規定制定件上達

「マンガレ」駐屯地諸部隊殿

マンガレ駐屯地勤務規定制定本冊 通鋪定 昭知二十年

一月十一日ヨリ又ノ施行ス

遵照

「マンガレ」駐屯地業務規定制定(巻六、二百四第号) 昭知二十年一月十日限之ヲ廢止ス

二本規定制(東南ノ受ケル駐屯部隊駐屯地外ニ移動セントスルキハ、以テ本規定制ヲ命令部ニ返納ス)

昭和二十年一月二日

「マンガレ」駐屯地司令官 粕谷 留吉



第一章
第二章
第三章
第四章
第五章
第六章
第七章
第八章

目

次
總則
駐屯地司令官職域
防衛
軍秩
軍紀風紀
軍需資料
建築物
防疫衛生
定例報告
其他

○ 山野戰郵便所以外、取扱基ヲ私信及私紙ヲ禁止ス

○ 軍機動時期等ノ重要時期ニ時駐屯地ニ滯留スル部隊特ニ

左點ニ注意スルモノトス

(1) 宿營ハ分散設置ヲナサシム

(2) 行軍移動ハ成ル可ク小縱隊トシ且時期的ニ不規ヲシタル如ク勉ム

○ 第三四條 敵情並ニ主民其他ニ関スル情報ヲ得若クハ宣傳物件投下等

認メタル場合ニ速ニ司令部若クハ最寄憲兵隊ニ報告通報シ落

下傘ニ依ル降下兵ニ速捕シ司令部ニ最寄憲兵隊ニ連行スルモノトス

○ 第三五條 司令官 防諜上其他必要ト認メタル場合私服ヲ許可セラル

コトヲ、此際司令官ノ發行セル私服許可證明書ヲ携行スルモノトス

第三六條 駐屯地ノ電報網別紙第七ノ如シ

第三七條 駐屯部隊ノ暗號電報取扱ニ関シテハ本條第一三二〇部隊電

報發信統制規定ニ據ル

第四章 軍秩 軍紀 風紀

第三八條 駐屯地ニ於ケル軍ノ秩序ヲ維持シ且嚴シク軍紀風紀ヲ確立ス

ル為駐屯部隊一時滯留部隊通過部隊ノ長ハ自己ノ責任ニ於テ
部下ノ監督ニ遺憾ナキヲ期スル共ニ將校ハ進ニテ他隊ノ軍人軍屬ト
雖モ又ラ矯正ニ義務アルモノトス

第三章九條 前ニ駐屯地ニ駐屯駐留若クハ通過セントスル部隊ハ速カニ連絡
者ヲ司令部ニ先發セシメ所要ノ連絡ヲナスル共ニ部隊到着ハ速カニ
隊長若クハ將校(此ヨリ得ヤレハ准士官以下)ヲシテ其ノ自司令官ニ申出ラ
セシムルモノトス

部隊駐屯地以外ニ移動セントキ亦前項ニ同シ

第三章條 駐屯地所謂遊兵ヲ滯留セシメサル為凡テ駐屯地勤務ニ服スル
者自ラ責任ニ於テ取締ルモノトス

第三章條 駐屯部隊若クハ一時駐屯地ニ滯留スル部隊駐屯地ヲ去ルニ方リ
隊屢貨物等ヲ駐屯地ニ残置セントスル場合ハ司令部ニ其ノ荷物等ノ
種類數量監視ノ方法等ヲ届出テ認可ヲ得ルモノトス

司令部ニ成シ得ル限リ又ラ適當ナル部隊ヨシテ保管セシメ以テ徒ラニ監視

為三兵員ヲ残置スル時ナシト夫ニ駐屯地ノ秩序維持ノ助成ニ勉
 ○第三條 駐屯地内ヲ運行シ自動車ハ左記規定速度ヲ最守ル事故
 絶無ヲ期スルニトス

左記

車種	市内	市外	摘	要
乗用車 制車ノ合シ	三〇軒以下	六〇軒以下	各渡船場停車場ヲ一軒内ノ区域 ニ外ト雖モ市内ト看做ス	
貨車	三〇軒以下	四〇軒以下		
部隊	二〇軒以下	三五軒以下		
備	一 鐵道附屬通過ノ時ハ豫メ列車ノ近接ナキヲ確認シタル後最速速度 三ニ通過スルニトス 二 夜間ニ在リテハ前號ヲ檢スルニ先除キ速度ニ更ニ低下スルニトス			

○第三條 駐屯地内ヲ運行スル自動車ニシテハ工車若クハ積載量僅少ナル
 場合努メテ便乗者ノ便乘ニ供シ車輛ノ有効的利用ヲ計ルニトス
 第三條 各駐屯部隊ノ一般外出日ハ概テ一週内一日勤務交代兵ニシテ

二日トシ其ノ日時ハ司令官之ヲ統制ス

前項指是外他自ニ外出ヲ實施シ得サリ駐屯部隊ニテ臨時ニ

狀況止ラテ得ガル場合ニ腕章ニ代ルニ公用證(樣式軍隊内務書準々)
身以テズルコトヲ得

○第拾條 外出中、軍人軍屬、行動ニ関シテ、既ニ關係諸條ニ於テ要求スル所ニ據ル、外左ノ通ニ得ヘシ

(一) 軍人、軍屬、外出間、常ニ軍紀ノ最肅敬禮、最正服装、端

正ヲモトスヘシ

(二) 軍人、軍屬ニシテ空襲警報ニ遭遇スル速カニ最寄部隊ニ又ハ

附近ノ適地ニ待避スルモノトス

各部隊肅兵ハ前項待避者ノミナラス新來ノ通過者ヨス進

營内ニ避難スルヲ要ス

(三) 軍人、軍屬ニシテ死傷者ヲ生シタル場合ニ、最寄部隊ニ於テ之ヲ

收療スルト共ニ所屬部隊ニ通報、處置ヲ執ルモノトス

(四) 外出者ハ空襲ニ依ル防護處理等、爲最寄部隊ノ要求ナリ

タルトキハ支障ナキ限り之ニ應答スルモノトス

(五) 前三項ニ當リ外出者歸營時向遲ルニ應アルカ又遲レル場合

ニ其ノ旨關係部隊長ハ證明スルモノトス

(6) 防護ニ特ニ注意ス

(1) 軍ニ於テ指定スル以外、飲食モ等ニシテリ飲食スヘカラス (別紙十一参照)
(2) 慰安所ヲ利用スル者ハ當ニ駐屯地慰安所規定規則冊)ヲ遵守スル

オラス等モ不徳義ノ言動ヲ為シ其ノ名譽ヲ汚スコトアルヘカラス

(3) 將兵 非出間司ニ裸体排尿、強固ニ住民 眼前ニ糞露スヘカラス

第四十條 小銃(機關銃 擲彈筒)ニ榴彈ヲ含メ射撃場別紙第九ノ如シ

第四十條 火砲射撃場別紙第九ノ如シ

第四十條 前一條 射撃場ヲ使用シ若ク駐屯地内ニ於テ爆破作業

等ヲ行ハントスル場合ハ部隊長ハ當ニ前道司令官ヲ認可スルモノトス

第四十一條 日課制限基準別紙第十ノ如ク是ル

第五章 建物、軍需資材

第四十二條 駐屯地ニ於テハ部隊駐屯ハタシ、家産配當ハ司令部於保管等ニ

第四十三條 部隊若クハ軍人軍屬ニ供用サル建物、保存火災防除等ニ

別紙第十一號

軍指定軍准指定食堂慰守所

事業種目		店名		販賣種目		定休日		摘要	
軍指定 飲食店	同	战友食堂	宮川食堂	日本料理	一日 二六	晝間	營業		
同	同	マカレー食堂	同	支那料理	一三 三八	夜間	宴會 ノ トス		
同	同	菊屋食堂	同	日本料理	五二 〇	營業時間	自一九〇〇 至二四〇〇		
軍准指定 飲食店	同	寶塚食堂	同	支那料理	九二 四	晝間	營業		
同	同	慶芳酒家	同	菓子	一五 三〇				
同	同	昭和製菓	同	菓子	一五 三〇				
同	同	進軍餅屋	同	餅	三三 八				
同	同	瓦城園	同	喫茶	一一 三六				

軍指所 慰安所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
樓名	梅乃家	萬來家	東亜俱樂部	朝日俱樂部	菊園	樂天地	ビルマ館	喜樂莊	新緬館	同
國籍別 定休日	内地人 八日 三日	廣東人 一二六	半島人 三六	同 五二〇	同 九三四	ビルマ人 五三〇	同 二三八	同 一一六	同 八三三	同 八三三
摘要	將校慰安所								ビルマ兵補専用	

王城

梅乃家

昭和製菓堂

反城園

マシヤ一倉

軍指
定
軍准
指定
食堂
慰安
所
要
圖

食堂

慰安所

喜樂社

寶塚食堂

東洋俱樂部

苗來家

朝日俱樂部

心之館

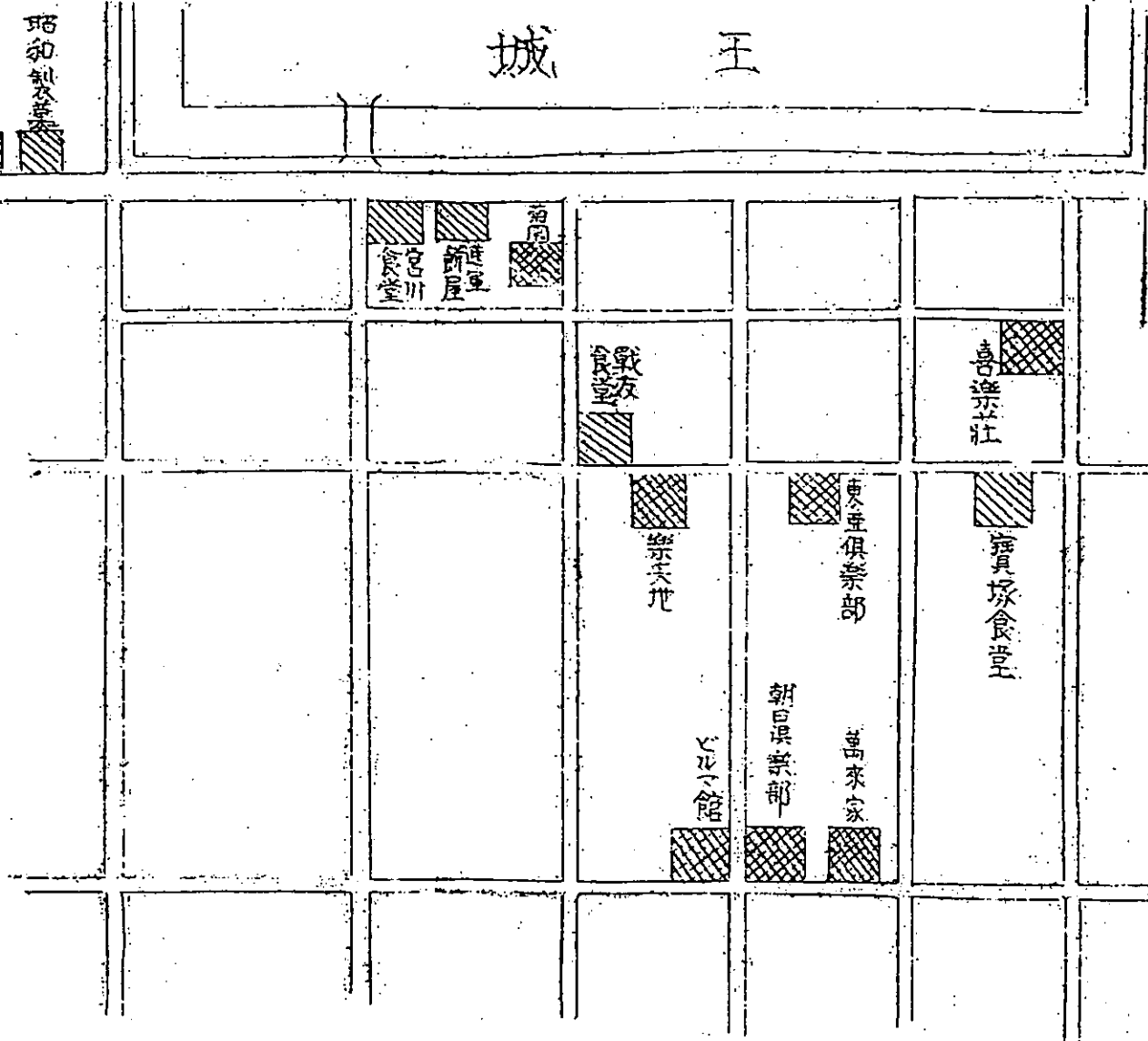
樂天地

戰友
食堂

新屋
川
酒
店

慶幸酒家

門
口



厚生省關係公表資料

日本派遣南方軍最高司令官宛

聯合國指令書第一號

一九四五年八月二十七日蘭貢ニ於テ署名日本派遣南方總
軍司令官ノ代理トシテ捺印セラレタル地方的取極メニ基
キ佛領印度支那占領聯合國陸軍司令官ノ發給セル
命令

（中略）

遊女屋並慰安隊

28、日本醫務當局ハ
 大佐ト相談シ性病患者ト知
 ラレタル婦人ハ國籍ノ如何ヲ問ハス之ヲ西貢内ノ一定病院ニ
 收容シ貴官ハ病院ノ適正警備ト收容者ノ適正治療
 トヲナサシムヘシ

一九四五年九月七日

聯合國陸軍最高司令官ノ名ニ於テ
 佛領印度支那那聯合國軍司令官

陸軍少將

(署名)

参考情報 第一二節

沖繩本島ノ狀況

昭二一・一・一六

資料 諜

(註) 本資料ハ二月九日沖繩本島ヨリ帰還セル歩兵第22聯隊
附軍医大尉 [redacted] ノ報告ニ依リテ撰テ成ルモノナリ

(平略)

ニ終戦後ニ於ケル軍隊及邦人狀況單紀一般秩序

(中略)

(三) 邦人ノ狀況

前項ニ述ベタル如ク地方人ハ柵内ニ收容米單ノ給與ヲ受ケタレテ
以テ全員無財產トシタルモノ日日生活ハ寧ろ今日ノ東京都民
ヨリ幸福トシテPW收容所ニ收容シラレ沖繩出身ノ軍人(含
格後)ハ一月以降全員開放セラレ青年層不足ニヨリ女護身員
願テ未婚女性ハ大歡迎ヲ受ケタリト云フ沖繩 明知等々

五

言ハキ人ハ前用南中學校校長某氏ナリ最近ハ米單給與材
揚陸ニシテ復興計畫ハ着々進ミ沖繩人ノ思想ハ現在大別

可能
三三有リ

シテ三ニ別レ、青年層ハ吾々ハ飽クマテモ日本人ナリ、何将カハ必
 ス日本ニ復帰スヘシト希マシ、有シ、壮年層ハ沖繩、沖繩
 自身ニ獨立シ、日、米、両方トモ頼リニセズト言ヒ、老年層ハ「ヤン
 キー」様ヲナリト聞ケモ、米ノ実物宜徳ニカクテハ三層トモ然テ
 「ヤンキー」様ヲキラシヤト思ハル、米ヲキニシモ非ズ、尚十一月中旬南
 鮮地方ニ疎開シアリシ中、婦女子ハ全員米船ニ歸去
 セリ。住民間ニ軍票流通シ非ズ。内地、邦人ハ石川、日本軍人
 收容所ニ收容サレアルモノ、数僅少、一部ハ軍人ニ混ジ、還送セラレタルモ
 ノ、如シ、朝鮮人ノ慰安婦、内地婦人、極ノ僅少、生存者アルヤ疑ハシハ
 地方人ト共ニ收容セラレリ。

尚今後問題トナルベキハ、内地ノ將校、下士官、兵ニシテ、便衣ヲ着シ、住民トシテ
 投降シ、地方人、收容所ニアリテ、（CP）教員、（CP）既給所役員等ニナリ、沖
 繩人ト結婚シ、沖繩人ト軍人、收容所ニ移テ、タル者アレド、未ダ多数潜入
 シタルモノ、如シ

(中略)

昭和二十一年一月九日

馬堀收容所ニテ

③南部セレベス賣淫施設（慰安所）調書「セレベス民政部第2復員班長」（昭21・6・20）

南部セレベス
賣淫施設（慰安所）
調書

海軍

人事部長

人事課長

部長

二六三 第四節

昭和二十一年六月二十一日

セレブス民政部 第一復員班長

海軍司政官

復員廳 第一復員局長 殿

セレブス民政部 第一復員班員 復員ニ

關スル 件 報告

昭和二十一年四月二十四日英印軍命令令、依り南部也
レブス民政部要員中各縣、分縣監理官、警察、密職、員、
刑務所、開作、職、タリ、シ、モ、ハ、引、揚、最、終、船、上、殘、留、ス
ベキ旨命令セララル

民政部 長官ハ、殘留先任官タル海軍司政官

シテ、第一復員班ヲ編成セシメ、其ノ長ヲ改命、依ッテ

勢の運送等元二〇日附一開云云仲一田答

昭和二年五月三日

民政部第二機曾班長

第一軍一級別表

南軍之指令會派檢察官命令、依之當該施設調査ノ
指令、甚也 民政部開場中、場ノ開シ、殘存者、休中
極力調査シ、之ノ責任者既ニ帰還セシ、為ニ確シ
期シ難ヤ、又 概要夫ノ如シ

(1) 民政部用程機設、使用セシ、之ノ
係女子等ノ多ク、
記

婦女ノ數
二二共三
名

(ロ) 組織及之用る責任機關並に責任者(長官階級現在地)

施設設置ノ許可並に監督ニ形式的ハ民政部政務部

第一、第三兩課ノ通シ民政部長官之ヲ行ヒ、凡そ官

際止 婦女ノ募集並に雇傭契約(注)ハ民政部所定

■(帰遣) 及官署団体 ■ (帰遣) 之ヲ行ヒ

各地方施設に配属シ、而シテ婦女ノ配属は、

維持程度ハ左表ノ如ク一般邦人並に原現民

之に劣リタリ

尚各地方施設に對シテ婦女ノ保護・收入支出・休養

給與等^(通)監督、凡そ衛生等ノ取締指導等

關シテハ各地方官監督及之ヲ行ヒタリ

(1) 勞働婦ノ生活方格、給費、報酬

者俸、開シテハ施設、依リ多少ノ差異アリ也
大畧左記ノ如シ

(1) 生活方格

~~施設~~ 機關、於テ施設セシ一定ノ家賃、床位ニ

食事、休養、外出等自由トス

(2) 給費

生活、必要ナル衣服、寢具、食器類、家賃

其外、水道料、使用人給料、医療等

~~施設~~ 機關、於テ負担スルノ外、糧食、住居

シテ、不賸、家族等ノ吉凶、為金、錢、必要ノ環

令々贈與ス

(3) 報酬

税金ノノ又本人ノ所得トス

尚本人所得外ノノ又金額ハ前記支給ノ者ニ

残余アル場令々規程ノ條ノ及政令ニ一節

細入見セテ

(二) 同止同務長格種格(別人々数)

トラジヤ 格 三

マシダニ 格 四

カサシ 格 四

キヤウシ 格 五

キヤウシ 格 四

キヤウシ 格 (コト不サシ) 三

シヤウ 格 二

マカサシ 格 五
備考マカサシ中ハ責任者ノ位ニシテ

同和 不 三

官長部取民

許可権者

長課一第部務取
長課三

監督権者

[Redacted]

募集契約者

借付権者

ラツパン施設

[Redacted]

管業団 帰還

バレバレ施設

[Redacted]

管業団 帰還

レンカン施設

[Redacted]

管業団 帰還

ボネ施設

[Redacted]

管業団 帰還

ブルノンバ施設

[Redacted]

管業団 帰還

ボンマイ施設

[Redacted]

管業団 帰還

マロス施設

[Redacted]

管業団 帰還

ゴア施設

[Redacted]

管業団 那波
北土

マカ子心施設

第一
第二
第三

[Redacted]

管業団 那波

[Redacted]

管業団 那波

1475-1480

市 豪徳施設ノ所在並場所別従業員及従業員ノ数

パレパレ	シニカン	ボネ	ブンクンバ	ボンタイン	マロス	ゴア	マカザン	マカザン	マカザン	施設ノ名称
パレパレ	ワチラネシニカン	ボネ	ブンクンバ	ボンタイン	マロス	ゴア	マカザン	右同	マカザン	所在
パレパレ	ワチラネシニカン	ボネ	ブンクンバ	ボンタイン	マロス	ゴア	マカザン	右同	マカザン	地
										従業員
								不明		此ノ男子
三	三	一	三	二	三	一				豪徳婦
一七	五	三	一四	一〇	六	五	約二〇	約四〇	約三〇	
トシヤニ	マカ	ジヤ	トラ	ジヤ	トシ	トシ				職員

ラツパン	シテレンラツパン	一	三	九	トラヤク
ピンラン	ピンランのね	一	一	七	トヤクニ
エンレカン	エンレカンのね <small>カマシ</small>	三	三	四	カマシ
マゼネ	マゼネのね	一	一	四	マゼネ
ボレウリ	ボレウリのね	一	六	六	ボレウリ
パロホ	パロホのね	二	六	六	パロホ
マカレ	マカレのね	一	五	一〇	トラヤク
マザンバ	マザンバのね	一	三	五	マザンバ
マリリ	マリリのね	一	一	四	マリリ
ウオート	ウオートのね	一	一	五	ウオート
サライマル	サライマルのね	一	一	二	サライマル

貴淫施設ニ關スル調査報告

第二軍司令部

備考	部 政 民										海軍	陸軍	警察	軍司令部	軍司令部
	右同										同右	同右	同右	同右	同右
責任者、調査者、大部、分、記、日本、販、文、書、類、一切、記、録、等、項、ノ、記、載、セ、ル、コト、ヲ、期、ス。															

精 要

④ 法務部 (GHQ) 少佐からの記録要求の件 [「終戦連絡事務局連絡官」(昭22・1・9)]

終戦連報甲第一五七八號

終戦連絡事務局
少佐 連 絡 係
時多一四〇日 担任

昭三・一
課九

要回答

法調

事務記帳係

係通

等の記録要求の件

○ 法務部

○ 一月二十一日

○ 少佐 (一月七日附)

○ 乙

○ 一九四六年 五月九日に G-1-2 號で南オホシロ帰途に

菅長

LN-1-Z 四七五

二十回才位 加藤山學生

彼の文は 一九四〇、四一、四二年

に海軍島で慰安所を経営してゐた

彼は四二年三月—七月の間 海軍島のオホシロ航海上に

四二年八月 彼はジャバスマランで [redacted] とし [redacted] 慰安所 [redacted] 置しておけ

四四年の半年は又は後半期頃 洗動しておけ

彼は東ジャバに移動したと思ふ [redacted] 戦後ジャバ

から帰った [redacted]

LS - Z 四七五二

三十三才位 新嘉山 学生

四二年七月十日 上海南島からジャバに航海した

同年八月十日 ジャバスマランにきて [redacted] レヌトラン [redacted] 廿

及慰安所 [redacted] ソワレを経営しておけ 終戦後

四五年十月スマランにおけ [redacted] レンガポールを建て [redacted] ヨソウカ

LS - Z 四七五三

(又は [redacted])

(鳥野鴨にあり)

マレー意兵隊と

四六年十二月三十日 大阪で捕へられ現在

平成5年10月8日 ⑤
厚生省社会・援護局「俘虜名票」に関する調査結果概要
「厚生省社会・援護局」(平5・10・8)

「俘虜名票」に関する調査結果概要

1 調査の経緯

- (1) 朝鮮半島出身旧軍人軍属の資料の一つである「俘虜名票」について、数の確認等最終点検を行っていた際、その職業欄に慰安婦に該当するのではないかとと思われる記述が見つかった。
- (2) このため、「俘虜名票」の全数について、精査、点検を行った。
- (注) 「俘虜名票」は、連合軍作成の英文資料で、個人ごとに出身地、職業等を記載した個人別カードである。

2 調査結果の概要

- (1) 「俘虜名票」総数
164,395名
- (2) 男女別内訳
〔男〕163,566名
〔女〕829名
- (3) 女性の出身地別、職業別内訳

朝鮮半島	19名	台 湾	24名	日 本	786名
COMFORT GIRL	10	PROSTITUTE	1	COMFORT GIRL	19
COMFORT UNIT	1	その他	23	その他	767
その他	8				

(注) 職業は、職業欄の記載によった。

照 会 先
社会・援護局援護企画課
担当 課長補佐 長門利明
TEL(代) 03(3503)1711
(内) 3409
TEL(直) 03(3591)9866

(参考)

女性の出身地別職業一覧

(1) 朝鮮半島出身

Occupation 欄の記載 (職業)	件数
Comfort Girl	10
Comfort Unit	1
Farmer	2
House Wife	1
Nurse	1
Waitress	1
None	3
計	19

(2) 台湾出身

Occupation 欄の記載 (職業)	件数
Nurse	10
Farmer	5
Waitress	3
House Maid	1
House Wife	1
Prostitute	1
Sales Girl	1
Typist	1
None	1
計	24

(3) 日本出身

Occupation 欄の記載 (職 業)	件 数
Nurse	435
Typist	44
Office Worker	38
Clerk	33
Student	32
Waitress	20
Comfort Girl	19
Secretary	13
Geisha	9
House Wife	9
Farmer	6
Office Clerk	5
Sales Girl	5
Telephone Operator	5
Army PX Worker	4
Dietician	4
Company Employee	3
Red Cross Nurse	3
Army Nurse	2
Cook	2
Factory Worker	2
Government Worker	2
House Keeper	2
Nurse Medical Corps	2
Nurse Aid	2
Restaurant Owner	2
Seamstress	2
Stenographer	2
Student Nurse	2
Tea House Employee	2
Army PX Officer	1
Bank Employee	1
Bicycle Shop Owner	1
Blue Printer	1
Cafe Worker	1
Canteen Worker	1
Cashier	1

Occupation 欄の記載 (職 業)	件 数
Chemist	1
Clerk In Store	1
Entertainer	1
Factory Employee	1
Factory Interpreter	1
Finance Worker	1
Hospital	1
House Keeping	1
House Girl	1
Interpreter	1
Maid	1
Medical Corps	1
Merchant	1
Musician	1
Nurse Instructress	1
Nurse Red Cross	1
Nurse School Graduate	1
Nursing	1
Nursing School Grad	1
Nursing Assistant	1
Pharmacist	1
Pharmacy	1
PX Employee	1
Red Cross Worker	1
Sales Woman	1
Store Employee	1
Student Of Red Cross School	1
Student Teacher (Japanese)	1
Supply Work	1
Teacher	1
Tea House Matron	1
Tobacco Maker	1
Undertaker For Japanese Army.	1
Weaver	1
Worked In Restaurant	1
Worker	1
None	32
計	786

【編者】 韓女性のためのアジア平和国民基金編

『従軍慰安婦』関係資料集成④

国立公文書館所蔵資料／大英帝国戦争博物館所蔵資料
厚生省関係公表資料

一九九八年七月二十日 第一刷発行

揃定価 一〇〇、〇〇〇円(税別)

後藤 乾一

編集代表 高崎 宗司

和田 春樹

装 幀 榎 三谷 靱彦

発行者 北村 正光

発行所 饅龍溪書舎

東京都板橋区南町43-4-103

郵便番号 一七三〇〇二七

電話 〇三―三五五四―八〇四五(代表)

FAX 〇三―三五五四―八四四四

振替 〇〇―二三〇―一七六一二三

印刷 勝美印刷 製本 岸田製本

検印廃止

ISBN4-8447-3474-1